明治四十四年八月一日第三種郵便物認可
明治四十五年五月十五日發行
（毎月一回十五日發行）

廓清

第二巻第五號

社會之改良・風紀之廓清・男女之貞潔・家庭之和樂

東京 廓清會本部 發行

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

會員諸君に望む

吾人は、吾徒の主義主張を傳へ、輿論の勢力を作らんが爲め、毎號本誌を普く天下に頒布せむ事を欲す。然れどもそは元より本會財政の許すところにあらず、これ常に吾人の遺憾とする所なり。於茲吾人は、幸に本會の趣旨を賛し、吾人と共に此一大人道問題解決の爲に貢献せられむとする諸君に對し毎號諸君の讀み了られたるものを以て知人より知人へ轉送回覽せしめられむ事を願はむとす。蓋し如斯にして一冊の本誌を數冊と同一の效力を生ぜしめ幾十萬人の前に吾徒の主張を陳述するの效果あらしめむ事は、甚簡單にして而も有效なる運動法の一たるなからむや。冀くば我徒の微衷を諒とし、協力一致、輿論喚起勢力振作の一助として諸君の實行を望むや切也。

東京市神田區美土代町三丁目三番地

廓清會本部

廓清會綱要

（一）**本會の目的**　は男女間に貞潔の德操を進め、社會の風紀を廓清し、家庭の和樂人生の幸福を增進するにあり。而して公娼制度は此目的に反する惡制度なるが故に之が全廢を期す。

（二）**入會の心得**　右の趣意を賛成するものは男女を問はず何人も入會することを得。入會希望者は住所、氏名、職業、年齡を記して本部又は支部に申込むべし。（賛助會員は口數を明記す）

（三）**會員の特權**　會員には本會機關雜誌「廓清」を毎號寄贈す。

（四）**會員の種類**　會員に二種あり。

一、**賛助會員**　本會の維持費として毎月一口（二十五錢）以上を出資するもの。

二、**正會員**　毎月金五錢を納むるもの。

（五）**會費の納入**　會費は郵便爲替、又は振替貯金東京一九五三三番益富政助に拂込まれたし。但し郵便集金にて集金する時は集金料金五錢を添加せられたし。

（注意）前項振替口座は、必ず一九五三三番益富政助氏宛とし、裏面に廓清會々費と明記せられたし。

廓清會本部役員

顧問　伯爵　大隈重信
會長　島田三郎
副會長　矢島楫子
同　安部磯雄
會計　山本邦之助
常務理事　益富政助
理事　内ヶ崎作三郎
同　鵜崎庚午郎
同　矢吹幸太郎
同　山田彌十郎
同　小松武治
同　小崎千代子
同　島貫兵太夫

廓清　第二卷第五號

明治四十五年五月十五日納本　一部定價金六錢
明治四十五年五月十五日發行　（毎月一回十五日發行）

編輯兼發行人　東京府下大久保百人町百三十八番地　益富政助
印刷人　東京市神田區三河町一丁目十六番地　小林照雄
印刷所　東京市神田區三河町一丁目十六番地　丸利印刷所
發行所　神奈川縣川崎町砂子百三番地　[illegible]行所

クラブ新聞

禁轉載

- クラブあらひこ
- クラブおしろい
- クラブはみがき
- クラブ美身クリーム
- 煉香油クラブ美髪用ポマード

本店新案

らしく主義

男は男らしく女は女らしくと云ふ●●●らしく主義は何事にも發揮して欲しいものである。男が女に、女が男になつては大變なやうに素人北粧と俳優の化粧とが混淆になつては愈以て大變である。

素人は素人らしく、俳優は俳優らしくして始めて本分の立つのであるから、素人でありながら俳優化粧を眞似るのは本分に反した所爲である。生命と品性とを沒却したものである。自己を侮蔑したものである。之加俳優化粧と素人化粧とは全然其目的を異にすると同時に、俳優化粧には素人化粧に用ふ可からざる有害なる材料を使つて居るのも隨分あるやうだ。それ故に素人が俳優の化粧法を眞似ては皮膚を害するのみか、却て識者の物笑ひを招くに至るのである。

日本の婦人が昔から柔和を尙ぶが如きも、畢竟此のらしく●●●●●主義を實行せんとしたものである。而して婦人が婦人らしかるべき爲めに化粧と云ふことを怠ることが出來なくなるが、偖素人の婦人らしい化粧はと云へば、今日最も上中流社會に歡迎されつゝある、クラブ白粉の薄化粧が最も高尙優美にして、而も理想に近い完全な素人化粧である。

白粉に十種あり、然れども貴婦人令孃の使用に堪ゆるは、クラブ白粉のみ

美しい顔

顔の輪廓には好不好があつて、瓜實顔がよいと云ふ人と丸ポチヤが好いと云ふ人とがあつて一定した規準がないが、美しい顔は肌理が細かで血色が鮮やかで光澤があつて、而して初初しく見へるを云ふ四要件を備へねばならぬ事には何人も異論はあるまいが、此四要件を完全に充實せしめるには、クラブ洗粉クラブ白粉クラブ齒磨の愛用が、何よりも大切である。

京都だより

▲京都は御承知の山紫水明天下に冠たる所にて候而して此の天下の風景美を集めたる地に生れたる京都の女は國粹的美を以て千有餘年の史上を飾り居候。

▲『蒲團着て寢たる姿や東山』てふ幽婉な風景の中に鴨川の清流を汲んで育つた京の女が濃麗なる姿を美人史上に輝したる事偶然ならずとこそ存せられ候。

▲かゝる優婉な美しき姿を有しながらその化粧法の垢ぬけのせざる點に於て折角の名珠も人形式とか靜止的美とか批評せられたるこそ殘念に存じ居候。

▲然るにクラブ白粉クラブ洗粉の流行して以來京美人は平和な鴨川の都に生れたらしき幽婉な一種いふべからざる床しさと生氣とを添へ來り候依て京美人は今後幾千年の美人史を飾ることゝ喜び居り申候。

營業科目

○英國製米國製　紳士用實用自轉車各種

○二葉屋實用新案　運搬用自轉車

○英米獨佛製　自動自轉車

○歐米製　自動車

○自轉車及自動車用　パーマータイヤ

○英國製　自轉車用イーデーコースター

○人力車用　ハートホードタイヤ

○二葉屋製新案　人力車

本店　東京赤坂溜池

支店　東京京橋疊町　大阪淀屋橋筋

合資會社　二葉屋

振替貯金口座三九三三番

本店電話　新橋　一六一番　同「長」一六二番

支店電話　東京京橋　七三〇番　大阪本局　二〇六七番

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

教報

健全なる信仰の友、善良なる宗教雑誌、愛に富める人生の慰藉者を求めらるゝ兄姉諸賢の爲に敢て『教報』を提供す

發行	毎月二回（五日、廿日）
定價	一部 金參錢（郵税共） 一年分 金六拾五錢（同）
發行所	横濱市青木町三百三十九番 教報社 振替口座一七〇一番

米國製正十四金ペン

インク止裝置付



ワンダーマン萬年筆

最新輸入實用堅牢品質保險

WUNDERMAN FOUNTAIN PEN CO.S.F.U.S.A.

14k. GOLD NIB (GUARANTEED) ADJUSTABLE

破格割引 實價金貳圓四拾錢 / 同 金貳圓六拾五錢

送料 內地金十二錢 / 海外金三十錢

直輸入元

東京銀座四丁目壹番地

矢沼商店

電話京橋二〇三六番 / 振替東京二〇一八二番

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

●家庭に缺ぐ可からざる最良の圖書●

最新刊

共立女子職業學校教師 伊藤文子、遠藤錠子、高田久子共著

裁縫おさいく物 續編

和裝美製全一冊
正價金壹圓二十錢
郵稅金八錢

本書は各女學校の手藝教材及生徒成績品展覽會の參考資料とし廢物の布片にて有益の家庭用具を製し手藝の趣味を鼓吹し實業嗜好の念を增進し徒手無聊の弊を矯め娛樂の道を開き女子本來の美的精神を發揮し家庭に經濟的美感を增さしむ本書の目次の大要は小袋、針刺、腕附、手提袋、ペン掛、置物、巾着、玩具、涎掛、小供足袋、香入、珠瑠入、お鈴臺、雜種等八十三種 附錄原型六十六種口畫石版着色十三度刷二枚寫眞版十頁を挿入し說明最も丁寧を極む

伊藤文子 遠藤錠子 高田久子 共著

裁縫おさいく物

第十版

和裝美製全一冊
正價金九十錢
郵稅金八錢

山田・種村共著 **袋物細工之枝折** 和裝全一冊 正價一圓十錢 郵稅八錢

森本義子著 **家庭編物全書** 和裝全一冊 正價八十錢 郵稅八錢

金子・三好・石川共著 **家庭造花術全書** 和裝全二冊 正價一圓六十五錢 郵稅十二錢

寺西絲子著 **女子手藝九重編造花法** 和裝全二冊 正價各七十五錢 郵稅八錢

國分操子著 **家庭日用婦女寶鑑** 和裝套入全三冊 正價五圓五十錢 郵稅十六錢

寺崎廣業畫 **愛兒の紀念帖 我子の生立** 和裝套入全一冊 正價四圓五十錢 郵稅十二錢

大澤博士著 **通俗結婚新說** 和裝全一冊 正價二圓二十錢 郵稅十二錢

●圖書總目錄郵券二錢送附あれば呈す●

吾妻博士著 **お產の心得** 洋裝全一冊 正價八十錢 郵稅八錢

大澤博士著 **生理學上より見たる婦人の本分** 洋裝全一冊 正價五十五錢 郵稅六錢

三輪田眞佐子著 **女訓之栞** 和裝全一冊 正價四十五錢 郵稅六錢

伊澤峰子著 **家庭實用小兒洋服裁縫全書** 洋裝全一冊 正價一圓三十錢 郵稅八錢

峯翁・峯吉菊子共著 **家庭十二ヶ月料理法** 和裝全二冊 正價各五十錢 各郵稅八錢

宇野彌太郎著 **西洋料理法大全** 洋裝箱入全一冊 正價二圓八十錢 郵稅十六錢

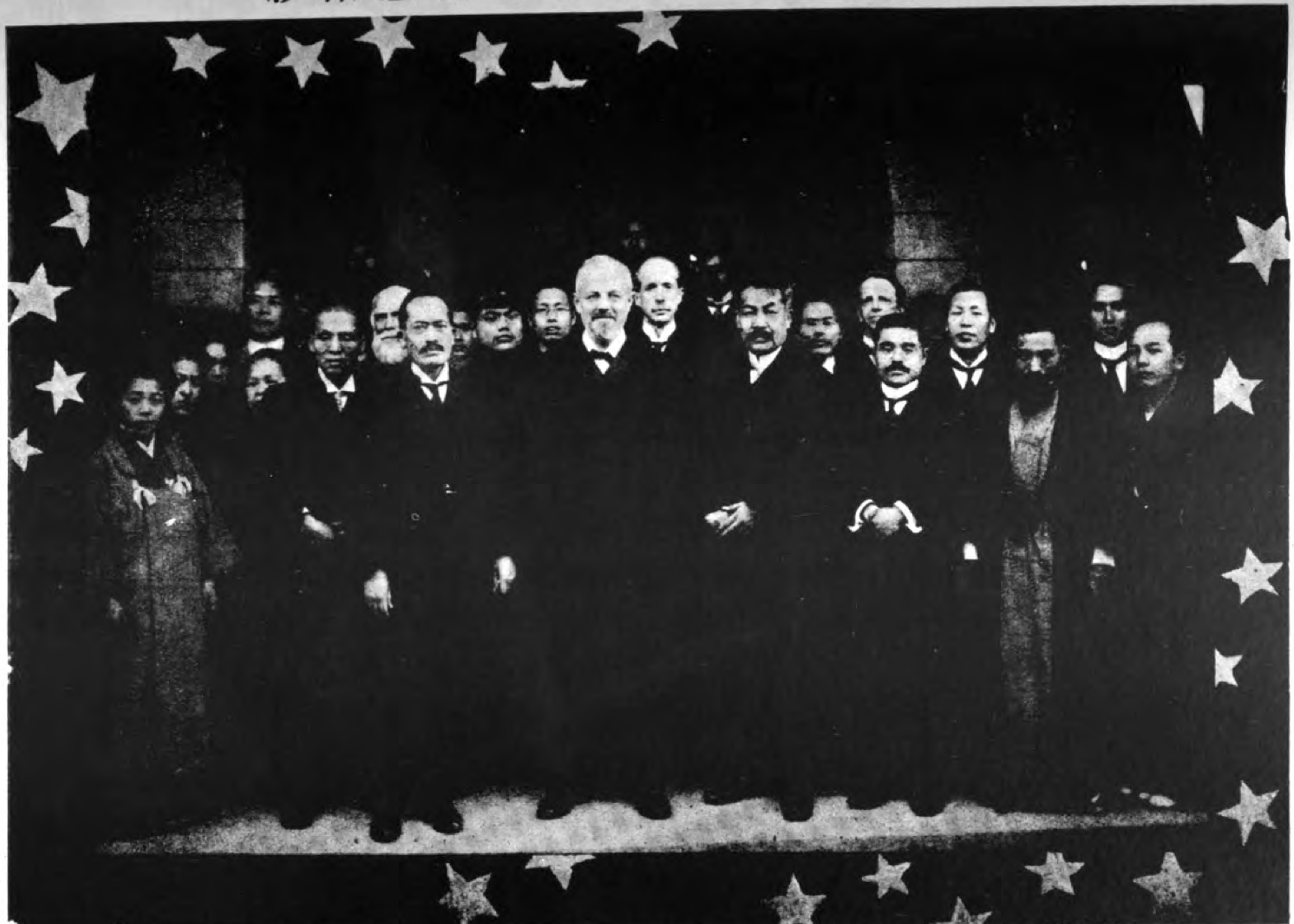
小野鷲堂著 **增訂女子手紙之文** 和裝全一冊 正價四十五錢 郵稅六錢

●尙此の外婦人專用の圖書各種あり●

●發行所 東京日本橋角 大倉書店 振替東京二三八番 ‖ 賣捌全國各書店●

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

京都廓清會支部發會式紀念撮影



西田氏　金富氏　服部代議士　グレゴリー氏　原田氏　松浦博士

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY



廓清會とは何ぞや

(其　五)

風教改善會

(一)　三度び内務省の三教會同に就て

我々は前號及び前々號に於て、内務省の三教會同問題と、我が廓清會との關係に就て、論じておいた。抑々三教會同の趣旨は『宗教本來の權威を尊重し、國民道德の振興を圖り、社會風教の改善の爲めに、政治、宗教、教育の三者各々その分界を守り、同時に互に相協力し、皇運を扶翼し、時勢の進運を資くるにあり』(三教者會同の決議文の一節)と云ふ。而して我々は此の趣旨に對しては、滿腔の誠意を以て贊成を表するものであつて、我が廓清會は、とりも直さず政府當局者の此等の希望、此等の目的を實現せんが爲めに、努力するに他ならないことを述べた。即ち廓清會は宗教本來の權威を尊重せんとする宗教尊重會である。國民道德の振興を圖らんとする道德振興會である。而して同じく三教會同に關聯して今一事說き洩すことの出來ないのは『風教改善會』としての廓清會である。吾人は本號に於て、それに就き少しく信ずる所を述べなければならぬ。

(二)　風教問題は所詮貞潔問題なり

云ふまでもなく風教と謂へば、男女關係を意味するのである。而して風教問題の解決は先づ第一に男女の關係を正しうすることでなくてはならぬ。恐らくは當局者の風教上の苦心と云へばそは實に男女問題に外ならぬであらうと思はれる。所謂風俗警察とは、淫賣取締を意味するやうな次第であることから推察しても。

然るに風俗の取締りに苦心し、風教の改善を望む所の政府當局者──換言すれば男女關係の正しからんことを望む當局者が、一方に於ては男女關係紊亂營業とも稱すべき貸座敷營業を許可し、男女の不品行、不道德を公權を以て差許すのみか、警察權保護の下に淫蕩に耽らしめ、謂はゞ神聖なる警察官をして道樂者の野合の取持ち、男女の猥褻行爲の番人たらしむるが如き、奇怪なる制度を設けておくといふことは、何としても矛盾の甚だしきもので、迚も常識を以て考ふることの出來ない話である。而して斯の如き奇怪なる、而かも愚かなる制度が如何なる結果を社會に及ぼせるかを見よ。

(三)　嗚呼驚嘆すべき賣淫業の繁昌

現代の如く風紀の紊亂其極に達したる時代は多くはあるまい。之は粋客とかいふ人々の言ふが如く、『日の本は天の岩戸の昔より女ならでは夜の明けぬ國』などと空嘯いて、恬として省みず、等閑に附して去つてよいことであらうか。

見よ、之を内にしては淫風日にます〱盛んにして、或る大都會の如きは旅館の數よりも、貸座敷の方が却つて多いといふ始末であり(別表參照)或る遊廓では娼妓の勤續表彰會を開いて、娼業奬勵策とするかと思へば、或は『娼妓無料券』を發行して、景氣を付けんと計畫する遊廓さへある。(二月十三日名古屋『新愛知』)或は遊廓の移轉祝賀會を三日間も續けて(福岡柳町遊廓)盛なるデモンストレーションを試みるかと思へば、其移轉祝會には市長其他土地の名譽職官吏の祝辭朗讀あり、而して、神聖なる小學校の教室は其等祝會の來賓(?)のために接待所となり、祝會濟めば今度は娼妓慰勞會ありて二輪加手踊の催し賑々しく其が濟むと再び打續いての競馬會があつたといふやうな次第である。

更に又今日の藝妓なるものが、最早娼妓と何等擇ぶべき醜業婦たる事は萬人の認むる事實なるに、其藝妓に華族の娘がなるかと思へば、家老の娘がなり、維新の志士の孫女又藝妓になれば、法學士夫人が良人を離別して新橋に左褄を取るといふ。斯の如くして家庭には幾多の悲劇を演じ、甚だしきは年も五十路の分別盛りの老人が其馴染める若き藝妓を受出し、彌入籍の問題になつて見ると、驚くべし、其妓は己が實子(幼少の折養女として他に遣はし於ける)なりし破倫の珍事さへある。而して此等國民の不道德は更にまた世界第一の死產多き國民となるに至つた(別項『死產は日本が最も多い』參照)

(四) 日本は世界第一の醜業國なりとは眞乎

又之を外にしては今や淫奔國としての日本國民の名聲(?)は、全世界に轟いて、何と言つても日本は世界第一の醜業婦國となつた。他國にも醜業婦はある。然しながら日本程多數の醜業婦を海外に輸出して居る國が何處にあるか。而して之等の事實の爲めに、善良なる日本國民が、如何ばかり列國民の侮蔑を蒙むつて居るか殆んど計るべからざるものがある。否、文明國民から侮られて居るばかりではない、支那朝鮮臺灣等の新領國民からまで馬鹿にされて居る。實際日本の風習は、支那、朝鮮、臺灣の蕃民だも有せない處の蠻習である。(前號參照。尙對外問題としての廓清會に就ては他日項を改めて論ずるから茲には詳しくは曰はぬ。)

成程風紀紊亂の狀態、それは西洋東洋の區別なく、文明非文明の別ちなく、何處にも存する社會的罪惡であらうが、然し他國にあつては、大抵何處に於ても罪惡として存して居るのであるが、獨り日本に於ては營業として存して居る。他國にありては惡事であるか、日本に於ては政府が公認せる國民の公然たる稼業であり、營業である。

前號にも云つたやうに、臺灣の土蕃の間にすら、娼妓及び

之等類似の職業を營んで居る者は、人非人として之と交はらず、殊に良民は之等の者とは決して婚姻などしない風習であるのに、我が日本に於ては、藝娼妓等の淫賣婦を請出して之を妻とすることが、寧ろ一種の誇りを以て行はれて居るではないか。ツンベルク氏が『余の最も怪む處は、此等の娼婦がその賣られて幼時より養育せられし多年の賣笑生活の後、再び社會の人となり、往々にして又結婚するも、人之を見て毫も不名譽とせず、全然奇しの狀なき一事にあり』と云つたのは、當然の疑問でなくてはならぬ。

（五） 言語に顯はれたる大日本國民の道德觀念（一）

如何に日本國民が淫逸の國民であるかは、日本人の言語そのものが證明して餘りある。今其數例を左に揭げて見やう。先づ日本に於ては、元來男女間の事を『色』と云つて居る、そこで『色男』『色女』『色文』などの言葉が生じて來る。之に相當する英語を求めて見れば love と云ふ言葉である。隨つて、『色男』を lover『色女』を lover『色文』を loveletter と云ふが如くである。それまでは兩語とも對照が出來る、が茲に恥かしいことは、日本人は遊廓其他賣笑婦の類の住む場所を『色町』と呼んで居る、之を前の例に徵して英譯して見たら Love Town とか Love Street とか謂ふべきであるが、さういふ言語は決してない。然らば日本の所謂『色町』のことをば何というかといふに、則ち Prostitute quarter と云ふ。之は『淫賣窟』「私窩子」等と譯すべき言葉であつて love なる語義よりその意の遠ざかること、天地霄壤の差である。即ち love と云ふやうな神聖な言を淫賣窟に與へて、平然として居るのは他に例のないことであらう。加之今や外國では又此 Prostitute quarter と云ふ代りに、『ヨシワラ』と呼ぶやうになつた。吉原は世界第一の Prostitute quarter とせられて居るからである。）

それで可笑しいことは、古い話ではあるが、嘗て內務省の長官であつた吉原三郞といふ人が、外遊した時、日本から來た紳士で吉原君と云ふ人が居る。淫賣窟君とは面白い名ではないか、之は何か淫賣窟に關係して居る人であらうなどと外人から飛んでもない誤解を受けて大分弱つたといふ話である。何にせよ love と Prostitute とは多大の相違であるが、日本では同じやうに用ゐられて居る。本誌第一號に記した醜業婦の寫眞を美人寫眞など稱して、醜の字と美の字の區別を知らいな國民も他には餘りあるまい。

（六） 言語に顯はれたる大日本國民の道德觀念（二）

又日本では遊廓のことを、花柳の巷なぞと云ふ。『花は櫻木人は武士』と、日本武士を稱讚する心持で、『花は紅、柳は綠』などゝ淫賣窟を尊稱するのであらう。或は一般に淫賣婦の出沒する所を『花街』と云ふ。英語に飜譯して見れば Flower Street である。Prostitute quarter = Flower Street といふ同義語は到底外國には無き事かと思ふ。或は藝娼妓を問はず、賣笑婦をば

『解語の花』と言ひ、或は『花魁』などゝ云ふ。花魁とは花の王の事である。英語で云つて見れば Queen of Flower である。之れ實に驚くべき事ではないか Prostitute に對して Queen of Flower の尊稱語を呈するものは、所謂大和民族の外にはあるまい。

まだある。花魁の最も繁昌するのを太夫といふ。露骨に謂へばヨリ多く淫賣するもの、それが太夫である。然るに『太夫』とは、中古に於て五位の通稱である。(公卿の子は童卿より五位であつたから無官の太夫などゝいふもあつた)。又たは大名の家老を太夫とも云ふ。要するに大變な尊稱であつたが、日本人は其の尊稱をば、娼婦に與へて憚らない。それから又同じく娼婦のことを『局』と云ふ。金澤博士の辭林によれば、局とは宮中にある各々仕切りを隔てゝ設けたる部屋とあり、又の意味は、その部屋を有して居る女官の事、第三には『部屋を有したる娼婦』とある。そこで少なくとも日本の國語に於ては、宮中女官と娼婦と等しいのである。又同じく金澤博士の辭林によれば、『姫』と云ふ言葉に對して(一)女人の敬稱とあり(二)貴人の娘の稱とあり、(三)遊女の稱(京阪地方にて)とある。井上十吉氏の和英辭書に仍れば、姫君の事を Young Prince とあつた。而して姫君とは女王殿下に上る尊稱である。同一の言葉が或る場合には女王殿下の稱號となり、或る場合には淫賣婦の稱呼となる。恁麽事が他國に多く例のある事であるか、言語學者に聞いて見たいものである。

そも〳〵言語は思想を發表する器である。換言すれば思想の表現である。して見ると以上の言語に徴しても、不節操、賣淫、姦淫に對する日本人の思想と態度が分るではないか。而して外國語と比較して、如何に驚くべき相違あるかを思ふと、實に〳〵慚愧の至りに堪へぬのである。

(七)● 言語に顯はれたる大日本國民の道德觀念(三)

それから又日本に『遊ぶ』と云ふ言葉がある。『父在せば遠く遊ばず』『笈を負ふて帝都に遊ぶ』の類である。遊ぶと云ふ言葉は、斯くの如く高尚なる意味に用ゐらるゝかと思へば、又一方に於ては、不義淫蕩に耽ることに對して、同じく遊ぶと云ふ。西洋人が Prostitut Quarter 即ち淫賣窟と稱して居る場所をば、日本では『遊廓』と曰ふ。則ち遊び場所の謂である。道樂者の事を『遊客』といふ。遊ぶお客樣である。娼妓の事は『遊女』『遊君』などゝ言ふ。(聖書にすら娼婦の事を『あそびめ』と讀ませてある。)忠君愛國の文字を以て神の如くに思つて居る日本人が、『遊君』なる語を以て淫賣婦を呼んで平然として居るかと思へは、淫奔の行爲をなすことを以て『遊興』と云ひ遊び興ずる事位に考へて居る。

要するに日本に於ては、淫事は此の民族の遊び事である。マ、事である。遊戯である。ベースボールや、テニスと同一種類のものと心得て居るらしい。日本類語辭典に曰く『遊び』名詞なり。酒食の樂み、茶屋遊び、待合遊び、大盡遊び、初會遊び、散し遊び馴染遊び(說明もあるが到底筆にするに忍

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

びぬ）などゝ、種々なる解釋が附いて居る。そこで今度は、英語の字引に據り『遊び』といふ字義を質して見ると、到底如斯馬鹿々々しき解釋と意義を見出すことは出來ない。即ち『Play』の條に曰く『（一）遊び、戯れ、遊戯。（二）笑談、おどけ（三）カケ事、賭博。（四）扱ヒ。（五）變幻。（六）行動、取斗ひ（七）脚本。（八）劇、芝居。（九）彈奏、奏樂。（十）運動。（十一）餘裕。』などとある（模範英語辭典による）が、娼婦に戯るゝ事をplayとは、どうしても曰はぬ。

之を要するに、日本人が古來此の男女關係のことに就て、怎う云ふ思想を有つて居たかは、此等の言語に就て見ても、明らかに分る事で、誰が何と云つても、此の點に於て、我國民は何れの國民よりも、最もだらしのない、最も自墮落な國民である事は掩ふ可らざる事實である。

（八）言語に顯はれたる大日本國民の道徳觀念（四）

たゞに一般の世俗が斯かる謬見を有して居るだけならばまだしも、國民を指導し誘掖して、道徳的にも、智識的にも、向上せしめねばならぬ責任を有する政府當局者すら、等しくその憎むべき謬想に捕はれて居るに至つては、實に言語同斷である。見よ、政府は彼の賣淫の事實を公許するに、『貸座敷營業』なる語を以てする。座敷とは抑も何であるか『社會事彙』に因れば、之は『書院』若くは『客間』のことで、始め貴族の家の客室を稱ひ、それより住居の内に賓客を請ずる室を『座敷』と云ふやうになつた。（英語の所謂Parlor）然るに斯くの如き尊むべき高尚なる名稱を以て、西洋人の所謂Prostitute Quarter（淫賣窟、私窩子）に與へて憚らぬのである。先日『カナダの魔窟』と云ふ本を見ると、日本の醜業婦がアメリカに於て、汽車の中で賣淫を行つて居るといふことが書いてあつたが、内地では、書院、座敷ですら淫賣するやうな國民であるから、汽車の中なんどは何でもあるまいと、或外人は笑つた。何といふ情ない事であるか。

（九）嗚呼世界第一のダラシなき國民

讀者よ、吾人は餘りに淫猥なる言語の詮議立てに時間を費した。而して紳士淑女の口に上す事の出來難い言語すら縱まに使つた。吾人は切に讀者の寛恕を仰がねばならぬ。乍併、敢て自ら好んで斯の如き事を言つた譯ではない。只日本の風教問題を眞面目に考へて、根本的に之が改善を企圖せんと欲せば止むを得ず、斯樣な事をも辭する譯に行かぬのである。

諸君よ、國語の上より見たる日本人の道徳觀念、又不貞操なる婦若しくは其營業者に對する思想と態度は、實に右の通りである。於是吾々は痛切に感ぜざるを得ぬ。若し一般國民が斯の如き國語の使用法をなし平然として恥づる所を知らず恬然として省みる所なき間は、我國民はどうしても世界第一のだらしのない國民であるとの批評を退ける事は出來ない。斯の如き鄭重なる國語上の待遇をプロステイテユートに與へて憚らない程、道徳觀念の痲痺し盡して居る國民であるから

數字上より見た

廳府縣	總人口	內男	內女	旅人宿	雇人口入業	料理屋	飲食店	待合茶屋	貸座敷	藝妓	酌婦	娼妓	藝酌娼合計	總人口無配偶者	○	△	▲	●
北海道	1,568,400	813,300	756,300	2,093	396	1,746	3,299	—	352	1,512	1,248	2,36?	5,033	235,300	約27	約27	17強	27強
東京	2,977,900	1,601,100	1,376,700	766	1,150	77	2,891	933	580	4,160	—	6,78?	10,94?	366,900	約29	約24	25強	41弱
京都	1,154,800	588,400	566,400	1,756	191	482	5,117	180	1,856	1,560	820	2,553	4,933	98,100	約26	約20	26強	50強
大阪	2,132,600	1,123,200	1,009,400	1,04?	438	649	2,564	149	1,666	3,088	23?	7,116	10,406	187,201	約26	約18	38強	56弱
神奈川	1,166,800	609,700	557,100	1,091	89	746	2,651	103	17	838	2,149	2,177	5,754	102,600	約27	約18	27強	57弱
兵庫	1,973,000	1,011,200	961,800	1,704	396	1,533	8,644	29	330	2,19?	3,664	1,720	7,569	168,500	約29	約21	10強	45弱
長崎	1,101,500	563,600	537,900	763	103	288	1,653	2	276	57	50?	2,207	3,68?	93,900	約4?	約29	24強	25弱
新潟	1,765,700	856,800	908,900	1,662	119	1,539	2,000	33	42	2,086	—	1,41?	5,50?	146,100	約20	約43	10弱	24弱
埼玉	1,252,000	615,600	636,400	588	291	69	1,084	15	30	236	731	136	1,19?	103,600	約84	約86	1強	21弱
群馬	939,400	462,000	477,400	702	236	827	246	—	—	496	830	—	1,336	77,000	—	約38	—	17強
千葉	1,331,900	665,100	666,800	1,748	125	1,140	660	—	36	131	2,07?	168	2,59?	110,900	約34	約4?	3?弱	23強
茨城	1,249,700	619,100	630,600	1,177	176	1,556	3,556	—	45	252	2,211	209	2,773	103,200	約49	約37	2強	27弱
栃木	962,200	474,100	488,100	1,034	50	1,799	346	—	98	548	506	639	1,69?	79,000	約23	約47	8強	22強
奈良	553,900	277,100	276,800	840	336	496	1,665	—	5?	391	851	39?	1,65?	46,200	約28	約28	8強	25強
三重	1,045,800	517,800	528,000	1,19?	544	5?8	2,788	—	37	716	5?4	1,661	2,921	86,?00	約23	約30	19強	34弱
愛知	1,866,500	940,100	926,400	2,144	590	1,744	1,372	18	334	2,097	2,970	2,101	7,668	156,700	約7?	約33	13強	46弱
靜岡	1,370,000	684,500	685,500	461	184	43?	7,334	4	124	914	1,985	597	3,496	14?,?00	約90	約5?	5強	32弱
山梨	567,500	278,300	289,200	708	52	144	647	—	24	1?6	48?	207	8?4	46,400	約34	約54	4強	18強
滋賀	640,700	306,100	334,600	856	227	46?	2,695	—	327	416	278	335	1,029	52,000	約33	約50	7弱	20強
岐阜	998,000	500,500	497,500	1,660	25?	986	1,343	—	86	688	789	699	2,17?	86,400	約2?	約38	8強	26強
長野	1,384,400	683,400	701,000	2,28?	191	2,006	4,189	4	15?	1,460	1,202	963	3,625	133,900	約18	約31	8強	33弱
宮城	839,300	419,300	420,000	536	139	600	2,111	3	60	334	8?	433	1,48?	69,900	約26	約47	6強	22強
福島	1,224,700	599,800	624,900	1,459	177	459	1,770	59	12	604	445	628	1,671	100,000	約59	約60	6強	17弱
岩手	776,500	388,600	387,900	58?	39	440	1,660	—	9	243	118	389	749	64,800	約167	約86	6強	13弱
青森	730,700	373,800	356,900	354	108	73	44	—	138	153	137	56?	843	63,?00	約12	約74	9強	14強
山形	910,700	450,800	459,900	70	34	47	415	—	168	331	159	84?	1,4?3	7?,100	約89	約52	12強	19弱
秋田	902,200	458,300	443,900	519	97	36	13	—	84	22?	187	343	75?	79,400	約3?	約10	4強	10弱
福井	607,900	297,000	309,800	48?	6?	178	36	—	189	585	—	478	1,0?6	49,800	約104	約47	10弱	21強

會説

る全國の風教状態

石川	七六六、一〇〇	三七〇、三〇〇	三八三、八〇〇	四九六	七四	四六	三三	一	四四七	一、一〇三	—	四〇四	一、五〇六	六一、七〇〇	約一四五	約四一	七弱	一五弱
富山	七四〇、八〇〇	三七〇、一〇〇	三七〇、七〇〇	三七五	三	八二	三六	一	二六七	一、一八九	—	三九七	一、五八六	六一、七〇〇	約一五五	約三九	六強	二六弱
鳥取	四二八、七〇〇	二〇九、四〇〇	二二九、三〇〇	四九五	二四	四三〇	三	四	五八	一五四	四一	一二七	三三三	三四、九〇〇	約二七五	約一〇八	四弱	九強
島根	七三四、八〇〇	三五九、八〇〇	三六五、〇〇〇	一、三三一	一四四	一、〇五四	三〇	一	三三	三五九	三三一	五五	七七五	六〇、〇〇〇	約一〇九	約七九	一弱	一三弱
岡山	一、一九三、九〇〇	六〇三、三〇〇	五八九、七〇〇	二、〇三三	一七〇	五五八	五七八	—	一六五	四四三	五六	五四一	一、〇三九	一〇〇、二〇〇	約二〇四	約七七	五強	一〇弱
廣島	一、五八〇、九〇〇	八〇〇、四〇〇	七八〇、五〇〇	一、八五四	二九五	八五〇	四一三	二八	三三九	九七五	三三五	一、七八六	三、〇八四	一五四、四〇〇	約八五	約四四	一三強	二三強
山口	一、〇二七、六〇〇	五一〇、三〇〇	五一七、四〇〇	九三三	五五	九三四	一、〇〇三	三	一八二	七七	三一	七九〇	一、八七六	八五、〇〇〇	約一〇八	約四五	九強	三三強
和歌山	七一五、二〇〇	三五一、三〇〇	三六一、九〇〇	九七〇	八八	四五五	三三三	—	一七	三〇七	三〇五	一七三	八八四	五八、六〇〇	約一三四	約六六	三弱	一五強
徳島	七〇六、一〇〇	三五二、一〇〇	三五三、〇〇〇	四四八	六六	七五六	三三八	三〇	七三	二八八	一六七	一三九	六八四	五八、七〇〇	約四五	約六六	三強	三弱
香川	七一三、七〇〇	三五八、〇〇〇	三五五、七〇〇	五六六	—	一、〇〇〇	四三五	—	二三六	四九九	一八七	四一一	一、〇九八	五九、七〇〇	約一四五	約三四	七弱	一九強
愛媛	一、〇四七、一〇〇	五一一、三〇〇	五二〇、八〇〇	五八八	六四	一、七九四	一七	—	四三	六三三	一一	一六一	九〇四	八六、一〇〇	約六三	約九六	二弱	一〇強
高知	六六一、四〇〇	三三八、一〇〇	三三三、三〇〇	五四八	五五	九一五	四六	—	五〇	五七五	—	三一七	八九六	五四、七〇〇	約一七	約六一	六弱	一六強
福岡	一、七一七、二〇〇	八六三、九〇〇	八五三、三〇〇	一、二六七	四八五	八六九	三三	六九	一四七	一、〇二八	三、九九五	一、四四三	六、四五五	一四四、〇〇〇	約一〇〇	約二三	一〇強	四五弱
大分	八六九、二〇〇	四二九、三〇〇	四三九、九〇〇	七三一	一三三	一、〇六八	七七	—	六三	三六〇	二一四	二四八	八二三	七一、五〇〇	約九八	約八七	一強	一一強
佐賀	六五八、七〇〇	三三六、〇〇〇	三二三、七〇〇	四六六	一〇八	四一五	一五六	—	一四	三三三	五〇四	三五七	一、〇七九	五四、一〇〇	約一一五	約五五	七弱	二〇弱
熊本	一、三三四、四〇〇	五九二、三〇〇	六四二、一〇〇	九八五	三四八	一、〇三一	七八	四	九八	一八一	四六九	一、一六九	一、八一九	九八、七〇〇	約八四	約五四	三弱	一八強
宮崎	五五三、三〇〇	二六六、七〇〇	二七五、六〇〇	七五〇	四九	五三七	四〇	—	一七	三〇三	—	一二〇	四七六	四六、一〇〇	約一五五	約一〇六	三弱	九四強
鹿児島	一、三九八、四〇〇	六二九、六〇〇	六六八、八〇〇	四九二	四四二	八三	三三	—	三三	一六九	五八四	三六九	一、三三四	一〇四、九〇〇	約二六七	約八四	三強	三弱
沖縄	五二一、五〇〇	二四八、四〇〇	二六六、一〇〇	七一	二一	六九	八	—	五〇八	一一五	四〇〇	九七七	一、四九〇	四一、一〇〇	約四三	約二七	二四弱	二六強
合計	五一、二一九、二〇〇	二五、六九三、七〇〇	二五、四二六、五〇〇	四五、〇六九	九、七五五	二〇、二九一	九、六八九	一、七〇二	二〇、七九三	三七、〇六八	三三、九五六	四八、七六九	二二九、七六三	四、二八三、三〇〇	約八八	約三六	一一強	二八弱

備考

(一)○印は娼妓一人ニ對スル無配偶青年の數を示し△印は藝妓酌婦各一人ニ對スル無配偶青年の數を示し
▲印は無配偶青年千人ニ對スル娼妓にして　●印は無配偶ノ青年千人ニ對スル藝娼妓酌婦の數を示すものなり。

(二)表中「總人口中無配偶者」なる計算は、如何にせしかと云ふと、内閣統計局の調査(明治四十三年末)に據りて、無配偶の男子を算する時は男子總人口の約五十分の三十三となる。而して其の無配偶の男子中、二十歲以下の者及び五十一歲以上の者は所謂性慾滿足の必要なきものと見做して之を引去り殘り即ち二十一歲以上五十歲以下の者の總數を算するに無配偶男子總數の約百六十五分の四十二あり。即ち男子總數の約六分の一を以て無配偶者を表はしたる次第にして必しも嚴密に正確なりといふを得ざるも、蓋し大なる差異なきを信ず。

(三)旅人宿、雇人口入業、飲食店、料理屋、待合茶屋、貸座敷、藝妓、酌婦、娼妓の數は四十三年末内務省「警察取締に關する營業調」に據る。

七

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

して、風敎の日に益々非なる亦已むを得ざる結果といはねばならぬ。

（十）根本の問題は公娼問題なり

而して根本の問題は何であるか。その答は簡單明瞭である。即ち賣淫を國家が公許するからである換言すれば凡て不貞操の行爲を認めて道德上法律上の罪としないからである。若し一度び法律を以て之を禁じ之を國法上の罪と認めて見よ。國民の貞操觀、其道德思想は必ずや改まつて來ざるを得ぬ。現に其の實例は群馬縣に於て之を見る事が出來る。群馬縣には法律上の賣淫業なるものはない。在るものは皆犯罪として存するのである。通稱之を『だるま』といふ、而してこの『だるま』といふ言は『所謂穢多』てふ言葉のやうに最も賤しむべき、汚ならしき言葉となつて來た。其故に例へば田舍の百姓娘などに對してでも、『だるま』になれなど〻戯れにでも言はうものなら、強き女なれば憤然として怒り、弱き女ならば耳を掩ふて逃げるといふやうな有樣である。從つて前橋や高崎には、所謂『だるま』も少なくはないが、然し其の土地の者は殆んどない。皆他縣又は地方から流れ込んで來た者である。

然るに東京では如何、花魁など〻云つても、左程に市民の耳には賤しい言葉としては響かないではないか。更に愛知縣や其他の縣では娼妓になる事を以て、女が出世の首途として誇り顔に語り合つて居る。一方は婦人の大なる恥辱なりと意識し一方は洒蛙〳〵として恥づるを知らざるのみか、却つて之を名譽の如くに感じて居る。大變な違ひではないか。而して此著しき相違は果して何れより來るか。其理由は唯一つ、明々白々である。即ち一方は國法上の罪惡であり、一方は國法上の營業にるすとなつて居るからだ。此以外には何等の理由もない。それ故に若し國家が——國家を代表する政府が、凡て貞操の賣買をなすものを以て法律上の罪惡と認むるならば國民の道德觀念は必ず今よりも數等高まつて來るに違ひないのである。論より證據、現に『淫賣婦』と云へば如何にも不快に汚らしく耳に響くが『花魁』といへは左程に思はぬ、大變に耳の感觸が異なるではないか。而して淫賣婦と花魁と、どれだけの相違があるかと云へば、其所業に於ては毫も異る所はない、只之に對する政府の態度が異るだけではないか即ち一方は犯罪とし、一方は營業だといふ一點に歸するのである。

繰返して曰ふ、不貞操なる業者を凡て國法上の罪とせよ。而して選擧違反者を取締るが如き熱心を以て警察權を以て之に臨め。然則例ひ賣淫婦の絶滅を見ざるまでも必ずや國民の道德觀念は向上するに相違ない。是れ吾人か斷言して憚らざる所である。それ故に、政府當路者にして眞に風敎の頽廢を憂ひ天下の宗敎家諸君にして眞面目に社會風敎の改善を圖らうと欲するならば、凡て不合理なる男女關係を以て惡事と認めねばならぬ。賣淫を以て『犯罪』と宣言せねばならぬ、一言以て之を掩へは公娼制度を全廢せねばならぬ。

故に公娼全廢を期鬪する本會は軈て、最も根本的の『風敎改善會』である。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

社會の基礎（一）

廓清會々長
衆議院議員　島田三郎

（一）慣習は人の意識を晦蒙す

人は慣習によつて其心を晦まされるものである。他國に不思議な慣習があつて、之を他觀する時は奇態なる風俗であると感じても、其不思議なる慣習の圈内に育つて之を自觀する時は、何等奇異の念は起らぬものである。日本に於て外國人の怪しく思ふ慣習があつても、其中に御同樣育つと餘り奇妙に見えないと共に、外國の慣習の中に日本人から見て不思議に感ずる所のものが有つても、彼等はさほどに感じない。

我日本に於る公娼制度なるものは、今日文明國と稱せらるゝ處の人々が、極めて驚異の眼を以て觀てゐるものである。善良なる風俗を紊り、人の家を壞り人の身を害ひ、一方には國家の法律が明に非難してゐる處のものを一方に於ては大切に保護せむとする、此奇怪なる制度が、儼として明治の昭代に存在し、世人之を怪しまぬといふのは、慣習によつて其心を晦まされてゐるものといふの外はないのである。

東洋の聖人、世界の偉人と仰がれる孔子が、社會の段々發達する順序に就て「天地ありて萬物あり、萬物ありて男女あり、男女ありて夫婦あり、夫婦ありて父子あり」と斯ういふ樣に易と云ふ書物の中に說いてゐる通り、百行の基也といふ孝行の道德を生ずる所以の親子の關係は、夫婦ありて始めて生ずるもので、怎うしても婚姻制度を外にして考ふる事は出來ない。從つて婚姻制度なるものは確に神聖なもので、輕んずべきものではないといふ思想がなければ、親子間の大切な道德關係は決して起つて來ないのである。併し乍ら親子の緣を容易く切つた人があれば、直に破倫、怪しからぬ。といふ事を咎めるのは、殊に日本に於て此觀念が甚だ深いのであるが其根本たる夫婦の關係に至つては、極めて之を輕んじ、忽ち結婚し忽ち離婚し平然として誰も餘り之を非難しないのは何であるか、道理に於ては大切なりと首肯して、事實に於ては之を輕んずるといふのは、要するに慣習に晦まされたもので、習はせが人の意識を晦蒙する處の一例である。

（二）噫醜業保護の國！

此考を以て觀るに、夫婦に非ずして男女の間に夫婦に紛らはしき行のあるといふ事程、人にとつて行の破れた事はないといふ事も明白である。男女の間の關係が正しければ始めて其間に育つた處の子供も正しい所の人が出來るので、男女關

係の正しいと否とは、やがて一家の榮枯一國の消長の岐れ目であるともいふ事が出來る。而して我日本には此男女の關係が極めて輕く見られ、却つて之を破壞し、根柢を覆す所の制度が認められ、殊に世の儀表たり指導者たるべき所の人々に此觀念の甚缺乏してゐるといふ事は、歎かはしい事で、究覺文明の程度の低い罪に座するのである。文明の程度の低い時に之を大切な事と思つて居らぬのは、獨り我國に限つた譯ではない。我々の運動、即廓清會の運動を助ける爲めにグレゴリー君を態々派遣した英國の本國にも數十年前にはやはり日本の公娼に近いものがあつた事がある。併し人文の發達するに從つてそれが不倫な、不合理な制度である事が認識せられ、其制度は廢せられてしまつた。此英國について世界の文明國では皆之を認めなくなつた。併し今日の泰西文明と雖も元より理想的の域にあるものではない。幾多の嫌厭たる事實があると共に、私娼は未だ〱世界何れの國にもある。そこで志ある人々が、之がために骨を折つて居るのであるが、惡い事であるとして公に之を非難し、之を爲す處の人が恥しく思ふて内證でやつてゐる處の國と、これは恥しい事ではないとして、公に之を許し公に行はれてゐる所の國とは、そこに甚しい逕庭がある。惡い事を惡い事として匿れてやる國と之を許し之を保護する國とは霄壤の差があるのである。而して其恥しむべき醜業を公に行つて恥しく思はぬといふ國は、御同様の國家たる我日本一國のみで、これが惡い制度であるといふ説の起つたのすら極めて最近の事に屬し、又之を唱へても、これは事實に關係のない空論者である、理論家であるといふ事をいつて居つたのが、世間一般の有樣であつたのである。

(三) 噫奴隷公認の國！

人間は、日本の法律に於ては何れの場合に於ても如何なる場所に於ても如何なる身分に於ても、人間としては皆同等といふ事になつてゐる。これは極めて大切な事で、此思想があつて始めて人間といふものゝ安寧幸福が保障せらるゝのである。あれは身分のある人である。これは富んでゐる人であるあれは貧しい人である。これは卑しい人である。といふ事はそれは身分の上の事であつて、人間といふ事については皆同樣で、決して其麼區別はない。譬へば近頃西洋から日本に這入つた諺で、『人は法律の前に一樣である』といふ詞があるがこれは誠に尊い言葉であつて、法律の前に一樣であるが故に人を殺すものは皆殺人罪に問はれて、身分の貴い人を傷うたのも身分の賤しい人を傷うたのも、法律の前には一樣である人間の命に尊卑はない。若し身分が違ふから人の命の値に上下があるといふ事であつたならば、世の中が如何に統一さるるも如何に政治方面がよく行はれても、あれは賤しい人であるから之を殴打しても其罪が輕い、あれは貴い人であるから之を殴打した者の罪は重いといふ樣な事になつて、世の中に人は一日も安全に暮す事は出來ないが、法律の前には人は同等であるといふ詞によつて、人類の平和が擁護せられてゐる

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

から、吾々が安全に此世の中に活動して行く事が出來るのである。然らば人は人たる點に於て一樣に尊いものであるといふことであるから、人間の賣買をするといふ事程道理に違つた事はないことになる。人を賣り買ひするといふ事になると最早人に非ずして物品である。處が慣習の然らしむる處今日も依然として人を賣買するといふ言葉があるから、道理から詰めて見たならば、是れほど驚く可き怪しい事はないのである。彼れは藝妓を買つた、娼妓を買つたといふ。藝妓娼妓は人格を認められずして、物品として取扱はるゝのである。金錢を以て他人を己れの自由にしてゐるのである。人間を賣買するといふ國は卽ち奴隸を公に許した國と同じ事である。賣買が出來るから人より以下のもので奴隸である。賣つた者はその人たるの權利を人に與へたのである。買つた者は其權利を得たのであるから、或る場合に於ては之を物品同樣に取扱ふ事が出來るといふ第二の考が出て來るのである。人にして人に非ざる取扱を受けてゐる者が國に公然存在してゐるのは恐らく現在の文明國に於て日本の外にはあるまい。

(四) 歐米の奴隸解放

而して人を賣買するといふ言葉のない國と、其言葉のある國とは、人に對する考が非常に違つてゐるといふ事は必然の斷定であらうと思ふ。斯うなつて來たならば、人は法律の前に一樣ならずして、最早人に種類があるのであるから、此の品物に等しい者に對しては、如何なる侮辱を與へても差支ないといふ道理が起つて來る。人に區別があつて人にして人に非ず、物品に等しい人があるといふ思想のある事は、容易ならぬ不思議な慣習といはなければならぬ。併し此事は我國に限らず他國にもやはり人を賣買した時代がある。古い歷史を讀んで見ると、例へば希臘に女の奴隸といふやうな言葉があつて、女を賣買した事實があつた。後の世に至つては近來まで男を賣買した習慣があつて、一生涯人の身體を買つて了つて之を種々な勞役に使ひ、病氣に罹つても別に之を人として扱はないで飼つて居る犬や馬の如くに扱ひ、死んでも其主人の考次第で如何に取扱つても宜しいといふ事で、或は更に之を他の人に賣渡すといふ事があつた。これは異つたる人種の上に行はれて、例へば亞米利加における、その以前英吉利に於ける或ひは西班牙における、葡萄牙における等の如く、顏の黑い肌の黑い亞弗利加人を買つて來ては、一生之を使ひ殺しにするといふ事が近來まで行はれて居つたのである。併し段段世の中が開けて來て、許すべからざる事である事を自覺し一番先に英吉利が之を禁じて、他國も段々之に倣ふやうになつたので、遂に所謂黑ん坊を亞弗利加から大勢捕へて來て亞米利加其他の海岸へ船をつけて之を賣買してゐた者は取押へられる事になり、諸國で賣買の約束を結んだものは之を解いて放つがいゝといふ事になつた。處が亞米利加にては買つた者は丁度自分の財產同樣で之を解放すれば財產を取られると同じであるから、之れは可けないといふので、亞米利加には此制度が殘つて居つた。そこで、亞米利加における志士仁人

は、人道上より大に奴隷の廢止すべきを叫び、遂に四年の間に亘つた南北戰爭といふ大なる内亂の後、義を唱へた北の方の亞米利加人が勝つて、南の方の奴隷を解放し、今日は亞米利加に膚の白い人と黒い人とが居るけれども等しく亞米利加の人民として取扱はれて居つて、昔の奴隷はすつかり無くなつて了つた。是に於て世界の文明國には奴隷制度といふものは全く影をおさめて了つた筈であるけれども、まだ隠れて此商賈の多少行はれてゐるところもあつた。

（五）秘露の奴船事件

明治七年の娼妓解放令は、即ち世界に於ける最後の奴隷解放令とも見る事が出來る、而して此娼妓解放の歴史に忘るべからざるは例の著名なる秘露の奴船事件である。明治六年の事であつたと記憶する現今では日本と交際條約を結んでゐる南亞米利加の秘露國の某船が支那へ行き、僅の金をもつて多くの支那人を捕へ、之を其船に積込んで秘露へ運んで行かうとした。秘露は土地が廣くて人の乏しい處であるから、そこへ之を賣ると非常に高く賣れるのでかうして密に三百人ばかりの支那人を積込み、我日本の沿岸を通りかゝつたところ強風に遭遇して横濱港へ逃げ込んで來た。然るに此船の中に積まれて居つた支那人は、中で物品同樣に扱はれ樂に呼吸も出來ないといふ樣な有樣なので、寧ろ死を希ふといふ程に苦しんで居つたが、ちやんと錠を締めて外には一歩も出さない樣にしてあるから怎うする事も出來ない。ところが此奴隷即ち買はれたる支那人の中の一人が、どうしたものか辛くも逃げ出して海の中へ飛込み、やうやく岸に泳ぎ着いて、實は斯樣斯樣で買はれたのであるが、是れから如何なる目に遭ふかも知れない、初めは欺されて茲まで連れて來られたものゝこの後如何に成行くか分らぬから、どうせ死ぬ命ならと思つて萬一の僥倖を期し一生懸命逃げて來た、どうぞ救つて下さいと日本政府へ歎願した。恰もこの時代は日本政府が最も元氣のよい時で、維新になつて總て文明國の政治に傚はうといふので氣張つておつた時代であつた。そこで如何に之を處分するかといふ議論になつて、英吉利公使にどうしたらよからうかと相談して見た。當時の英吉利公使は名高いパークスといふ人で、それは怪しからぬ、それは海賊の行爲であるから海賊の船と見て、さういふ事をする者は文明の國では之を取押へるのであるから、日本の領地へ這入つて來た以上は、船は其儘押へ、總ての支那人を解放してお仕舞なさいといふた。日本政府は遂に此意見を容れ、斷然船を取押へて支那人を解放して了つた。そこで秘露の國からは日本政府に對して、秘露の船を專斷に解き放したといふのはどういふ譯であるか、といふので掛合つて來た。日本政府は即ちこれは文明の本旨としてさういふ所業をする者を許す事は出來ぬからである。併しそれが不服とあらば何れの國かの君主、主權者に此事のどちらが善いか惡いかといふ判斷を乞ふて、其決定に從はふといふ事を提議し、兩國協議の上遂に露西亞皇帝に判斷を依頼した。露西亞の皇帝は世界萬國の視てゐる事であるから、不

公平な事は出來ない。「日本の行つた事は正當であつて、支那人を解き放したのは文明諸國の感謝する處である」といふ判断を下したから、日本政府が全部勝つて此爭は解けて了つた。

（六）娼妓解放令の起因

然るに秘露の政府の辯護士となつて法廷に現はれた處の一人が、日本では自分の國の中に奴隷を置き乍ら、人の奴隷を咎める事が出來るかと、斯樣な事を云つた。之には日本政府も頗る面喰つた。始めは其意味さへ解らなかつたが、どういふ事であるかと段々調べて見ると、何ぞ圖らん日本には娼妓といふものがあつて、之を客が買ふといふ話であるといふのである。是れには日本政府も一方ならず驚いた。他國に對しては人間を賣買する事はいけないといふので世界の輿論に訴へて文明國の判斷を乞ふとまで威張つて見たが、家の中には女郎屋といふものがあつて、無垢の處女を買つて來て賣物にし嫖客がこれを買ふといふ次第で、秘露の辯護士の云つたのは其點であるといふ事が分つた。そこで世界萬國と平等なる晴れな交際をしやうといふ日本帝國は大に考へなければならぬといふので、遂に翌七年に所謂女郎の解放となつたのである。當時の司法大臣であつた江藤新平君は、名高き處の司法省の達示を出して、大政官の布告の中で、總ての今迄買入れた契約を以て醜業を强ふるといふのは宜しくないといふ事を告げ、茲に初めて眞の遊廓といふものが破れて今の貸座敷といふものになつた。つまり樓主といふのは坐敷を貸すだけの商賣で、中に醜業を營んでゐる處の娼妓は醜業をやらうとやるまいと自分の隨意である。他から行らせるものではないといふ事に改まつたのであるから、日本には今日は公然奴隷なしといふ事が出來るけれども、事實は依然として今も昔も何のかはりもない。彼等が醜業を罷めやうとすればいつでも罷められる筈であるのに現今の娼妓の十中八九迄は罷めたくても罷る事の出來ない者ばかりなのである。彼等は先づ廢業屆をせんが爲に警察に行く前に樓主に阻止せられる。恐ろしき暴力を以て妨害せらるゝ、辛つと警察まで行くと今度は警察官がまあ考へて見ろと云つてすぐに手續をしない。或は女を待たして置いて樓主を召喚して示談させる。そこで樓主は威赫したり賺したりして無理往生に連れ歸るといふのである斯樣に警察官が干渉するので名に於ては人身賣買は廢せられたけれども、事實に於ては毫も變りなく、依然として世界に類例なき不思議な慣習の存してゐるといふのは、眞に遺憾に堪へない次第といはなければならぬ。（つゞく）

新刊紹介

こども聖書　　廣谷重常氏著

此書は、其書名の示すが如く「世の少年少女をして、キリストの生涯と其教訓に親炙し、偉大なるその人格の光輝に觸れしめ、依て以て未だ世の汚穢に汚れざる心靈に、不朽の感化を印せんことを目的として編述」せられし者なり。先きには佐野天聲氏の「イエスキリスト」出で、今又廣谷氏の此書出で、通俗基督傳の續々として出版せらるゝは喜ぶべき現象と謂はざるべからず。殊に其用紙もよく、釘裝の美なる最も記者の氣に入りたり。敢て家庭教育に志ある慈父賢母諸氏に紹介す。

健康と性慾

廓清會理事 文學士　小松武治

本篇はこの間自分が譯述出版したる、醫學博士プリンス、マロー氏著「健康と性慾」中より拔萃したものである。

△賣淫と花柳病

社會的衛生學の中で、最も重要な然も最も困難で緻密な注意を要するのは、その本質上、人の生命の根源と最も親しい關係のある一種の病氣を豫防することである。花柳病は其發生の仕方や病理的の結果から言へば、人種永存に對する自然の過程に根本的打擊を加へる。花柳病が兩性間の關係や社會道德や、社會の安寧などに觸れて居る多くの點から見れば、是れまさしく社會的疫病である。

社會的害毒はいつも社會に於ける腐敗的勢力と目せられて居る。それに二面又は三面がある。(一)少くとも其の現はるるや法律を破る。(二)道德に反する。(三)而して此病の本となる。此害毒と戰ふ手段は國家から言へば行政的、醫術から言へば衛生的、宗教家から云へば道德的である。

此の病の豫防が一番興味のある重要な社會上の衛生的義務となるのは、殊に男女兩性が法律に適つた結合をする時である。この疫病が夫婦間に浸み込めば、彼等の健康を害し兒童の生命を危うし、家庭の平和や名譽や幸福を毀損する。

花柳病が結婚に及ぼす危險、即ち妻に對する危險子孫に對する危險、家庭や社交生活に入り來る結果たる危險を防ぎ若くば其の蔓延を限定するに最も有効な方法を講ずるには、賣淫として知らるゝ兩性間の不正な交りに於ける根本的原因と關係なくして充分に考へる事は出來ぬ。以下少しく之を考覈して見やう。

△犠牲は常に若き有德の婦人である

實際男と女とを婚姻といふ狀態に結び附けるのは何であらうとも結婚の社會的目的は家庭を作り子女を擧げる事である。家族は我等の社會的組織の根本的單位を形作る故に、此單位を惡くするものは、事々物々集合的社會といふ一體に惡影響を及ぼす。ハーバート、スペンサーが言つた樣に「家族の幸福は社會の基礎となるのである」

此の問題の社會學的方面から全然離れて言へば、花柳病者が結婚した爲め妻子に及ぼす惡効果を思ふ時、誰か自ら如何ともする能はざる無垢な賴邊ない者共の保護をせうとする人道を重んずる一念に動かされぬ者があらう。

結婚關係で生じた境遇は妻をして賴邊ない無抵抗の犠牲た

—704
1—

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

らしめる。結婚の連鎖は婦人をして夫の耻づべき疾病を見すべく術させて全然婦人を縛り附けるのである。希望に充ち充ちた婚禮の晩、彼女は將來ひどく自己の健康を害ひ而して兒女を殺すかも知れぬ病毒を不知不識の間に受け取るかも知れぬ、否實際屢々受け取る。或は姙娠力を無くされて、結婚の生活の宿望やら憬れやらを一掃されるのである。而も婦人は全く『無垢』である。此の害毒を豫知する事は出來ず、豫防するの力もない。夫が娼婦から受取つた疾病を何も知らずに或は不注意にも妻に傳へるとも思ひ知らず、妻は盲目の樣に夫を信ずるの餘り、屢々一命を賭する事がある。

こんな不幸は、獨り身持の惡い棄てられた女の淫奔な不規則な生活を送るものばかりに降り來るのではない。犧牲は概ね若い有徳な婦人である。神の樣に尊敬せられゐる娘である婦徳の花と謳はれて居る者である。彼等は人類の母たるに適當な健康と活氣とある體格を與へられたる婦人である。

△共通の疾病は有徳なる細君と墮落した遊女とを結びつける

花柳病は如何な社會的地位をも尊敬せず、又如何な徳義の前でも畏縮しない、社會の上流下流如何なる階級にも蔓延する。栗死病のやうに花柳病は貧民の巣窟にも富豪の邸宅にも同一歩調を以て近づく、共通な疾病の關係で有徳な妻君と墮落した遊女とを結び附ける。

不幸にも多くの場合に於ては夫妻以外の醜關係に由り娼妓から病毒を受取り、之を一家族に分配する不忠實なる夫たり父たる者の所業の結果は、もし黴菌が妻君に傳播されたならば啻に彼女が病苦を忍ばざるべからざるのみならず、其子孫まで生命を危うし或は癈疾の身となる虞れがある。黴毒が傳染すれば滋養分は行き渡らなくなつて、折角懷胎した所で期到らぬに流產となり、「生長を妨げられた、而してインキの樣に黑い」もの、即ちウチヤ〱した物が出て來る。薔薇色の健全な形體の良い子の代りに、脆弱な孺子のやうな心身共に虛弱な者が生れ、嫌惡恐怖の對象となり、夭死はせぬまでも一生涯墮落と癈疾との燒印を受けて居ねばならぬ。淋菌傳染の場合では妻君が受ける危險は黴毒の結果よりも更にひどい傳染の襲ふ所は子宮孔に及び結合機關に到り、喇叭管炎や卵巢病や腹膜炎を起して姙娠力を滅ぼし、どうしても子を產むことが出來なくなる。而して生命を危うし且つ屢々外科手術を施して喇叭管を動さねばならぬ樣になるのは勿論である。

△原因を探究せずして結果を取扱つてゐる

驅黴制度は一定數の公娼の在る事をば衞生上爭ふべからざる利益があるとしてゐる。併しそれが最もよく履行されてゐる國でも花柳病の總計を實際どれ丈減じてゐるかといふ證明は分つてゐない。亞米利加では只一回の外には未だ之れを實行しない。公衆が之に反對するからである。

亞米利加の人々は賣淫を公認するが如き事に對し極めて不

贊成である。而して寛大と認可との境界線を引くのは困難である。事實特殊の條件で許さなければ國家の權力で現狀を調整するを得ない。で半は驅黴法に對する反感から、半は從來の花柳病撲滅法が失敗に歸したるを見て、亞米利加の衞生當局者は放任主義を執つて居る。この放任主義は花柳病の傳染殊に其の恥づべき秘密な性質から生ずる種々な內的困難と共に花柳病の衞生撲滅法は、一見したよりも中々困難である。

茲に注意すべきは花柳病撲滅法を講ずる者概ね婦人を以て主たる邪魔物と目し、責任ある原因と見做す事である。國家が害毒撲滅手段として執れる所、悉く婦人を目的物としてゐる。悖德から起る疫病を除き去らうとする衞生上の條例は、皆婦人のみに適用さるべき者である。社會の空氣を淸めむとする道德的十字軍は悉く婦人丈を敵としてゐる。盛んに賣春場を襲擊し拘束した女達を幽閉するか救貧院に送る、けれども等しく罪ある男の仲間は大手を振つて步いてゐる。此の壓制的な衞生法は只一方に偏して悖德と疫病とを傳染する一原因丈を打懲すに過ぎぬ故、正義平等の原則に反する。獨り道德に違反する婦人丈が罪ありとなして、社會は男女各々其の道德的標準を異にすといふ間違つた思想を傳へ廣める。此等の方法が失敗したのは原因を論究せずして唯結果丈を取り扱つた爲めである。

△誤れる道德上の二重標準

花柳病害毒の根源を討ねんとせば賣淫を生ずるに至る複雜な社會狀態や經濟狀態に對して深刻な觀察を下さなければならぬ。賣淫婦は傳染病の賄方たるに過ぎぬ。彼れは男が賣淫から受けた傳染病を他の男に移してやる丈の事だ。結局の所男の方が主たる犯人である。賣淫の最も重要なる原因即ち原因の原因は、男が貞節を守らぬ事にある。即ち一夫多妻の傾向や、何時何處でも相手さへあれば性慾を滿足しやうとする男の仕打にある。

副たる原因の中には婦人が經濟上夫に從屬してゐる事や、社會生活上の逆境や殊に社會の立てた男女に對する二重の道德的標準等がある。勿論與つて力ある原因は基督敎の說く道德とは天地霄壤の差ある社會上の間違つた道德で、それは婦人ならば決して許さぬ事でも男が爲れば容易に見遁してやり、又一方に於ては許せぬと宣言する事でも、他方には默許してやるといふ奇怪な現象である。

此間違つた道德法の影響する所は世間が金看板の放蕩者に門戶を開放しつゝ其犧牲となつてゐる女を閉ぢ込めるが如き無定見を見ても分る。女といふ者は一度墮落した他の女に對して最も無慈悲で殘酷なものである。己が娘を墮落した姉妹から感染させぬ樣にと交際を禁ずる有德な奧樣でも、娘を墮落させぬとも限らぬ男に對しては馬鹿氣切つた程慈悲深くなつて微笑んで居る。他の點に於て適當と認めればその男を娘の聟と思ひかねないだらう。一家の父は淫奔な生活を送り又度々不道德な女と交る男達を、喜んで自分の妻や娘の知合ひにさせる。遊興に資産を蕩盡した正札附きの男を娘と取り合

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

せる爲め、父は多額の持參金を出して割增配當金を支拂はふとすら爲るだらう。男が妾を畜へる爲めに出來た借財をも支拂ひ、又花柳病を傳染される爲めに結婚した樣な娘は、屢々借金の支拂に協力すべしと强ひられる。

この道德上の二重標準の結果として社會は實際的に女を二種に分類する。而して第一種の女には貞節を要求し第二種の女を以て男の性慾を滿足する道具となす。かくて社會は遊興が男には必要であるといふ不道德でもあり不衞生でもある奇說を立てる。淑德の婦人と墮落女との大溝も社會の便宜によつて橋を架けられ、男はそれを自由に往來してゐる。無賴漢の組は男がおびき込む有德婦人の新加入によつて增補される女は回復の道がない、併し男はその人格に何等の社會的恥辱を加へられる事なくして淫奔な生活から擺脫するを得る、彼れは悖德の住家から歸り來つて立派な婦人と自由に交ることが出來る。

△制慾は健康を增進す

性慾の滿足が靑年の健康に取りて主要なもので貞潔の生涯は此元氣を保つ事の出來ないものであるとの謬想を糾す事は此警告の最も重きを置く點である。醫學上の意見として信憑するに足るものは、靑年時代の制慾は精神及身體の健康を增進するもので、不法の情慾の滿足は結婚の代用をなすべき安全なるものではない事である。故に彼等は其情慾を抑制し之を調節して將來一夫一婦の健全なる狀態に至らしむる樣にする事が肝要である。

有名な大家の言ふた如く、花柳病は「うら若い花嫁の結納の中に娼婦が置いた結婚の贈り物」である。娼婦がその身に降りかゝる嘲笑侮蔑に對して有德な婦人に報ひてやるのは實に此恐しい贈り物である。而してみじめな事に夫は此の害毒を運んで一家に傳染せしめる。この病毒は單に毒ではなく其害の及ぶ所計り知る能はざる傳染病である。その感染は先づ妻から始まつて其全身を傷け希望を奪ひ健康を掠め、流產を爲さしめ癈兒を生ましめる。

此等の社會的犯罪併にその憐れむべき結果に對し、男子の不貞操と之を養ひ育てた間違つた道德法とは大に責任がある泥醉すら善い作法や品行に反するものとして立派な社會から驅逐された。不道德な男は有德な婦人の淸淨な群に入つて恬として恥づるなく、潔白な妙齡の婦人に結婚を求める樣な事が最早有つてはならぬ。最良の豫防法は、花柳病者の婚約を禁止するにある。個人に對し家族に對し、社會に對する有害な結果を防ぐには害毒を根絕するに限る。故に花柳病の豫防と賣淫の防止とは分離すべからざる關係がある。我々は原因と結果とを離して考へる事が出來ない。

男が遠き慮もなく社會の法律を破ることもなく、社會の隱默の奬勵といふ樣なものを得て、如何なる社會的刑罰も受けずして不道德な女と姦通する間は、その結婚する淸淨な婦人に病毒を感染せしめて、妻を汚し毒し而して殺す事が止まぬであらう。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

論評

輿論の聲高まる

公娼問題の解決

東京毎日新聞

曩に吉原の大火ありて、流石の江戸名所も跡なくなりたるに加へて、大阪にても新地遊廓の灰燼に歸せるあり。而して今やまた洲崎遊廓に火災起りて、其の半ばを燒盡せり。洲崎遊廓は、昨年海嘯に呪はれ、今また火災に咀はれ、災厄相踵ぐの狀にあり。此の如く天の遊廓に禍すること、昨今に至りて頻々たるは、是れ豈に公娼制度の根柢に一大打擊を加へむとするものならざらむや。

公娼に弊あると同じく、私娼にも弊あり。近頃歐米人の來遊する者、往々にして公娼制度の美を稱して、歐米に於ける私娼跋扈の狀に慨するあれど、是れ公娼制度の長所のみを見て、其の短所を審にせざるより來る。而して公娼制度の長所とする所のものを以て、其の短所と比較研究するに、長短必らずしも相償ふものと云ふ可からず。之れに加ふるに、日本の公娼制度は、佛教を背景として、多年慣習の致す所、遂に今日の發達を見るに至りしのみ。歐米人にして公娼制度を讃美するが如きは、吾國に於ける公娼制度發達の歷史を知らず、更にまた其の佛教との關係を辨へずして、徒らに皮相の言をなすに止まるのみ。

佛教隆盛の時代に於てこそ、社會は公娼制度に對して、更に奇異の感を催すこと無く、社會思想と公娼制度とは、毫も矛盾を感ずる無くして已みたりしも、佛教の權威地に墮ちしの今日は、必らずしも然らず。今や獨り佛教の權威の失墜を來せるのみならず、基督教の勢力之れに代りて漸く盛大ならむとするの時勢にあれば、旁公娼制度は其の馬脚を露さざる可からざるの境遇にあり。今日の時代は公娼制度を赤裸裸となして、之れが長所と短所とを、冷靜に觀察し研究す可きの必要に迫れり。佛教は公娼制度の保護者たり搖籃たるの觀あれど、之に代る可き基督教は、却つて公娼制度の彈劾者たる地位にあり。日本の公娼制度も、此處に至りて其の根柢に一大動搖を感ぜずんばあらず。

佛教隆盛の時代に於てこそ、幸に公娼制度は馬脚を露はすことなく、却つて其の當時の社會思想に適合するものなりとして、歡迎せられしの觀ありき。而かも此の如きは、過去の社會に於てのみ之れを云ふ可く、今や公娼と私娼とは、其の社會に及ぼす利害を研究して、社會は其の有利なるものに就かざる可からざるの必要に迫れり。而して公娼と私娼とは、

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

利害共に相半ばし、殊に今日は衛生的見地より公娼を是とするの説も、頗る軟弱なるに至りたれば、其の公娼制度に影響する所甚だ鮮少なりとせず。

此の如く公娼必らずしも可ならず、私娼必らずしも公娼に劣ると云ふ可からざるに、吾當局者は尚は公娼制度の維持に努めむとする歟。吾國にも公娼を禁せる地方ありて、一概に公娼國を以て目す可からざるも、廢娼可ならば廢娼に就くべく公娼可ならば、現今の公娼制度をして、更に時勢に適應せしむ可く改造するに努めざる可からず。政府の意見公娼にありや廢娼にありや不明にして、公娼制度の鍵を以つて、地方官の掌中に委ねて已むが如きは、決して社會に忠實なるものと云ふ可からず。床次内務次官は、宗教利用に意ありて、新たに基督教の如きをも從來の神道佛教と同一列に上せて、大いに社會風教の爲に盡瘁せむとす。床次君が宗教利用を思立ちしは、歐米に於る宗教の活動に感激する所ありてなりと云へば、此の如き進歩的頭腦を有する床次君にして、公娼問題に想到らざるが如き事は、萬々是れ有る可からず。基督教の勢力を認め、神道佛教と等しく之が利用に着眼せられし床次君は同時にまた、基督教を背景の一部分に加へて、我公娼制度を観察する時、如何の感を催さるゝや。遊廓に火災の頻々たる、何等かの暗示を有するものと見て、公娼問題の解決を慫慂すること此の如し。

吉原改良論

石橋思案

忘れもせぬ昨年四月九日の吉原の大火といひ、今年はまた三月二十一日の洲崎の大火といひ、殊に洲崎の如きは去年七月の末に、海嘯の惨害を蒙つた後で、それこそ此世からなる水火の責苦を面り、續く頻々たる遊廓に對する災難續出に、世人の印象も深くなり、これに附帶する諸方面の議論も沸騰し、或る一部には廢娼論なども起つてゐるやうに見うけられる。

なるほど、廢娼論者一派の主張するところ、誠に立派なものです。果してその主張する通りに實行されたらば、風教の爲めにも、人道の爲めにも、この上の結構なとはありますまい。是は白痴か狂人の外は、何人も異存はあるまいと思はれます。が、たゞその實行のできぬのを、私は深く悲むより外はありません。

すでに吉原の存在を認める以上は、其處を改善して、時代に適合せしめる必要のあるのは言ふまでもないが、さて何ういふ風に…何處を何う改善して行くかの問題は、なか／＼一朝一夕に説かれるものでもなく、それにはまた其道の專門家のあるあつて、僕はその任ではあるまいと信ずる。が、根本的に其制度を改める必要がある。實際箸を入れることもできない肴を列べ、しかも市價の何倍といふ無法な代價を請求するに至つては、何人も不愉快と不安とを感ぜずにゐられまい。

極言すれば酒食と遊興とを區別してもらひたい。…所謂公私の別を分つのが、遊廓改良の最大急務であらうと思ふ。いたづらに何處までも舊習に捉はれて、十二階下のために蹂躙されるのは、市の風教上…自衛上喜ぶべきことではあるまい。

それにもう一つ言つておきたいのは、藝妓の…醜何ぞ容易なるの一儀で、歴乎とした弗箱を有たぬ以上、否、一二箇の弗箱があつても、慾には目のない歌妓も澤山にある。近來この趨勢が愈々盛んになつてきて、遠方の路を車なり電車なりに揺られた上、喰べられもせぬ肴を眺めて、それで言語不通の敵手に接するよりは、諸事手ッ取り早く埒のあく歌妓の方が流行するのは、今更架説するまでもない。

僕の意見では、一度其犯跡を認められた藝妓は、どし／＼と檢黴してもらひたい。尤も自働車を待合の門前に待たせておけば、殆んど舊時の治外法權を實現するやうでは、この豫防法も何もならず、寧ろ何歳から何歳までの藝妓には、新領地のやうに規則正しい檢黴法を實施してもらひたい。それか厭やだと思ふ人々は、吉原へなり洲崎へなり、籍を替へてもらひたい。(新小説)

論說

風俗警察の活動

記者曰く、近頃に至り、漸く風俗警察の活動を見るに至りたる事は、社會のためまことに喜ぶべき事である。吾人は當局者が益々勇を鼓して社會風敎の廓淸に力を盡さんとを望む。吾人も亦敢て一臂の助力を惜まぬであらう。

新聞縱覽所の大打擊

從來市内の新聞縱覽所は屆出さへあれば何人にても營業することを得たる爲其數千二百餘名に及風俗を害すると非常なるより警視廳にては待合茶屋、貸席、料理業と同一規則の下に取締をなさんと四月卅日廳令第十六號を以て廳令第八號即ち待合屋茶屋等の規則に左の條項を附加したり

▲新聞雜誌小說縱覽所

▲休憩所娯樂場其他之に類するもの

而して該改正規則に依れば現に新聞縱覽所を營業する者にして引續き營業を爲さんとする者は五月三十一日迄に屆出を要し認可の如何は所轄警察の手中に歸し新聞縱覽所の打擊は非常ならんと察せらるるが元來新聞縱覽所は屆出さへあれば何人にても營業する事を得たれば其の爲めに市内に散在する新聞縱覽所數は千二百餘に達したるが今此の規則出づるに及び新聞縱覽所は大打擊を受くるに至れり右に就き警視廳第二部成澤保安營業課長は改正の主旨に就き語つて曰く「元來淺草などの新聞縱覽所は新聞を見る所ぢやない淫賣宿だ然るに是迄は規則が無かつたので銘酒屋の營業を止められたものは皆新聞縱覽所を開いた警察の方では屆出さへすれば許可しない譯には行かず又風俗を亂したとて禁止する法がなかつただから此新聞縱覽所が市内至る處に出來た譬へば龜戸の遊園地團子坂根津等には非常の勢ひで繁殖した故に新聞雜誌小說縱覽所取締規則を作つたのだが彼等は一つ取締規則が出來れば直ぐ法網を潛ることを考へるから今迄は小說雜誌縱覽所と云ふのではないが夫も含ませ又休憩場娯樂場云々の項をも加へた許可の如何は警察の考へにあるのだから新しいのは勿論從來營業し來つたものでも惡い人間には此規則改正と共に許可しないかも知れぬ休憩場とは書いてあるが築地停車場前等の茶屋を云ふのではなく淺草などで茶を出せば喫茶店となるから止むを得ず煙草の火でも置いて客を引き醜業を營まふと云ふのを防ぐ爲に其規則を設けたのだ(東京朝日新聞)

吉原遊廓營業問題

昨年四月九日の大火に燒失したる吉原遊廓の貸座敷百六十三戸引手茶屋四十六戸は本年四月卅日迄の限期にて假宅營業を許可せられ何れも新築に着手したるが時日迄に新築落成したるもの貸座敷七十戸引手茶屋十七戸に過ぎず貸座敷三戸引手茶屋三戸最早落成に近きたる爲め特別の詮議を以て科料に處したる上營業を許可せられたるも殘りの貸座敷九十戸引手茶屋二十六戸は漸く建築に着手したるのみなる爲め來る七月三十日迄假宅營業延期を出願し引手茶屋三戸は未だ建築に着手せざる爲め三十日其筋より營業禁止を命ぜられたるが假宅營業延期の許否は洲崎遊廓燒失者にも大關係あるを以て警視廳に於ても目下協議中なりと云ふ(二一六)

町藝者の取締

京都府では貸座敷設定以外の町で藝妓屋なるものがあつて公然と鑑札を受けた藝妓を抱へ客の招きに應じて藝妓稼業をやつて居る土地は龜岡、木津、園部、綾部、峯山間人等の諸町であるが貸座敷設定地ならば藝妓は必ず其の貸座敷地域内に住居することに限られて居るから普通人の住居と劃然區別されて居るのであるが此町藝妓なるものは其の町全體が一區域であつて藝妓は學校の前でも何處でも勝手に住居することが出來現に普通民戸と雜居して居るので風紀上何うも面白くないと云ふので去る三十年に發布した町藝妓取締府令の中へ左の但書を昨日の府令第卅三號で追加した其條項は

貸座敷免許地域内に居住する場合の外藝妓營業者は居住すべき場所に付所轄警察署の許可を受くべし

と云ふので警察署長の意見で何處か適當の所へ纒めるとか又は風紀上差支へないと認めた所で居住することを指定すると云ふ事になるのである次に京都の如き大都市で貸座敷があつても夫れ以外町内の所々に遊藝稼人なる鑑札を受けた者若くは此の鑑札も受けず單に酌婦であつて一寸都々逸の一つも彈けると云ふやうな者が藝妓と同じく各種の宴席に公然出て行つて幾らとか一定の花代を貰ふと云ふ風のもある、之は風紀上餘り面白くないばかりでなく藝妓は一ケ月五圓の税金を收めて居るのに遊藝稼人の名前で僅か五十錢の税金を納め幷して藝妓に劣らぬ稼業をなすと云ふ事は彼等に對する取扱上から見ても極めて不公平の事であるから之に對しては左の一項を加へて取締ることにした

警察官署は遊藝稼人其他にして藝妓に紛らはしき營業を爲すと認むる者に對し戒告を爲すことを得

尙之に從はない者は拘留又は科料に處すとの條項も定められた而も之は當人及び抱主等に取つては餘程の大問題であるから明年四月一日より施行する事に定められた。(京都日の出新聞)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

全國の新聞は如何に本誌第四號を歡迎せしか

▲讃岐實業新聞　遊廓を全廢し公娼を解放せんとする痛快なる雜誌なり其事の成否及一部論者の說明は今更說くを要せす此主義の天の一方に現はるゝは大に人意を强ふするに足るものあらずや斯くして社會の改良風紀の廓清男女の貞潔家庭の和樂が始めて保たるゝを得べく其勢力の益々膨大せんことを欲するものは豈に廓清會員のみなんらや

▲羽後新報　男女間に貞潔の德操を進め、社會の風紀を廓清し、家庭の和樂人生の幸福を增進し併て公娼制度の全廢を期せんとするの目的にして大隈伯を顧問に戴き島田三郎氏之に會長たり副會長には矢島楫子安部磯雄の兩氏あり惡風廓清の旗色鮮かなる廓清會の機關誌は即是れ也內容の重なるは廓清會とは何ぞや時代の休徵、衞生より公娼を論ず、同盟國の應援者、輿論の聲高まる、小憤慨錄、昨今の自由廢業、醜業者町長となる、大連の風紀其他、雜誌の雜誌欄には尤も趣味に富みたる記事を充たせり

▲三重日日新聞　會說として廓清會とは何ぞや時代の休徵あり論議には衞生上より娼妓を必要とするや(京都帝大教授醫學博士松浦有志太郎)同盟國の應援者(早大教授內ヶ崎作三郎)公娼廢止の聲(京都日出新聞)社會良心の麻痺(やまと新聞)火は廓清なり(帝國新聞)其他雜誌の雜誌等記事充溢し一に庶民の戰慄すべき天下公娼の跋扈跳梁は社會の一大禍根なる事を縱橫に論じ一般社會の改良風紀の廓清に努めたるもの也

▲小樽商業新報　本誌は社會の下層より上流に至るまで人情浮薄となり道義心の衰頽を嘆じて創刊せるもの記事悉く社會弊風の廓清談にあらざるはなく竝に懦夫をして起たしむるもの在りて存す

▲北國新聞　社會之改良、風紀之廓清、男女之貞潔、家庭之和樂を主張する廓清會の機關雜誌なり蓋し腐敗を極めたる現社會に於ける一服の清涼劑たるを失はざるべし

▲莊內新聞　廓清會の機關紙にて主として社會廓清の氣を吐けるもの諸大家名士の寄稿山の如く其說大に聽くべきものあり特に宗教家敎育家の一讀を要す

▲石川新聞　會說としては廓清會とは何ぞや時代の休徵の二篇あり、何れも獨特の筆鋒を揮ひて風紀の廓清を絶叫し、其他松浦博士の衞生上より娼妓を必要とするや、內ヶ崎早稻田大學敎授の同盟國の應援者など大に讀むべく味ふべきもの多し

▲藝備日日新聞　會說廓清會とは何ぞや、時代の休徵は孰れも公娼全廢を主張する廓清會の主張にして松浦醫學博士は衞生上より公娼を論じ公娼の存在は斷じて花柳病等の蔓延を防止するものに非ざることを述べ內ヶ崎文學士は同盟國の應援者と題して述ぶる所あり昨年度徵兵檢査成績を舉げて公娼の存在が齎ろす花柳病を傳播するを示し其他例に依り各方面に亘る新聞雜誌記事拔萃公娼廢止に關する記事等あり

▲北陸新聞　社會の改良、風紀の廓清を主張せる本誌は公娼全廢を高唱して熱烈を極む重要記事には松浦醫學博士の衞生より公娼を論ず內ヶ崎文學士の同盟國の應援者等あり與に社會改策に意ある人士の必讀文字なり其他時代の休徵昨今の自由廢業小憤慨錄等あり

▲濱松新聞　廓清會とは何ぞや(會說)衞生上より公娼を論ず(松浦博士)同盟國の應援者(內ヶ崎作三郎)等を始め專ら公娼制度を廢止し社會風紀の廓清を促すべき痛快なる記事を以て充せり

▲兩羽實業新聞　社會改良風紀廓清の主張の下に公娼制度の廢止を絶叫しつゝある所のもの會說として「廓清とは何ぞや」及び「時代の休徵」京都大學敎授松浦醫學博士の「衞生上より公娼を論ず」內ヶ崎作三郎の「同盟國の應援者」其他記者の痛烈なる駁論等あり

▲宮崎每日新聞　本誌の主張は社會の改良、風紀の廓清、男女の貞潔家庭の和樂を現實にするに在り而して特に公娼制度の廢止に向つて渾身の心血を濺ぎ氣燄萬丈紙上に躍如せるを見る

▲信濃民報　公娼制度の全廢を目的とする雜誌にして、會說に廓清會とは何ぞやと時代の休徵、松浦醫學博士の衞生より公娼を論ず、內ヶ崎文學士の同盟國の應援者、柴田關東都督府囑託の大連の風紀等を始め小憤慨錄、昨今の自由廢業、醜業者町長となる、雜誌の雜誌等ありて廢娼の爲めに氣を吐く、

▲長崎日日新聞　廓清會とは何ぞや、時代の休徵衞生上より娼妓を必要とするや、同盟國の應援者等より輿論の聲高まる、社會良心の麻痺、小憤慨錄など字々句々痛快を極む

▲因伯時報　「時代の休徵」「衞生より公娼を論ず」「同盟國の應援者」等を始めとして風紀矯正に關する熱血文字多し

▲北海道十勝新聞　本誌は社會人改良、風紀之廓清、男女之貞潔、家庭之和樂を要むるの目的を以て生れたり公娼を廢するに全力を注ぐもの丶如し

▲京都日報　男女間の貞操の德を進め社會の風紀を廓清し家庭の和樂人生の幸福を增進する爲め公娼制度を全廢せんことを目的とする廓清會の機關誌とて松浦博士の衞生上より公娼を論ず以下讀むべき記事あり

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

雜誌の雜誌



處世

眞の圓滿幸福

男爵　澁澤榮一

我々人類は一人で生存の出來るものでない、故にお互の幸福を阻碍せざるのみならず、之を增進せしむ可く勉むると同時に、生き甲斐ある生涯を送るのが人類の目的である。處世の方針もまたこれに依るに外ならぬのである。

然らば如何にして此使命を果すかといふに、先つ事に處して忠實、人に接して親切でなければならぬ。即ち飽迄も誠心誠意を以て事物に接し、よく云ふ人を見れば盜賊と思へ底のこせ〳〵した境遇を脫して、圓滿な幸福な生活を送りたいものである。

然るに世の多くの人は、この圓滿幸福と言ふ事を甚だ誤解して居るのである。即ち言ふ可きを言はず、爲す可きを爲さす、所謂事なかれ的御座なり的の態度を以て世渡りする人を呼んで彼は圓滿なりと謂ふのであるが、それは餘程間違つた話で眞の圓滿幸福とはそんなものではない。言ふ可きは之を言ひ、爲す可きは之を爲さねばならぬのである。それでなしに中途半端によい加減な事をやつて居ては、眞の圓滿幸福は得られるものではないと言ふことをくれぐれも忘れてはならぬのである。

簡易生活より外にない

萬朝報社長　黑岩周六

所詮は此の矛盾の多い世の中に於て、幾回も失策を重ね、右に行きては頭を打たれ左りに向きては鼻を折られして、殆ど泣くにも泣かれぬ如き辛い經驗の後に自得せねば處世の方法は分る者に非ず。人各々性格の異なるに從ひ處世の方法も異なる可ければ、一言にして――否數言にして――否數百千萬言にして、何人にも通用すべき處世の法を悉さんことは不能であらう。寧ろ其樣な處世の法は無いと云ふのが適當であるかも知れぬ。

此樣な中に、唯一つ、今日の世の中に施して殆ど誤らぬ明白な法がある。之を他人に敎ふるのは如何にも吝いけれど、余よりも先輩たる人が既に世に敎へて居るから、余が之を我物顏に吝んだ處で仕方がないと、諦めて止むを得ず告白すれば、其れは簡易生活である。

今の世は贅澤生治、複雜生活、多費生活、多手生活の渦が滔々として社會に漲ると云ふほどの有樣で、誰も彼も贅澤を以て文明の徵となし、之を追ふて趨る風がある。或は贅澤生活が眞に文明の眞理で有るかも知れぬけれど、何人も贅澤の爲めに濫費し、贅澤の爲めに借金し、贅澤の爲めに首をも縊り兼まじき際なるだけに、獨り此潮勢に逆行して簡易生活を施行する人が有らば其の利益は莫大で、生存競爭のグラウンドに於て第一勢者と爲るのは必然の事である。余は簡易生活より外に、今の世に最も適當なる可き處世の法あるを知らぬ。

現在の職務に忠實なれ

早稻田大學講師　安部磯雄

西洋の諺に「小事は小事なれども、小事を忠實に勤むるは大事なり」と云ふのがある。余は之を坐右の銘として居る。

何んなに小さな事でも忠實にせねばならぬ、と云ふ考で總ての事をやつて居る。村長は村長の事に忠實にして居れば職に不忠實な大臣よりも偉いと思ふて居る。余が現にやつて居る現在の位地に就いては少しも不滿を抱いて居らぬ。自分の位置、自分の事業に對しては有りだけの力を盡さねばならぬ、自分の目的は他にあるなぞと云ふて不滿ながらも現在の位地に居るやうな事は失敗の本である、現在の位地現在の事業に忠實であれば、社會は何時までも默つては居らぬ何時か知らんモツト樞要な位地を與へるやうになるのである。鐵道の改札口に人を押し除けて行くやうな事は余が處世

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

法ではない、自然と人が改札口まで押し寄せてやる。それでなくては本當でないと思つて居る。

一以て之を貫け

早稻田大學長
法學博士　高田早苗

別に新らしい事でもあるまいか、自分でも行り、人にも勸めて居るのは、一以て之を貫く、即ち終始一貫である。一以て貫く事は聊か自分も心がけた處であるから、平生此點に重きを置き毎年の卒業式などにも何時も其の話をして居る譯である。

早稻田大學も今年で創立以來滿三十年となる。回顧すれば明治十五年と云ふ年の七月に初めて帝國大學を卒業して此十月に此の學校を開け爾來同志と共に不肖乍ら一面は經營に關して、一面は學生を教授する事をやつて所謂終始一貫繼續的に努力したといふ事が今日學校をして多少世間に知れるやうにならしめた總ての原因とは云へぬかも知れぬが、確かに一の原因であるとかう思ふて居る。他の點に就いては後進に對して教へるとか示すとかいふのは乏しいのであつても、その點丈は實行して來た事であるから、その點に就て特に重きをおいて學生に訓示して居るわけである。殊に今日の如く、世の中の競爭が甚だしくなつて就職難といふ事が青年の間に盛んな時勢である。一層、一以て之を貫くといふ事の必要を深く感ずる。

何をやるかを定めて奮闘せよ

救世軍大佐　山室軍平

世を渡つて行くには最初自分の天職を見附ける事。即ちこれが自分の命の捨て所であると云ふことを見つけるのが困難である。

余は之を見つける事に困つた。十五歳の時東京へ來たけれども金が無いから、築地の活版所へ入つて十七まで勞働を續けた。此處に居る中に段々と惡風に感染して來たのである。米國獨立戰爭の歷史を讀んだ中に或る豪膽な大將があつて敵彈に傷つき乍ら一方の手に悠然と烟を持ち、片手に劍を執つて兵を指揮したといふ事があつたが、是等は當時の余に取つては煙草を喫む事のみを數へるのであつた。隨分酒も煙草もやつたもので、十日計り後には惡い事を習ふ約束もあつたが、その前にフト途の休憩時間に橋の袂へ行つて見ると、路傍演說が始まつて居つた。其演說を聽いて端なくも好奇心が起つた、而してそれ以來耶蘇の說教を聽きに行くやうになつた。それから段々と職工の風俗が非常に惡いと云ふ事に氣が附いた。而して當時勞働者であつた余は勞働者の改善と云ふ事に志した。

是、余が志を立てた初めである。他の職工等にすゝめたけれども誰一人聽かうとするものがなかつた。其處で余は感じた、耶蘇教は善いものであるけれども、平民に觸れて居ない、依つて出來る事ならば、成るべく平民に觸れて話しても分り易く、書いたものも無學の人に分り安いものを書き度い、と思ふて將來平民的の宗教家にならうと欲したのである。

其處で活版屋を罷めて京都の同志社へ行つた。併し學資金がないので、門番をしたり賄の給仕をしたり或は孤兒院の世話などをした。そして平民には緣を繋いで居つた。その間十分に飯も食はず、鹽などを菜にして僅かの米を食つたと云ふやうな事もある。空腹をかゝへて兵式體操をやる時などは隨分閉口した。二十三の時同志社を出たのであるが、卒業後一年だけは全く迷つて終つた。と云ふのは何う云ふ風にしてよいか、平民の爲めとは思ふものゝその方法が分らなかつたのである。其處で一度は普通の宣教師となつた、けれども目的通りに平民に觸れる事がなかつた。よつて今度は百姓になつた、がこれも旨く行かなかつたので、一層の事東京に出て勞働者となり皆が煙草を吹かすあひだにでも傳道したいと思ふて東京へ來て、ある琺瑯業者の家へ入り込んだ、所が是又思ふやうに話を聽いて呉れるものがなかつた。然るに其頃救世軍が日本に來たのである。同軍の事は豫て書物で知つて居つた。併し初めの中見かけは變だと思つて居たのである。けれども此主義と精神とを日本に同化したならば、他の何の遣り方よりも平民に近づけるだらうと信じたので、斷然此の救世軍に身を投ずる事にした。それが丁度廿八年の春であつた。其間の苦心は非常であつたが兎も角平民の爲だと考へて居つた事は十分此の救世軍で遂れると信じたのである。而して此處が命の棄て處だと思つてゐた。

余の實驗から言ふと、人は何故に生きるかといふ大方針を見つけ度いものである。併し時勢が變つて行くから讃め細い事に立至る事は出來ないけれども、大體自身に適ふものは何であらうかといふ事を最初に極めてそれを見附けたならば後は奮闘する事であらうと思ふ。失敗は無論あらうがその失敗を踏み台として飽くまで奮闘すべきである。

勤儉主義實行主義

安田善次郎

余は元來、實行主義である。如何に名論卓説がありとも如何に良い考があつても之を實地に行ふでなくては何にもならぬ。余は今日まで苟も之が良いと極めた以上實行しない事はない。處世の方針として居るのは勤儉貯蓄であるが、是は言ひ易すくて却々行はれ難いものである。だから此の方針を實現する爲めには、非常なる勇氣を以て克己よく萬事に耐え遂に之を實行して來たのである。是、余が年來實行し來つた處世の方針であつて人にも勸めて居る處である。國家々々と云ふものがあるけれども、先づ一身一家が修まつて克く之が整へねばならぬ。それが出來て初めて國家を論ずべきである。

他人の手足を借るな

女子商業學校學監　嘉悦孝子

▲妾には只、「怒るな働け」と申す外、世の中を渡る主義はありません。此事は、妾共の學校の生徒などにも平常からよく申聞かして居るので御座います。

▲一概に働けと申しましても、頭の勞働も御座いますれば又、手足の勞働も御座います。其、どちらを先にす可きかと申しますれば、女と生れて、手にヴイオリンを下げる事は出來ても自分の寢床も上げられなければ、部屋の掃除も出來ない樣では致し方が御座いません。デ、妾は、まづ手足を働かす事をお勸めするのです。床も自分で上げれば、部屋の掃除もする、猶、進んでは雑巾掛も厭はぬと言ふ風に働く事を望むのです。この事は、女ばかりでは御座いません、男の方にも是非斯うあり度いと思ひます。

▲これは、昔からの慣性でも御座いましやうが、手足を動かして働く事を卑しい事の樣に思ふ人も少くはありません。手足を動かさないで居る事がエライ人の樣に心得て居る方もありますが、之は、飛んでもない間違つた考です。健康上から申しましても、經濟上から申しましても、將又、道德上から申しましても、手足を働かさぬと言ふ事は甚だ不都合な事だらうと思はれます、同じ人間を無暗矢鱈にコキ使つたり、十分働ける體を持ち乍ら他人の厄介になると言ふ事は、人としてなす可き事では御座いますまい。無論、頭を働かす事は非常に必要な事でありますが、其頭を働かす前にまづ、手足を働かすと言ふ事が、妾の處世上に於ける方針で御座います、

女に處世の方針なし

實踐女學校々長　下田歌子

▲女と申しますものは、ごうしても、夫をもたねばならぬ〱ので御座いますから、豫め、處世の方針をたてましても、その通りにまゐる〱のでは御座いません。近頃、女の獨立と云ふ樣な議論が大分御座います樣ですが、妾は全く之に反對で御座います。

▲如何なる事が御座いましても、女は是非とも結婚しなくてはなりません。而して結婚後は、一意、夫の命令に服從してよく家庭を修めて行かねばなりません、夫が岩を砕くと言へば、妻も亦共に之を砕き、夫か右を行くと云へば之に從ひ左を進むと言へば、亦之に伴ふのが、女として此世の中に立つ根本の方針で御座います。

▲只一つ、こゝに服從してはならぬ事が御座います。それは外ではありません、夫が、不義、不正の事をしやうと云ふ場合には、飽くまで之に反對しなくてはなりません。昔は、夫を諫め慰めた烈女とか貞女とか申す女も澤山御座いましたが、今日は反て、夫をして不正不義を働かすの餘義なきに至らしめる心得違ひの女も少くはない樣です。

▲夫の收入も考へず、只、自分の虚榮心を滿さんが爲めに、ヤレ、吾妻コートが欲しいの、ヤレお召の着物が着たいの、ヤレ、ダイヤモンドの指輪が欲しいのと、其身分も考へずに矢鱈に夫に向つて無心を申出る結果一定の收入ではやりきれず、遂に不義不正の事をしてまで妻の要求を容れやうと言ふ者も少くは御座いますまい、若し、女に奇麗な風をさせないと、意氣地のない夫として之を蔑むと言ふ風があります。

▲且又、夫が非常に情け深い人にも拘らず、矢鱈に女中を叱り飛ばす妻君や、儉約を楯に取つて出す可き金を惜んで夫の顏を傷つける樣なのも見受くる所で御座います。妻が夫に從はない結果は皆かう言ふ事になるので御座います。デ、妾は女として世に立つには飽くまで夫のなすが儘に之に從はねばならぬとおもふので御座います。(以上實業の世界)

只義務を盡すにあり

農法學博士　新渡戸稲造

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

…伊藤公でさへ人物を測る標準は事業にあると云はれた。此言葉は伊藤公だけの事業なる文字に就ての解釋があらうが、此言葉が凡人の耳に這入れば、直ちに所謂成功なる文字に飜譯せられて、俗の言葉に譯すと、『うまくやつた奴がうまい奴』といふ事になつてしまう。僕は決して名利が惡いとは言はない。名も利も求めずして來るものならば拒むべきものとは思はぬ。然るに名利にはこちらから追ひ驅けて、或は他人を設けたり、又已れの本心に背いても得んとするは是は誤つた事である。否惡いこととなるのである。然しながら決して果報は寢て待てと言ふ意ではないが、已れの正しいと思ふ事、己の信ずる事さへやつて居れば、名利が來やうが來まいが、敢て頓着すべきものではなからうとおもふ。眞意の成功なるものは、已の本心に背かず、已れの義務と思ふものを全うするの一點に存するのであつて、失敗なるものは已の本心に背き、已の任務を忘るに在る、故に成功だの失敗だのと云ふ事は、世の中の人には仲々解るものでないとおもふ。（實業之日本）

○宗教

基督教界最大の問題

基督教世界（組合）

百川の海に朝するが如く、世界の道路が羅馬に集まれる如く、現今基督教界の凡ての問題は結局人物の有無と云ふ一事に歸着して仕舞ふ。何事をするにも人物が本であることは今更云ふ迄も無いが、い別けても宗教界の問題は人物が凡ての凡てである。社會の人心は漸やく宗教的に覺醒し來り、基督教に對する人心の要求は次第に切實を加へてくる。傳道の門戸は到る處に開かれんとし、熱心なる求道者は吾人の前後左右に控へて居る。然るに之に應ずる丈けの實力が果して今日の基督教會に存するであらうか是が大なる疑問である。

三教會同の後ち當然最も影響の多かるべき地方の傳道界に於て、活動の範圍は廣くなり、人心の期待は著しく其度を加へて來たに拘らず、偖て基督教會の内部に果して之に適應する丈けの準備が出來て居るかと云へば、殘念ながら聊か立後れの氣味がないではない。是は獨り地方在住の牧師傳道師に人物が缺乏して居ると云ふのみではない。それも有らう、併ながらそれと同時に教會の信徒間に相當の人物が居らぬとは此際最も目立つ所である。牧師が神學校出の少壯者であるにしても、之を補佐し之を推立てゝ堂々社會に進擊する丈けの元氣と實力が教會の内部に充溢して居れば、此際社會の要求に應ずるを敢て難くはあるまい。傳道の不振とか教務の萎靡とか云ふと、一にも二にも之を教役者の責任に歸して仕舞ふのは大なる誤りである。基督教は僧侶制度の宗教ではない。傳道の責任は凡ての信徒の肩に懸つてをる。爾等往きて萬國の民に福音を宣べ傳へよとの主の遺命は、獨り少數の教役者に向つて與へられたのではない。普通のレイマンが各自牧師傳道師たるの使命に感じて起つ所に基督教會の生命は存するのである。吾人は此際教會の信徒諸氏に向つて一大覺醒を促さゝるを得ぬ。

潜める生命

福音新報（日基）

生命内に充ち溢るれば、從來の形式若くは組織にては之を從へ能はざるに至る。蛹成長すれば、莢を破り新しき形を取りて出で來る。新しき木の芽の發育するや、古き葉は次第に落剝し去るなり。新陳代謝は總ての生物の發達に伴ふ現象なり。國家の盛衰興亡、英雄の進退出沒、歷史の舞臺は其の背景も人物も絕えず千變萬化し行くなり。

今日我國の基督教會に於ては、組織に拘束せられざる個人の努力を尊敬するの必要を感ぜずんであらず。過去半世紀間に發達せる其の生命は今や漸く第二期に入らんとしつゝあり。其の思想の形式に於ても、其の教會の遣り方に於ても、其の局に當るべき人物に於ても、漸を追ふて新陳代謝すべき時代となれるが如し。然れども若し今日の儘にて推し移らば、我國基督教の前途又憂ふべきものなきにあらず。我等は此危機に際し只だ其の潜める力と生命の活動に待つの外なし。

基督教は生命なり。或る變化なき傳說若くは教義に閉ぢ込め置かるべきものならず。其の生々として常に發達しつゝあるは、他宗教に比して異彩を放つところなり。基督教には發達の限りなき力と、新しき事情及び必要に適應する力とあり。耶蘇の齎らしたまへる使命は大體に於て異るところなきも、時代を經るに從ひ其の異なりたる形式を取るに至るは寧ろ自然の勢ひなり。耶蘇の活ける靈は我等に常に新しき眞理を闡明せらるゝなり。是れ第四福音書記者が早く已に唱導せし

ところにして、其の書は其の大いなる實例なり。彼は新しき言語と、最近の神學の形式とに由りて基督教の翻譯を試みたり。

耶蘇在世の當時に於ては未だ見ることを得ざりし問題と思想とに觸れたるなり。人の心に潛める耶蘇の靈的生命は今日も尙ほ進步しつゝあり。從つて之を表明すべき形式も亦進步せざる可からず。數年前世に發表せられ、英國の神學界に於ては多少の波瀾を起したるカンベル氏の新神學は、近頃我國にも翻譯せられたり其の後同氏の意見は稍中和せられたる節なきにあらざるが如きも、兎に角基督教を近代思想に適應せしめんとせし試みとしては取るべきものあるべし。然れども我等は只だ是れ位にては到底滿足すること能はず。更に根底深き、精練せる思想に觸れんことを欲す。我國の基督者は此點に於ても大に注意し、其の思想の內容形式共に益す健全に發達し、豐富にして徹底せるものたらしめざる可らず。(S)

實際生活の根底

護教（メソヂスト）

哲學と云へば大層むつかしいものゝやうに思はれるのであるが、實をいへば人は誰でも一種の哲學をもつて居るもので、其哲學に依て動いて居るのである。例へ我々はお腹がすく、お腹がすけば物を食ふが、之が人間以外のものであれば、其處に食ふものがあれば、誰の所有たるを問はず之を食ふのである。時には之がため頭を撲たるゝこともあらう、追駈けらるゝこともあらう。がそんなことは少しも考へぬ。是れ人間以外のものには思想がな、故に思想に依て動くのではない、性慾に依つて動くからである。人は之に異り、假令眼の前に珍味佳肴があつても食ふべきものに非ざれば決して食はぬ。不義の財には決して手をつけぬ。斯ゝる人は「渴しても盜泉の水を飮まず」と云ふ、「蔬食を食ひ水を飮み肱を曲げて之を枕にす、樂亦其中に在り、不義にして富且つ貴きは我に於て浮雲の如し」と言つて居る。其れが即ち其人の哲學で、其哲學が實際の生活を支配して居るのである。之に反して世の中には不義の快樂に耽り、飮食衣服の慾を恣にして居るものがある。彼等は犬猫の如くに之を無心になすのではない、性慾に驅られて動くのでもない、實は「飮食に如かず、明日死ぬべきものなれば也」との哲學が、其實際の生活を支配して居るのである、肉食家が肉を食い、菜食家が野菜を食するのは、其嗜好にも由ることであらんが、肉食が滋養多くして健康に益ありといふ思想が人を肉食家たらしめ、菜食は健康に適するのみならず人道に適へりとの哲學が人を菜食家たらしむるのである。或人々は衣服、髮飾りのことには毫も頓着せず、他の人々は之に向つて至大の注意を拂つて居るが、斯る些細のことも其源を質せば其人々の有する思想又は主義より來るもので、即ち人は其特有の哲學に支配せられて居るのである。感情の力も大なるもので或意味から云へば、人は感情の動物であるといふことも出來るが、其感情を動すものは即ち思想で、哲學が好惡の情を遣るのである。

故に如何なる思想を有し、如何なる哲學に支配せらるゝかは個人に取りても社會に取りても大切な問題である。世の德教家と稱する者の中には、道德は實踐が大切だと言つて、頻りに實踐道德の必要を叫ぶものがある。今日の文部當局者や學校の教師の多くは即ち是れである。而して彼等の所謂實踐道德なる者は忠臣孝子なぞの事蹟を諳誦せしむるに過ぎぬのである。道德が實踐を重んずべきことは言ふ迄もないが、前にも言つた通り人を動かすもの其人の思想で、實踐の前には先づ之を動すべき哲學が入用なのである。今日の青年は道德の權威に疑を挾んで居る。彼等は何が故に道德を行ふべきやの理由に惑ふて居るのである。斯ゝる人々に向つて忠臣孝子の事蹟なぞを說いたとて、徒らに反抗心を增さしむるのみで、何の益があらう。今日の學校德育が失敗に終るのは素より當然である。我々の思ふ所に依れば、今日の急務は道德哲學の基礎を築くことである。我々は何が故に忠なるべきや、何が故に孝なるべきやの原理を明にすることである。之が明かになれば自然道德が實踐せらるゝのである。（高木壬太郎氏）

家庭以外の家庭

基督教週報（聖公會）

家庭は人生の樂園なり。夫婦親子兄弟姉妹を結合せる愛の集團なり。日本の如き家庭本位の國に於ては殊に然りとす。然るに人或は家庭以外の家庭を作りて、自然ならざる愉快を貪らんとするものあり。是れ人生の本義に悖れるものなるを以て精神的自殺を意味するのみならず、早晩肉體的滅亡をも來すものと知るべし路加傳十五章に記されたる放蕩息子の生涯は、之を說

明して餘りあり。彼の家庭は幸福なる家庭なりき、父と二人の子にして多くの傭人を使用せる有福の家にてありき。斯くの如き幸福の家庭に生存し、而して尙其幸福を繼續し得可き境遇にあり乍ら、季子は分配せられたる財産を以て父の家を去り、家庭以外の家庭を作りて放蕩の生涯を送りたり。果せる哉彼れの末路は悲慘なる生活をなすに至り、悔ひて再び本來の家庭に歸ることゝなれり。

世には此放蕩息子以上の生涯を送れるもの蓋し多かるべし。溫き親の膝下を離れ、愛に厚き巣を僞り、家庭以外の家庭に不義不德の快樂を貪れるもの擧げて數ふべからず。彼等は遊廓の二階に家庭を作り、待合の燈影に家庭を作り、妾宅の一隅に家庭を作り、銘酒屋に、料理屋に家庭を作れり。而して今日の家庭は明日の家庭と異るものあり、或は甲と乙との二家庭を作るものあり。然かも此等が眞正の家庭以外に於て作られたるものなるを思ふときは、人情の轉倒せる如何に甚しきかを驚かざるを得ず。僞家庭に三絃の聲ある時は正家庭に斷腸の聲あるときなり。墮落の淵を快樂の巷と見せ、滅亡の家を樂園に擬するは狐にあらずして惡魔なり。惡魔は日夜多くの子供を眞正の家庭より誘出して僞家庭の人たらしむ。然れども其惡魔に誘惑せらるゝ其人も亦其責任を分たざるべからず。誘惑するものと、誘惑に陷るものとは同罪なるを免らざるべからず。

碧眼の行脚僧

敎報（從前）

修道の根據地を姫路に置いて、播州の津々浦々はもとより、西は遠く伯耆、因幡、美作、備前、備中の諸州より、東は近江、山城、攝津、北は丹波、丹後、但馬等二府五縣に亘れる幾百萬の農家を片つ端から訪問して、頻りに敎への道を勸むる一風變つた外人がある。年の頃は一寸眼には六十五六歲かとも見らるゝ白髮童顏の老人で、其名をエドキン、ベイカーと呼び我國傳道界の一大偉人とも推稱すべき人であるが斯ういふ逸話がある。それは三十七年の八月の事で、氏夫妻は避暑の爲め播州鞆田の溫泉に赴いたが或日夫婦打連れて近村へ傳道すべく出掛けた。途偶々七十餘歲の一老婆に出會したので、誰にでも先づ『今日は――』と聲を懸くる癖なる氏に、此時も何處へ赴かるゝやと問ふた老婆は涙を双眼に浮べて、養子某なる者近村に車夫稼業を爲し居れるも、放蕩無賴にして金を寄越さぬので止むなく身を寄するか爲め赴く途なりと答へた。氏惻隱の情勃然として起り『世の光』なる冊子と共に、晝飯にとて溫泉の女將が用意して呉れた行李辨當を與へ尙諄々と敎へを說いた。鳥子夫人も側より若干の金を與へて去らしめたが、程經て空腹を覺えたので鳥子夫人は夫を田の畔に腰打ち下さして、己が持てる辨當を折半して共に晝餐を喫せんとしたが、ベイカー氏は手を振つて『自分は既に彼の老婆に食を與へたので予の喰ふべき料はないと云つた』といふ事である。

氣休めの長壽法

ときのこえ（救世軍）

支那の北京で、吳廷芳といふ老人が、百二歲を一期に此世を去つたといふ。此老人は兼て人間といふ者は百五十歲迄生きることが出來るものであるいふ說を主張して居たのであるが、曾て或人が此人を問ふて、其長壽の秘訣を尋ねた所、老人は其のお客を自分の寢室に案內して、寢臺の上の扁額を指し、「私は毎朝起きる時之を眺めて其日を愉快に過し得た。之が私の長壽の秘訣であります」と答へた。而して其扁額には

「余は靑年である」
「余は強健である」
「余は快活である」

と書いてあつたそうである。成程斯ういふ工合にして朝から晩まで出來る丈元氣に愉快に時を過すことを勉めたならば、或は隨分長生をすることが出來るかも知れないけれ共、其でも死の冷たい手は、一度は來つて觸れずには居らぬ。然うなつて來た日には、如何に「私は靑年だ、私は強健だ、私は快活だ」と、自分で自分に氣休めをいつた處で到底追付なくなる。此世につける總ての希望が姿を隱す時、尙も私共の心の底に、揺がぬ平和を與へ得るものは、基督の賜はる救の實驗より他ないのである。貴君は此貴き救の惠を自分のものとして居らるゝか如何。

家庭と基督教と

田村直臣

△家庭と國民

内務次官が頻りに國民に宗敎の必要なる事を主張せられたのは、正しく家庭に宗敎の必要なる事を主張せ

られたのと同樣であります。國民は家庭から離れて、別に存在する事は出來ません。家庭があつて始めて國民が出來るのであります。國民に宗教が必要なれば、家庭に宗教の必要なる事は、論ずる迄もない事であります。

△日本に於ける今日の基督教

基督教が日本に這入つてから、未だ漸く五十年より經たないのであります。從つて日本に於ける基督教は未だ日本の家庭の宗教となつてゐないのであります。家庭に於て夫婦は云ふに及ばず、子供迄一家殘らず、基督を信ずる家庭は未だ極めて少數であるのでありまず。基督教は日本の家庭の全體に感化を及ぼして居らないのであります。ほんの家庭の内の一部にのみ感化を及ぼして居るのであります。

△家庭と社會改良と

社會を改良する健全なる方法は、家庭を基督教化するにあるのであります。社會を改良するには、家庭を本位としなくてはなりませず。例へば流れ川の濁つた水を清めるには、其源を清めなくては、その水の清くなる理由はありません。家庭を清めずして、社會を改良する事は出來ません。今日日本の社會の腐敗は日本の庭家の腐敗して居る證據であります。宗教の力によらなければ家庭は清くなる途はありません。日本の家庭に宗教の感化が普及しない内は、本當に日本の社會を改良する事は出來ません。(ホーム)

日曜學校問題

太陽時評記者

是まで東京市其他の基督教會にては、多くの日曜學校を設け、小學在學中の男女兒を集めて、日曜日に教育を施し、又佛教の方面に於ても、同樣日曜學校を開けるもの少なからず、而して恁かる種類の學校は、内務省の三教會同の計畫ありし以來、一層其の事業を擴張せんとするが如き傾向あり。例へば基督教の側にては、先月東京全市の日曜學校生徒を日比谷公園に集合せしめ、それより宮城前に至りて遙拜式を行はしめたる生徒數約六千人に上れるが如き、又佛教の側にありては、高楠順次郎氏の編纂になれる「佛教主義統一日曜學校教案」「統一日曜學校用カード」等を發行し、佛教徒の經營せる日曜學校に教科書を提供せんとするが如き其の一例と見るべし。

斯る學校は素より學校教育を助けんとする精神より出たるものにして、其日曜學校の教育も、無論基督教又は佛教の教義、儀式を教授することなく、唯其宗教に向ふ門戸を開くに過ぎざるべきも、中には又學校教育を阻碍することなしとも言ふべからず。果して然らば斯る日曜學校と、普通の學校との間に、何等かの聯絡機關を設け、互に其教育を阻碍せざるのみか、之を助くるが如き計劃をなすを要す。例へば小學校長又は教員と、日曜學校に於ける宣教師、僧侶との間に、意見の交換を計るが如き、或は日曜學校の教科書に、一般學校の教育者の意見を容るゝが如き、何等かの聯絡を付くる必要あるべし。

此日曜學校に限らず、中學若くは夫以上の宗教學校にありても、其宗教的の教育は、學校の課程以外に立てるも、其間の關係は尙ほ曖昧にして、是以上に何等か明確なる區劃、又何等か明確なる聯絡を付するを要すべし。内務省の三教會同の計畫に依り、此問題は教育社會に從來より一層明確なる解答を促し來れり。

(○婦人の修養)

奉仕の精神

女子大學校教授　松浦政泰

最も必要なのは奉仕の精神である。尿しの嚢は誰れに世話させた。衣服は誰れが着せてくれた。提答以來の食事は誰の額の汗の結果ぞ。小學校以來の教育費は誰れの懷から出たぞ、今着て居る着物は誰が織つて誰が縫ふたぞ、今食べる米は誰が蒔いて誰が苅つたぞ、親しく來れば、臍の緒きつて以來身につけたもの腹を肥したもの、心に收めたもの、皆悉く父母の世話だ、親類の世話だ、友人の世話だ、我等世に負へる所斯の如く大なることを思へば我等が世に盡す所も亦大なるべきである。三寸呼吸の絶えし時負へる所と盡した所と差引勘定に負へる所が多かつたら、其人は無用の人だ、盡した所が多かつたなら其人は有用の人だ、そこで我等は二六時中

つとめてもまたつとめても勤めても
勤めたらぬはつとめなりけり

と勤めに勤めて世のため人のため、何者かをなさんと千思萬考すべきであつてこそ即ち祖先に對しては立派

な報恩の志、社會に對しては文明といふ松明を親の手から受け取つて子の手へ渡す大切な役目。萬事萬端奉仕の精神即ち人の下に立ち人の足を洗はうとする謙遜な心掛が必要である。働かうにも働けないといふ嘆聲を時に聞く、これは働を選ぶからである。何でもするといふ精神になれば、働は到處に山のやうにあるものである。世には人に冠を被らせやうとする者はまだしもあるが、人に靴を穿かせやうとする手合が少ないのに困る。昔光明皇后は、御手づから一千人の垢を洗はうといふ願を立てられ、日々湯殿で洗はれて居たが愈々九百九十九人目を洗ひ、今一人で滿願といふ時、實に見るも胸悪い癩病患者が來た、手足といはず總身が爛れ壊れて膿血が流れ、悪臭鼻を衝くばかり、流石の皇后も逡巡せられると患者は我れも人の數には洩れないものを、脊の垢を掻取りたまはぬかといふ、「皇后も此の一人で大願成就と、强て思ひ返して脊の垢を洗ひ落して居られると、患者は又我か悪疾は人に膿血を吸せると癒る。お后様どうかお慈悲に吸つて病苦を除いて下さらぬかといふ。皇后も切な頼みに絆されて、首から踵の先まで吸られてから、決して人に語るなよといはるゝと、患者は忽ち大光明を放ち、「我れは阿閦佛なり決して人に語るなよ」といふを驚き見れば、妙相端嚴香氣馥郁たる佛佗であつたといふ。身、皇后には遙かに及びもつかないのに、今日の貴婦人は美食に飽きたがり美衣を着たがり働は避けたがり面倒は逃げたがりして、而も一旦困難が落ちかゝり不幸が襲ふて來ると失望し落膽し人にもたれ掛り人に厄介を掛ける者が多いでないか。（女子文壇）

女子の虚榮と日本の美風

松村介石

私が東京へ出て來る時、大森の停車場に立つ毎に、お嬢様所謂貴婦人と云はるゝ御方、淑女と稱せらるゝ方が、顔に紅粉を粧ひ、身に文袍を纏ひて、如何にも其媚を賣らんとし給ふが如き風情を見る毎に、其俗懷と虚榮心との暴露を見るに堪えず、目を閉ぢ顔を背けてこれを見ざらんと欲する事が、誠に屢々あるのである、而してこの風俗が嵩て人心を腐敗せしめ、終に我が國家をして、第二の羅馬帝國たらしむるのではなかろうかと思ふと轉た嘆息の涙に咽ばずに居られない。

支那の詩經と云ふ本に「錦を衣て絅を尚ふ其文の著はるゝを悪んでなり」と云ふ教訓がある。餘りピカピカ光つて人目に立つて不可んから、其錦の上に絅と云ふ極く薄い絹を羅はせて、而して餘り外部から見てピカピカ目立たぬやうにする、其の文の著はるゝのが嫌だからと云ふ意味であり、そして昔日の武士の家庭では極めてこの命誡が遵奉なしたものであつたから、上流の奥様やお嬢様達が、ピカピカした上等の着物を着て往來狹しと見せびらかして歩るくやうな事はなかつたのである。然るに近來の御婦人はどうでせうか、この様な奥床しい高雅な風俗は頓と廢つてしまつてイヤハヤどうも其文著な事は誠に驚くの外はない。まるで藝者か娼妓のやうな風俗がある。一體このピカピカを好む風俗は歐米諸國から輸入されて來たもので、また衣裳ばかりでなく西洋の風俗が眞似損ねて、白晝人目をも憚らず手を携して得意な顔をする男女はありはすまいが、聞く處によると近來歐米では日本の風俗が流行して來たとの事である。どうか「錦を衣て絅を尚ふ」の高雅な我が國の美風を頽落させぬやうに勉めて頂きたいものである。（新女學）

婦人修養の心得

文學博士　中島力造氏

私は或る外國人の先生から、一つの教訓を受けた事がある。夫れは、私の未だ學校生活をしてゐる當時の事で、或る時その先生に、學校の授業のうちで、何の學課を選んで勉強したら可いでせうと聞いた處が、其先生は、私の一番嫌ひなものは何かと問かれた。私は何々が一番嫌ひですと答へた。すると先生は、そんなら、其一番嫌ひな學課を遣れと謂はれた。其時私の考では、嫌ひな學課を遣るよりも、好きな學課を勉強した方が成績が良いから、好きなものを遣つては如何でせうと聞くと、先生が謂はれるには、人間には各好き嫌ひがある。嫌ひな事は捨てゝ置けば益々嫌ひになつて、遂には敵に成つて畢ふ。夫れに若い時は、弱點を補ふ事が易いから、弱い嫌ひな事は、今のうちに遣つて置く方がいゝ。嫌ひな事でも、絶えず遣つてゐさへすれば、終には面白味が出て來て、好きになるものである。加之ず、此結果は引いて學校を卒業した後になつても、嫌ひな事を、辛抱してする習慣が付くと云ふ利益があると教へられた。其處で私は、夫れでは學校の成績が悪いでせうと問ひ返すと、先生は一段と詞に力を入れて、學校の成績などは何うでもいゝ。何でも嫌ひなものを遣るのがいゝ。好きな方面のものは何日

でも出來る。嫌ひな事は、學校時代に遣らなければ、遣るべき機會が無くなるから、益々跛になるものであると云はれたので、私は非常に此詞に感動されて、私の一番嫌ひなものを學ぶ事にしたので、今日では大に利益を得たと深く感謝して居る。

女子は殊に此好き嫌ひが甚だしいもので、得て好きなものをやりたがる傾向があるが、これは甚だ宜しくない。世の中に生きてゐる以上は、嫌な事にも打ち克つ事の出來る習慣を養つて置かなければならぬ。世の多くの女子が、成績の爲に勉強するのは間違ひで、何れの缺點でも補へる時に能く補つて、一方には忍耐力を養ふ事に努めなければ不可ぬ、

殊に人間と云ふものは三十歳を超えると、自分の缺點を補はんとしても、もう其時は時機が過ぎ去つて畢ふのである。譬を以て、植物で云つて見ると、或る時機には、枝を曲げやうと何うしやうと、自分の好きになるのであるが、此時機を經過すると、既う不可ぬ。夫れを無理に自分の思ふ樣にしやうとすると、却つて其處から折れて枯れて畢ふのである。人間も丁度これと同じ事で、或る年齡を經過すると、其缺點を補はうとしても、既う及ばぬ。其儘不具者になつて畢ふものであるから、廿以下の高等女學校時代に於てよく自分の缺點を考へ、之を補ふやうに努めなければならぬ。（婦女界）

繼母繼子と云ふ傳說

農學博士　横井時敬氏

最後に今一つ申添へて置きたいことは、日本には古來、「繼母繼子」と云ふ悪い傳說があることであります。繼母は必ず繼子を酷めるものと思はれ、繼子は必ず繼母に酷められる者と思はれ、所謂繼母根性と繼子根性とは互に因となり緣となつて益々烈しくなつて行くのでありますが、此が全く傳說が悪いからであります。今日でも學校で繼母繼子の話などをするやうでありますが、此は非常な間違であります。其麼ことは初めから無いものにして置けば自から消滅して了ふのであります。實際傳說程人の心に深い影響を與へるものはありません。ことに倫理上のことは然うであります。而も今日の如き過度時代に當つて新舊思想の相衝突する際でありますから、今日の事情にしつくりと合ふやうな道德上の新形式を生み出さなければ、たとへ今後幾年經つとも、老人連の口から世は澆季に及べりとの嘆息を絕つことは出來ないと信じます。（婦人畫報）

交際上手の支那人

服部文學博士夫人

支那の貴婦人は快活で日本の貴婦人などよりも交際が廣い、從つて人に馴れて交際も中々上手です。日本の貴婦人と支那の貴婦人とを比較すると、どうして、どうして日本の貴婦人などは到底支那の貴婦人には及ばない。人をそらさない、人に快感を與へて、そして人と親しみ易いと言ふ態度は、日本の貴婦人などの眞似も出來ない所です。

初對面の時なぞでは、日本の貴婦人でございますと却々打ち解けて御話をなさいませぬ。それは何故かと申しますと、若し初對面の時に餘り打ち解けて話をしますと直ぐ悪口を言ふ方がありまして、彼の方は初めて御目に掛つたのに斯う言ふ打ちあけた事をおつしやつた、ずゐぶんだわ、と言ふ樣な事を申す方があるものですから、それで大抵の方は初對面の時は殊更打ち解けない樣になさるのです。それが支那の貴婦人になりますと全く正反對で、初對面の時から打ち解けて御話をなさる態度が、却々巧みで、つひ釣込まれて此方も打ち解ければならぬ樣になるのです。

日本の貴婦人は、外國語の素養のある方でも、容易に外國語を御使ひなさいませぬ。知つて知らない顏をして居るのを女の嗜としておいでになるのです。ところが支那の貴婦人は全くそれと反對で、一言二言より知らない外國語でも、テーブル中に振り廻して愛嬌をふりまくのです。支那の貴婦人が日本の貴婦人と初對面の挨拶をなさいます時でも、一言でも二言でも知つて居るだけの日本語を使ふて、私も—これだけより日本語を知りませぬから、と快活に御笑ひなさいます。斯うして相手を安心する樣になさるのです。假令初對面の時でもしんねりむつゝりして澁い顏して居りましては、相手も安心をいたしませぬから、自然打ち解けた話もいたされませぬが、支那の貴婦人の樣に初めから、知つて居る限りの日本語を使ふて打ち解けてかゝられますと、幾許引込思案の日本の貴婦人でも、知らず／＼打ち解けた話をする樣になります。（女子文壇）

○爲になる話○

▲**政費及び公債**　國民黨の調査によれば英國で

は國債百六十二億二千八百五十萬九百六圓、（一人當り四十六圓弱）、國費三十三億四千五百二十三萬九百九十圓（一人當り八圓三十錢）米國では國債五十三億五百三十三萬千六百七十六圓、（一人當り五十六圓強）、國費は十九億百五十九萬八百三十二圓、（一人當り二十圓二十錢強）、獨逸では國債二十六億九千百十一萬二千圓、（一人當り二十三圓弱）、國費十四億六千二百四十七萬二千八百六十圓、（一人當り四十一圓強）、佛國では國債百三十一億四千五百七十四萬三千四百七十圓、（一人當り三百三十三圓強）、國費十六億七千四百十五萬三千圓、（一人當り四十五圓弱）である。尙我國昨年七月一日現在によると、國債は二十六億八千八十一萬六百十三圓であつて、一人當り五十一圓強に當り、國費（特別會計を省く）は五億五千四百八十二萬二千六百七十五圓であつて、一人平均十一圓餘に上つてゐる。

▲感化救濟事業　全國感化救濟事業の成績は近來著しく見るべきものがある。其事業數は百十四、團體の數三百七十六、經費百三十二萬餘圓に達した。然し乍ら之を歐米諸國に較ぶれば甚だ微々たるもので、其の經費額の如き英米諸國の百分の一前後に過ぎない。而して斯く僅に發達しない理由は主として經費の出所に乏しきが爲てある。若し感化救濟事業にして自立經營の道を得ば、其の進歩は必ず見るべきものがあらう。

尙其經營の方法に就て全國に於ける有力なる救濟感化團體に於ては收容兒童、不良少年を主として就業せしめ、收入の道を講じつゝある。昨年六月東京に於ては小笠原島に救濟學院を設け、七十名の不良少年を送り、農業殖林、漁業等に從事せしめてゐる。此他岡山孤兒院にては日向國茶臼原に七十町歩の原野を買收して孤兒五百名を送りて開拓事業に從事せしめて居るが、その成績は甚だ佳良にして、孤兒教育上大に效果あるのみならず、孤兒院の經濟上に貢する處も亦少ならずと云ふ。斯の如く感化救濟事業の側ら、生產的事業に指を染めたは誠に一擧兩得である。

▲日本國民と肺結核　田代醫學博士の談によれば日本の患者の大部分は肺核結患者であつて、特に貧民患者に於て著しきものがある。現に三井慈善病院に於ては外來患者中の半數を占めて居る。又一般の死亡率で見ると、死亡者の七分の一は結核患者であつて殊に東京市に於て三分の一と云ふ恐るべき統計を示してゐる。何故都會に多いかと云ふに肺結核は空氣傳染であるから、多人數の集合すればする程傳染が激しくなる。殊に貧民窟の如き三疊か四疊間の薄穢い室に、時には五人も六人も同棲して居つて、加之に衞生思想には乏しいし、搗てゝ加へて營養不足の狀態にあるのであるから、其の傳播力は非常なもので、隨て貧民患者に殊に結核症の多いと云ふ結果になるのである。此影響は更に一般の都會住民に及ぼし、終に全都市を擧げて黴菌蔓延といふ戰慄すべき結果に陷る故に、一般の社會政策より云ふも此際特に貧民に對する結核撲滅の必要があるのである。

▲獨逸農村の保護婦　獨逸では靑年や農民が都會に集中し、農村が年々衰微して行くのは、農村はあまりに不便なのと、何等娛樂機關の設備のない爲めであると云ふ處から、一方出來得るだけの便宜を計ると共に、娛樂を彼等に與へて靑年や農民の足止策を講じてゐる。近頃は又高等女學校の卒業生を更らに一年位教育し、之を保護婦と名づけて農村の世話を燒かせ、農村を面白くして無暗に都會に出さぬやうにしてるさうだ。

▲米國中流婦人の奢侈　米國一般社會の奢侈は言ふ迄もないが、其中流婦人社會も又贅澤を極めて居る。たとへば市俄古中流社會に於ける婦人の化粧料は通常一ヶ年三千七百五十圓であつて、之を內譯すれば香水及び香料一千二百圓、白粉料九百圓、調髮料七百圓、調爪料四百圓、雜費五百三十圓で、就中贅澤な婦人になると香水だけに數千圓を費すものがあるさうな。

▲世界の人口減少（土井醫學博士の談）　今や歐米何れも國力問題に腐心し、衞生設備と結核豫防を以て、只管死亡率の減少を計りつゝある。マルサスは其著「人口論」の中に人口增加と食料品增加と比例せざるが爲、今に世は累々たる人間の屍を以て埋められるといつたが、幸か不幸か此の豫言は適中せず、世界は人口の過多に苦しまず、寧ろ其の過少に惱みつゝある。佛國が人口の減少に苦しめるは知れ亘つた事實だ。而して歐米諸國之に傾かんとしつゝある。米國ではベンヂヤミン、フランクリン時代の人民は一夫婦に八人の子あるを普通となし、此標準より打算し、米國の人口は一千九百年に一億人を算ふべしと見積りしも、事實は十年を遲れ、昨年に至つて漸く一億となつた。彼等は最早や八人の子供を普通となさずして、二人の子供を理想とするに至つた。獨逸は歐米諸國中人口增殖の國なれど尙且所謂二人子供制の思想が國民の多數に侵蝕しつゝあること最早や爭ふべからざる事實である。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

斯くて避姙法は行はれ、人口減退を生じ、二人子供制の思想は生理上の根據より出でたるものにあらず、寧ろ經濟上の見地より出でたるものだ。生活難日を逐ふて激甚を感ずる今日、若し多數の子供を持てば到底生計を維持するに堪えぬといふ話だ。何はともあれ人口問題は國力問題と關聯して今や世界の一大問題と云ふも不可なき有樣である。

▲神童の養成 米國の學者は近頃神童養成とか天才教育とかいふことを盛に唱へ、且つ實行してゐる。ハーバード大學教授レオ、ツイナー博士の息子は生後一年半にしてアルファベットを習ひ、二日の後よく之を修得し、六歳にして諸書を猟り、十四歳にしてタフツ大學を卒業した。ツイナー博士は之に就て曰く「天才教育の方法は一言にして盡すことは出來ぬが、兎に角兒童は兩親が思ふよりは智力に於て遙かに自然的に發達してゐるのである。故に兩親が之を認めて適宜に指導したならば驚くべき功果を擧げることが出來る。兩親たるものは絶えず兒童の言行に注意して其心力を陶冶する爲めには特に其周圍に智的刺戟を與へる樣に心懸ければならぬ。そうして兒童をして自ら問題を解決するの興味を感ぜしめるやうに仕向けなければならない。かくすれば子供の智能は知らず識らず容易に且つ迅速に開發されるに至るであらう」と云つてゐる。此外ボーリス、サイチス博士の息子は十一歳の折ハーバード大學に優等の成績を以て入學した。又ドクトル、バールといふ人の息は十三歳と一ヶ月半で矢張りハーバード大學の入學試驗に及第して、同校辯論部年少辯士として頗る名を成し、目下頻りに史學及び政治學を專攻してゐるといふことである。

▲百圓札は二錢 日本の紙幣は凡て東京印刷局で印刷するのであるが、其原價は實に廉いものであつて、實際の紙代と印刷費とを合せて五圓札が二錢五厘、十圓札が一錢八厘、一圓札が一錢二厘で、百圓札はたつた二錢で出來るさうだ。五圓札が比較的に高くつくのは、此の札は紙が三枚重ねになつてゐる、中に透し繪を入れるため、實費が割合に多くかゝるのである。

○ 彙報

大隈伯の貧民窟視察

大隈伯は四月十日午後一時半貧民窟なる下谷萬年町の特殊小學校に臨み憐むべき赤貧兒童の學校生活を視察慰問したる上全校生に向ひ一場の演説を試みられた

▲時ならぬ雜鬧 此日萬年小學校の門前には日章旗を交叉し阪本校長以下職員生徒は此參客を迎ふるに忙はしく附近亦時ならぬ雜鬧を極めたり。斯て伯は自働車を驅て來着し阪本校長の案内にて在校生卒業生が同校の作業場に於て造り上げたる三十六歌仙の土人形を始めとし玩具人形手藝業成績品等の數多陳列しある校内事務所に入り學校より在學生なる下は六歳より上は三十五歳に至る千二百二十六人の男女生徒の現況及び阪本氏が多年萬年町附近に在る一萬戸の貧民窟に就きて取調べたる貧民の職業及び生活狀態等を聽取したるが殊に在校兒童が惡事を働き警察の厄介を受けし揚合等に若し阪本校長が顏を出せば「先生許して下さい惡う御座いました」と泣て校長に罪を謝する由を聞きたる時伯は「阪本さんは萬年町の神の樣な人だ」との讚辭を與へられたり。

▲伯爵の講話 斯くて作業室に歩を運びしが此室には七八歳より十四五歳迄の女生徒がリボンも附けぬ襤褸着物にてレース糸を片手に手早に針を運ばしつゝ袋其他の編物を爲し居れり。阪本校長は「此所にお出になれるは名高き大隈伯爵で今日特に忙しい時間を割て慰問せられたのです皆樣御挨拶をなさい」と命すれば女生徒は言下に机を離れ徐かに起つて一禮し再び席に着き忙しく作業せる樣可憐なり之より伯は階下の男生が土人形の手早き作業を實見して其巧妙なるを賞して第四教室に入り數百名の男女生徒が板の間に行儀正しく坐れる前に起ち「私は子供が一番好きで隨つて澤山の子供を見ては大に喜ぶのである此の可愛子供は世間の人が皆悉く可愛がるのである路傍に在る石地藏も佛さんも可愛がるのである故に死んでも極樂へ行くのである私は無邪氣な皆さんの樣な子供が此樣な立派な善い學校に居て三歳兒の心を百迄も續けたなれば屹度出世すると思ふ今日私は皆さんを訪ふに當り何か御土産をと思つて校長さん迄預て置いた、是から皆さんは能く勉強さへすれば立派な人になり父母も兄弟も立派な人になる私も皆さんが立身出世する樣に神佛に祈つて置きます」と微笑を湛へつゝ語り終りし時に進み居る生徒寂として聲なく少からず感動を與へしが如し。

▲記念撮影 伯は夫より校庭に出で可憐の貧民窟生を膝にして數多の男女徒生と共に記念の撮影を爲し二時半明治座の演説會に赴きたるが後見送りたる六年の女生田中ふく(十三)は記者に向ひ「妾は立派な方々

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

と共に寫眞を撮りましたのは眞に嬉しく思ひます其上有難い御話迄承りまして此樣嬉しい事はありません私は是を一生忘れずに乾度勉強致します」と語りぬ此日伯か土産として寄贈せし一封の金は「勞働資金補給基金」として永く同校の記念とすべしと(報知新聞)

日曜の無料理髪

▽實際的な力行會員

成る程甘い處に目を附けたものかな、頭を抑へてバリカンを一つ入れると苅上げる迄は誰も逃げ出す事の出來ぬ散髮の時間に神樣の道を説いたり又は一般學問の話をして聞かせやうと日本力行會員塚本信君(十八)は以前麻布のサムソン床で修行した經驗もある處から附近の貧民窟に出懸て行つて無料で子供等の散髮をしてやらんと思ひ立ち父なる千葉縣香取郡山倉村に獨立教會の牧師をして居る塚本多吉氏と力行會長島貫兵太夫氏とに相談して近々慈善理髮を開始すると云ふ事であるが信君が現に通つて居る神田錦町一丁目の理髮學校長根本氏は理髮店の職人が七八年の長い年期奉公の間に抜く可らざる職人氣質を植つけられ一人として惡い病氣に罹らぬ者がない現狀を慨し月謝を取つて修行させて置くので日曜日に休む事は自由であるだから信君は日曜日の午前は力行會の禮拜に列し午後はバリカンを携へて半分は慈善半分は稽古のために出かけるのだ。若し成績が良かつたら無料理髮の當日三四名の力行會員や看護婦なども同行せしめ日割を定めて市中の貧民窟を順々にテントを張つて大裂裟に遣る積だと云ふ尚島貫會長は「出來るなら之と共に貧民窟附近の醫師と湯屋とに特約して豫め施療券と入浴券を各戸に配布し實際的な仕事をしたいと思ふ」と云つて居た(東京朝日)

慰問袋の恩人

△來朝せるサッチャー夫人

嘗て日露戰役に日本婦人矯風會が率先して征露の軍人に十數萬の慰問袋を送り戰士の慰めとしたる事は世人の記憶する處なるが當時は波濤幾千里の彼方に在て戰士の旅情に一掬の涙を贐ぎ金廿圓と共に此企てを鼓吹したるは今度觀光の目的を以て世界一周を思ひ立ち六日入京帝國ホテルに投宿せる米國合衆國はニユーセルシー州フロレンスのサッチャー夫人也

夫人は現在萬國婦人矯風會軍人課の課長にして目下ワシントン府に住居を卜し專ら陸海軍人及水夫等に慰めを與ふる爲め軍人ホームを組織せんとしつゝあり夫人がかく軍人に同情を表するに至りたる動機を聞くに良人サッチャー氏が十七歳の時陸軍に入り南北戰爭に加はり左腕を失ひたる時に初まると云へり爾來同氏夫妻は專ら軍人の爲に力を竭して彼等の心身の健かならん事を計り居たるが良人は三年前病殁したる由にて現今は良人生前よりの遺志を繼ぎ獨力同事業の發展を望みつゝ働き居る由今回は觀光の傍ら歐洲各地は言ふに及ばず印度玖馬各國を巡遊して研究に力を致すべしと(東京朝日新聞)

愛らしい旗行列

日本日曜學校協會大阪支部は日本婦人矯風會少年課と合併して昨五日午後一時半より市内西區土佐堀の青年會館にて生徒大會を開催し日曜學校の生徒二千名來會して非常に盛會を極めたるが先づ基督教世界主筆加藤直士氏司會のもとに讃美歌を始めとして川口教會日曜學校生徒の祈禱ウヰルミナ女學校日曜學校生徒の[illegible]齊唱其他に次で東京婦人矯風會少年課長守屋東子女史の酒害の講話ありかくて同三時半より一同十字架の紙旗を手に打ち振つゝ青年會館を西へ常安橋玉江橋を渡り堂島濱通りを中之島公園に赴き萬歳を三唱して散會したり(大阪毎日新聞)

徳富邸の老人會

五月八日午前十時、新緑深き青山の徳富氏邸に於ていと目出度き會は開かれたり月々此會を指折り數へて幼兒の如く待ち侘びし高齢者四十六名各好める辨當を携へて定刻に會場に向はれたる顔觸は後藤男、徳富、日向、服部、小田川諸名士の世堂を始めとして八十、七十、六十、五十臺の各老人連總年齢合せて三千百九十三歳平均年齢六十五歳強とは誠に古稀のためしと云ふべし場には和氣滿ちて知る知らぬ互に手をとり胸襟を披いて興盡くるを知らず午前には小崎弘道氏の勸話あり午後に至りては齢をも忘れて各打興じ昔採りし杵柄の口三味線に合せて踊の手輕く舞ふ人もある。謠に落語に隠し藝の數々誰に見せう望みもなけれど誰に遊らう遠慮もなく一日を興樂の中に送れりとか。(東京朝日)



廓清時言

日本一の放蕩兒は斯くの如くにして生ぜり

『東京日々』によれば、故伯爵後藤象次郎氏の家庭には妾が七八人も居た。女に關係して其女が困ると云へば、可し家に來いといふ風だから妾は殖えて來る計り。先代菊五郎が居るかと思ふと、富貴樓の女將がお辭儀に來る。待合の女將が來るといふ風で後藤家は恰も大きな待合のやうであつた。酒を飲みながら妾を側に置いて、息子猛太郎を呼びつけて『貴樣は年は何歳だ』と聞く。猛太郎が正直に二十歳ですといふと『廿歳にもなつて未だ藝者が買へないか』と叱り飛すといふ風だ。だから猛太郎は藝者に戲れる事を、少しも惡いとも何とも思つて居なかつたと云ふ。恁うして日本一の道樂者が作られたのである。猛太郎伯の放蕩に就ては何人も呆れ果ざるを得ないのであるが、然し元を質せば家庭の犧牲になつたといふ樣なものだ。恐るべき事ではないか。

東京府下の遊廓に落つる金高は一年五百萬圓

警視廳第三部長の語る處によれば、東京府下の各遊廓で遊客の消費する金額は

四十一年一月　五十五萬五千圓　遊客數三萬人
四十二年一月　五十一萬圓　同二十八萬人
四十三年一月　五十一萬圓　同三十九萬人

である。而して二月の月は大抵四十萬圓内外で、三月から四月にかけて少し殖えて五月から九月迄減じ、十月以後再び殖える。尤も少ない八月中でも、尚三十八萬圓に上つて居ると云ふ。すると先づ四十萬圓の大平均として、一年間には約五百萬圓の大金が、戊申詔書を蹂躪して消費されて居る譯だ。而もそれが懇切なる政府の保護の下に。

東京府下の公娼は益々増加しつゝあり

我々が騷がずとも、公娼は段々に寂れて行きつゝあるなどゝ、高を括つて樂觀して居る人もあるが、東京の例によると仲々安心は出來ない。現に警視廳の調べでは、吉原で三十九年から四十三年までに、貸座敷が百八十二、百九十五、二百五、二百十一、二百十五と段々增加して居り。娼妓が二千七百六十一人、二千八百五十八人、二千九百八十五人、三千九十七人、三千五十九人と增して居る。洲崎が百八十八軒の貸座敷で、娼妓千八百八十二人から、千九百七十七人に增加し、品川が六十軒で五百五十五人から、五百七十二人に增し、新宿のみが五十七軒で六百四十九人から六百八人に減つてるけれど、それとても他に住替などの關係からである。之では遊廓の自然消滅はいつの世に實現せられ得べき事だか分らぬ。

教員の歡迎會を遊廓に開く

元田博士曰く、僕の學校の出身者が聘せられて某の中學へ行つたが、その歡迎會を女郎屋の二階で催す準備をしたと云ふので、之れ丈は許してくれと詫るやうにして賴んで斷つたさうだが、それを土地の新聞が評して曰く『世間知らずにも程がある。社交の禮儀すら之を辨へない奴なり』と、したゝかに攻擊したと云ふ。地方新聞紙の調子はまだそんな程度だ。敎へなくてどうする。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ア、人間の整理は如何

留岡幸助氏曰く『嘗て宮城縣の生出村（先づ以て模範村の一である）其處に行つた時、仲々よく村の整理がついて居るのに感服した。處が盲目や聾が五六人あるのに氣が附いたので「此の村は松や杉の處分はよく行届いて居るが人間の處分がついて居ない」と云つてやつた。すると早速東京の盲啞學校なんどにも相談して盲目の處分に骨を折つた。跛や片輪がウロ／＼して居るのですらも、吾輩は模範村とする條件が具備しないと思ふ。況んや娼妓を出すやうな村では、到底模範村とは云へぬ。吾輩は此の方針で模範村の試驗をやつて居るのだ。』

醜業婦に制慾主義を强ふ

大阪の北の新地遊廓では娼妓は禁烟主義を守り、長野縣洲崎町の藝妓は、芝居禁制を實行して居る。といふだけでは頗る如何にも清敎徒のやうな嚴肅の生活だなあなどゝ早感心すると、笑はれる。その實、前者は大火事とさへ云へば遊廓から出火し、而して其の揚句が營業廢滅となるからして、戰々兢々、何でも火が一番恐い、而して用心すべきは煙草の火だといふやうな譯で、さてこそ娼妓は全部禁煙の事を無理やりに定めたさうな。それから後者は、芝居を見せると役者に上せてお客が減つて了ふ。爲に芝居見物禁制とはなつたさうな。何處迄慾の皮のつつぱり會ひであらう。理由を聞いて呆れるではないか。

娼妓學校に稍神講話

名古屋の朝日廓には、妓樓百三十戸、娼妓が千三百名あるが、その爲めに娼妓學校といふものが近頃置かれたさうな。裁縫、習字、讀書、茶及び花道、それまでは成程敎へられない事もあるまいが、女禮式修身講話と云ふ科目まであるには呆れてものが云へぬ。そして其の講師は、いふ迄もなく僧侶である。どういふ修身講話を敎へるのであらうか、新聞紙の報ずる處によると一日も早く苦界を脱れ、婦女として世に活動する事などを懇々と言ひ聞かして、彼等の墮落を戒めるのだといふが、それならも少し廢業娼妓が出さうなものだのに、全國中の藝娼妓の本場と謳はれて居るのは、何んな譯けであらう。

然し新愛知記者は、その學校を參觀して、優順しき生徒だと云つて、ひどく感服して居る。曰く、

敎場は女紅場の階上で。毎日午前十一時から午後四時までを授業時間として居る。そして此の時間中なら何時登校しても宜い事となつて他の女學校などゝ相違して居る所が一寸ある、夫れは夜を肝腎の客商賣をする勤めの身體ゆゑ普通の者の樣に朝早くから起る事が出來ない。依て客を歸してから睡眠する時間を與へ又は身體を休養する餘裕がある。夫れ故に十一時から四時までの間は一時間なりとも二時間なりとも任意に通學する事となつて居るので生徒數の割には毎日通學する者が少ない。大概一日平均三十名乃至五十名位であると敎師は喜んで居る」云々。

嘗て我輩が滿洲の遼陽に居た時分に、澤山驅黴院に酌婦連中（彼地の娼妓）が、入つて來る。それに對して是非講話に行つて見たいと或る本願寺の布敎師に話すと、布敎師曰く『我輩も嘗てそれをやつて見たが、只困るのは何を言つてよいか敎ふべき言葉の無いことである。可成お客を大事にして主人に忠實に仕へョといふ外に敎へる言葉はないからなア』と、我輩も之れには明いた口が塞らなつた。

思ふに名古屋娼妓學校の精神講話なるものも、此類であらう。

娼妓の勤續彰表

奈良市で發行せる『新大和』といふ新聞に左の如き記事があつた。何たる淺ましい事であらう。吾々は殆んど何と評すべきかを知らぬ。

娼妓の勤續彰表

一昨八日正午十二時より當市木辻遊廓にては木辻瓦堂兩廓の各樓主事務所に打集まり宴會を催し其席上各樓の娼妓にて昨年中入院せず一日も店を休まぬ者等十四名に對し奬勵の爲め表彰を行ひ賞與としてお客を大切に接待せといふ意味の下に客座布團一枚づゝ代金參圓餘の代物を贈與したるがその賞に預りたる娼妓は

木辻遊廓　福井樓千代事小野原さく　愛三樓の初梅事宮原はつ子　京樹樓大多福事高田もと子　福井樓の初菊事中今はつゑ　同樓の九重事尾崎せい子　淀安樓の小仙事山田きのゑ　同樓の八重鶴事上岡たみゑ　丸三樓の小笑事岡本よし子　愛三樓の一榮事藤井とみ子　都樓の若吉事畑中ます子

瓦堂遊廓　花月樓の千鳥事近藤ひさ子　小泉樓の駒吉事柚木尾りう　初音樓の松浦事松浦さく子　同樓の菊芳事河村菊芳子

學生風紀の紊亂

嗚呼學生風紀の紊亂何ぞ一に此に至るや。時事新報の水戸通信に曰く、

茨城縣立下妻中學校●生●徒●中●花柳の巷に出入する者多く甞に酌婦を身受けしたる事發覺して退校處分を受けしものありしが今回五年生小館小四郎田中守三郎塚田友吉簸東太郎三年生小林濟司二年生中島淳●●の六名は二十五日夜同町某料理店にて藝●●妓を總擧したる事發覺し、小館は放校他は何れも無期停學を命ぜられたり。

警察の不取締

安部早大教授曰く、『早稻田附近には極めて曖昧なる飲食店多く是れが必ずしも學生相手のものであるとは思はないが教育上憂ふべき事である。然るに我文部省も警察も學校附近に斯かる者の存在するを餘り心配して居らぬ樣である。二ケ月程以前我が運動場附近に如何はしき二軒の料理店があるのを取除けたいので新宿署に相談したら、埒が明かない。外國の例を引くとシカゴ大學では方一哩許りは大學の權力範圍で酒屋の營業が出來ぬ。オックスフオードは所謂大學町で、大學の許可なくては何商賣も營業出來ぬ。我國でもどうか斯ういふ風に大學附近の空氣を清潔にしたいと思ふ。』

娘を側妾に欲し

都新聞の相談欄にあつた

『私は村の小官吏であります、格別餘裕とてありませんが、人並の生活はして行けるのであります。娘は高等小學卒業後さるお邸へ行儀見習ひに上げて居るのですが、過日、此御家來から側妾にと交渉されました。此お邸は先祖以來御恩を蒙つて居りますし私は一家も斯く安穩に暮して行けるのも實は此爲めであります。されば此交渉を受けて實は困つて居ます、如何致したらよろしいでせうか(甲州在の一小吏)』

權威と恩顧を笠に着て處女の貞操を弄するは大なる間違であります。先祖以來の御恩はあなた方の心掛けに依て報ずるとは出來ませう。此爲に娘を犧牲に供するに及びません。事理を正して明白に御斷りなさい。是が因となつて出入差止めとか何とか云ふ樣なとに立至ても止むを得ますまい、是れ却て舊主に忠なるとと存じます。

聯隊長の公娼廢止論

和歌山縣に於ける衞生狀態の良好なる事は松浦博士の言明によつても分ることであるが、特に有力なる論證は同地の第四師團和歌山聯隊區司令官によりて立てられてゐる。同地の司令官の話によれば

全國の聯隊に於て最も良好なるものゝ一つであるさうな。そこで先に廢娼運動があつた時分には當時の司令官今の山田少將が眞先に縣知事に說いて、我聯隊の風紀及び衞生の爲に決して公娼を撤いて吳れるなと勸告した程である。

岐阜と京都

岐阜縣の竹が鼻では豐田部長が靑年風俗の改良に熱心せし結果、大に醜業婦取締を勵行し、その爲花柳界は大恐慌を來たしてゐるとの投書が來た、何でも風紀振肅を實行して貰ひたい。

京都七條の新地には、三百餘の娼妓が居るといふ。二三年前迄は普通の人が通つても袖を引張つたり、腰帶一つで街路に出掛けたりなどしたが、今はそんな事はなくなつた。何でも此處迄善良に向けるのは隨分苦心であつたと吉村署長は語つて居る。根本的の英斷を施さないと僅かな事で警察官を苦しめる事になる。

英國紳士の日本人評

尊敬すべき某紳士の曰く「何れの國民にも國民的の罪即ちナショナルシンなるものがある。例へば英國民の亂醉の如きはそれである。而して歐米人は日本人のナショナル、シンを不貞、不節操にあるとしてゐる。日本の藝者、吉原は最早や世界語の一つとなつてゐて、全世界に名高いものだ。成程英國にも惡い女も澤山居る事であるし、又不潔なる女もないではないが、只之に對する社會的制裁は日本とは大變違ふ、即ち英國であつたならば一廉の男で、そういふ不潔なる女に交つたとすると、その人は全く社會的生命を絕たれて了ふ事になる。日本の樣にそれが紳士の名譽でもあるかのやうな事は決してありません。

といつて私は決して日本國民を惡く云ふのではない、只古への羅馬大帝國を滅亡させたる原因が實にかくの國民の不貞操にありしを知れば吾々は誠心誠意を以つて日本帝國民諸君に對し反省を促がさざるを得ない。」

ア、病膏に入る

某紳士の懺悔に曰く「私は廢娼論を唱へる資格はない。然し放蕩の罪惡なる事を知りて罪を犯した譯ではなかつた全く惡い事とは思はなかつたのである。自分が生長した境遇は毫も所謂女郎買なるものを以て惡い事だと意識しなかつた許りでなく、却てそんな事をせなければ男一人前ではないといふ樣な狀態で、或は「ふるあめりかに袖は濡らさず」と歌つた遊女の事や或は魔窟を稱して花柳の巷と云ひ、不道德より起る病氣を花柳病といひ則ち花は紅、柳は綠と云つた風な譯で、道樂を以て男子の風流事と見做てゐた。而して京都や江戸などでは島原とか吉原とかいふ所謂その花柳巷に入つて風流を味はなければ話が出來ないといつた風な譯合であつた。兎に角遊廓には何かよいものがあるかのやうに敎へられ、自分の力相應にさへ遊べは少しも差支ない、只惡いとすれば惑溺だけが惡いに過ぎない。而して力ありて道樂するものがあればあの人は精力旺盛なる人だ、老て益々盛なりと云ひ、英雄色を好む、色好まざらん男は玉の杯底なきが如しなどゝ云て全く男子の貞操に關する良心は是等の魔醉劑の爲に痲痺し盡て居た。今に及んで之を思へば實に恥しくも亦神に對し、人に對し恐れ慄く次第であるが、死をして死を葬らしめよ、過去の事は只天と人の許を受くるより外はない。

が何は兎もあれ、如斯過つた思想の爲に公娼廢止論の如きも大なる妨害を蒙つてゐるのであらう。」

風教雑俎

◎死産は日本が最も多い

▲相馬醫學博士談

今より百年前英のマルサス曰く人間は漸次幾何級數的に繁殖して止まる所を知らず之に反して人類の食物は唯單に算術級數的に增加するのみなれば人類は遂に自滅するに至るべし故に結婚制度を制限して以て過多の繁殖を阻止せざる可らずと、此說は一時世界を震動せしめたり。然るに百年後の英國の人口を見るに果して彼の言ふが如くんば將に其の數億を以つて算す可きに遠く及ばざるに見てもマルサス氏の說の甚だ當らざるを證明し得べき也。吾人は醫學者として人口と最も密接の關係を有する分娩問題を取扱ひ而して立派に分娩させ健康に育て上げらる樣努力する也。即ち人口を繁殖せしむる可く常に研究し實行しつゝある也。凡そ人類の社會に生存するや國家との競爭は常に絶えず勢ひ富國强兵の必要を生ず可く富國强兵の要は人口の繁殖にある事勿論にして其の方法は(一)死亡を減ずる事(二)出產を多くする事なる事又勿論也。試みに左に列國の分娩率を示さんに

人口一千人に對して

洪牙利	三九、三	獨逸	三五、八
伊太利	三二、九	英吉利	二八、二
佛蘭西	二一、五	日本	三五、三

にして日本人は繁殖力比較的大なるを知るべし。而して歐米の例に見るに文明の進むに從つて分娩率の減少するは事實也然れども効力無き分娩即ち死產多くては何にもならざるなり。左に列國の分娩百に對する死產率を示さんに、

和蘭	四、七六	佛蘭西	四、六〇
白耳義	四、五六	瑞西	三、八〇
伊太別	三、六九	獨逸	三、五三
墺地利	二、八三	洪牙利	二、〇〇
日本	九、六六		

なり勿論各國共死產調査の標準を異にし例へば日本にては姙娠後四箇月以上經過して後なれば死產に計へ獨乙にては二十八周後にして身長二十八センチ米突の者を死產とし英國にては死亡にも計算せず白耳義にては分娩後三日間に死亡したる者も死產に算し居れるが如し。死產に二つの場合あり一は分娩中に死亡し一は胎內にて死亡して後に分娩するものなり而して前者は種々なる醫學的關係より多くは手遲れして死に至るものにして分娩すれば必ず健康なる可き者を死に至らしむる者にして甚だ惜しむ可く後者は多く其親が梅毒患者なる場合最も多きにて例へば無事に分娩するも健康なる兒童と云ふ能はざるもの多きなり。然ば前者に對しては醫師は最も迅速に手當を加へ又は手術を加へざる可らず。三分五分だも爭ふ場合多く其爲人一人を失ふに至るべければ充分熟練して事に當るべきなり云々

（中央新聞）

◎ふた親の罪

▲憐む可き低能兒

東京高等師範學校には二級編制の補助學校を置いてゐる。此處に學んでゐる子女は市內各小學校の內から特に低能兒ばかりを選んで入れたもので其兒童數及び年齡は四年一名(男)十年四ケ月(年齡)五

年三名(男二女一)最多十四年最少十二年三ヶ月六年六名(男四女二)最多十三年十一ヶ月最少十一年一ヶ月で父の職業は高等官三、會社員二、美術家一、植木屋一、薪炭商一、砲兵工廠雇職工二名と云ふ有様である。而して其兒童は腦膜炎、感覺障碍としては近視、言語障碍としては難發性の吃などであるが、是等可憐の兒童が斯くの如き事から特別に能力の低弱を來した原因は多く其罪は親にあるのである。高等官の兩親に酒癖がある爲め其子が腦膜炎を侵され、他の高等官一名は最初謹直の人であつたのが漸次酒色に溺れ遂には蓄妾する迄になつた。而して何時しか梅毒に侵されて遂に本妻にも感染さした結果として其子が腦膜炎を起した。父が大酒家母がヒステリーで子が癲癇と成つたのは堂々たる實業家である。其子が一名腦膜炎に侵された。他の兒は矢張父が高等官で是れは生れたばかりの子を轉任する爲に汽車に乘せて遠乘したのが原因である。父に美術家を持つてゐたのは子守の不注意から斯くも可憐の身となつた。此外父が五十四歲、母が四十二歲即ち老後の姙娠の爲や母の病弱と幼時の發育不良が原因と成つた者もゐる。是等低能兒の敎育に就て四年五年六年と名こそ付てあるが實際は學科に依て一緒になる事もあれば別々になる時もある。時に應仁天皇の事を敎へて其名を呼せると東京の近くに王子のある事が頭に入てゐるから王子天皇としか呼ぶ事の出來ない兒もゐるし、何にか云へば知つてゐます分つてゐますと云つて騷ぐ兒もゐれば・家庭に於る父母の喧嘩を敎室で自分が裁判する兒もゐる。御飯も食べずに寢ると云ふのは母さんが惡いなど堂々と饒舌り續ける、そこで是等の兒童に對しても敎科書も特別に出來てゐるが何れにても主觀敎授に重きを置いてゐる。効果は漸次に見えて癲癇の兒も其發作數を少くするし、學科も大分進んで來たが兎に角憐むべき兒童共である。(讀賣新聞)

◎淺野家々老の娘 新橋藝妓となる

▲藝が身を食ふ不幸

新橋藝妓花の家花香(二十六)は今度宗十郎町一六に別居し花香家と云ふ新看板を揭げることとなり移轉と同時に遙々大阪より新妓その葉(二十)と云ふ美人を抱へ十六日弘めをなせしがその葉は廣島市大平町八の三士族百々政之進の次女にて本名をさか江と呼び長女お蝶(二十六)と共に家內は三人暮しなりしが父政之進は祖先來淺野家譜代の家老にて維新後上京し麴町三番町に住宅を構へ居たるも去る廿五年三月中さか江の出生後間も無く鄕里廣島に歸り雜貨商を始めて一時は屈指の一に算へられ居たるが、失敗の末三十年十二月病歿し續いて實母も世を去りしより取殘されし姉妹は途方に暮れ詮方なくも平素習ひ覺えし糸竹の道を力に藝は身を助くると云ふ不幸の境遇を辿りつゝ辛くも其日を送り居たるが、斯くては自然百々の家も斷絕するの外なしと、さか江は姉の身を氣遣ふの餘り身を賤業に沈めてお蝶の出世の助けにせんと健氣にも(?)扨こそ今度前借金千三百圓にて花香家より現れ出でたる次第なり(日本新聞)

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

1－730

小説

闇

雪子

一

抛げ棄てられた繿褸のやうに、漂泊の末を世を外の、賤しい遊女にまで墮ち果てた私の身の上、誰が怎麼人間の上を眞面目に見て下さいませう。然うです、此の穢ない繿褸を手に執つて、誰れがその色彩を眺めて下さいませう、私はもう二十七になりました。女の盛りは過ぎた時分、相應に人の母となつて、働き甲斐のある年恰好ですのに、暗から暗……まるで漆のやうな濃い深い闇の中を辿つた私の半生の生涯は、終に明るい人間の世界に出る時はありますまい。私とても斯う此の汚れ盡した斑點だらけの靈魂を綺麗に洗ひ落して、暖い天日に乾かすことが出來やうとは思ひません。

けれども……、けれども此の靈魂も、星のやうな美しい瞳の窓を明けた、露汚れの無い幼兒の昔もあつたのです。汚れ盡して、曇り切つた私の心の鏡にも、朧ろに映つて來るのは、其の上の甘い優しい追憶です。打たれ、酷まれ、叩かれて減り盡した私の良心にも、時には此の追憶が、冷たい刄のやうな鋭さを以て、痛恨の涙に我れと我が胸が潰れるのです。嵐の寒い夕もあります。時雨の冷たい夜もあります。浮かれ騷いで此日を送り女と生れた貴さの第一である操を他愛も無く撒布して居る賤しい遊女でも、心の底は人に變らぬ、涙の桶が滿へてあります。經て來た道が暗いだけ、それだけ深い悲愁が、やるせも無い涙に人知れず袖を絞るのです。

夢のやうに浮んで來るのは、彼の優しい、慈愛深い母の面影です。私の生家は伊勢の片邊り、小やかな田舍町に、代々肥料の問屋をして居て、地方としては相當の財産家でもあり、町の名望家と云へば五本の指に數へられたもので、其の一人娘に生れた私は、出入の者には『お孃さん〳〵』とチヤホヤされ、情深い兩親には手の中の玉と可愛がれて、十二の春秋を、他所の見る目も羨しい程氣儘に哺くまれて育つたのです。讀書の外に、土地には不似合な琴ぬ花までも、母は父の反對を卻けて習はせてくれました。人の親として子を愛さない者はありますまいが、全く母が私を可愛がるのは、目も鼻もなかつたのでした。

十二の秋は物悲しく訪れて來ました。半年以來病の床に臥した母親は、野分の寂しい夕まぐれ、此世の息を引取つたのです。『雪や（私の名）い〻娘におなりよ、母さんが居なくなつても、乾度い〻娘になるんだよ。』

斯う云ひながら、眤と私を見詰めた母は、其の眼は、宿した涙の露の乾きもせず、其の儘閉ぢて遂に開く日はなかつたのです

『お母さん、死んぢやア厭よ。』

私は母の骸に取縋つて、聲の涸れるま

で泣き叫びました。けれども、最う母は此世の人でありません。『可愛いゝ雪や』と、再び私の頭を撫でゝ下さる日は來なかつたのです。

母を失つた私は、暖い愛情の春に別れて、今まで身を繞つて居た華やかな夢から醒めて、十二の少女の心には、やるせも無い寂しい枯野の秋風が吹き渡つたのです。

父とても同じ私を愛する心は、母と變りはなかつたのですが、まだ四十にも間のある年恰好で、人の勸めもあるものですから、母の一週忌が濟むだ頃は、私には新しい母が出來て居ました。

幼い私には、此の新しい母を得たことが嬉しかつたのです。向ふでも亦私を眞の娘のやうに可愛がつてくれまして、二三年の間は、世に云ふ繼母子と云ふやうな忌はしい爭鬪もなく、一家は昔の儘に平和に過ぎて居ました。私は相變らず問屋のお孃さんとして、何不自由もなく成長して、何時か娘盛りの年頃になつて居ました。

恰度私の十六の春、新しい母の腹には父の胤が宿つたのです、軈て生れたは男の子、父は大層喜びました。私とても、腹こそ異へ、同じ父の血を享けた弟を有つことを嬉しくないではなかつたのですが、其頃から打て變つた繼母の樣子、生さぬ仲の悲しさは、總領娘の私が居ては、實子に後を嗣せ難いと邪推したので何かにつけて私を邪魔者らしく當り散すので私もさすがに口惜しく思ひました。

飽迄忍耐して、例令無理でも繼母に從順しく事へるのが當然の務ではありませうが、愚かな私は幼くして生みの母に別れた悲しみに、例令ば延々と育つた小松が、急に雪で壓へられたやうに、心は何時か僻くれて了ひました。あゝ之も母親が死んだからだ、母さへ達者で居てくれゝば、恁麼ことにはならなかつたのだと其ればかり今更らのやうに口惜しく思つて居ました。

後妻の愛に溺れる例は、よく世間にもある事ですが、勿體ないが父も其の一人でした。堪り兼た悲しさを、せめては父に打明けて見ると、却て冷たい叱責を受けると云ふ有樣に、私はまるで野原へ棄てられたやうな、寂しい、悲しいと云ふよりも、もつと烈しい痛苦に泣きました而して心に浮ぶものは、幼くして死に別れた母親の深い慈愛でした。訴へやうにも、語合ふにも、一人の同情者も有たないで、冷い、辛い家庭の奥に、亡き母を思ふ私の心は怎麼に切なかつたでせう。燈寒い靜かな夜を、眠られぬまゝに母を偲んで、夜具の襟を涙に濕したのも、あゝそも幾夜でありましたらう。『あゝお母樣何故死んで下さつた』私は母の戒名の前で、聲を揚げて泣き叫んだ事も一度や二度ではなかつたのです。

恁うして繼母の苛責に苦しみ、父の情に絕望し、亡き母をのみ慕ふ私の心は、何時か一種の強い反抗心を起して、何事にも僻見根性を起すやうになりました。一方繼母に生れた嬰兒が、生長するにつれて、私への態度は增々冷やかになつて來ます。何だか家の奉公人までが、繼母の味方に附いて、私を顧みないやうな氣がされて、私は恐ろしい程堅意地が張つて來ました。

私が恰度十七の春を迎へた頃でした。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

思ひがけなくも、父は近在の取引先へ、私を縁附けると云ふのです。之は畢竟繼母が影になつて糸を操り、何處までも邪魔な私を家から出して了はうと云ふ了簡からだと私は悟りました。
嗚呼自分は此家の獨娘ではないか、亡き母の爲めには唯一人の遺形兒ではないか、それを憎らしい繼母の奸計によつて此の家をどうして出られるものかと、私は片意知を張り通して。どうしても父の言葉に應じませんでした、父も流石に腹立てました『可し、お前が何處までも聽かぬと云ふなら、親の威光で屹度纏めて見せるから』と、まるで同情もない冷たい言葉、父の言葉はさることながら例令どのやうな良縁であらうとも、繼母が私を邪魔にする心から出た計略と飽迄それに反抗した私は、それが口惜しくて口惜しくて、よし此身は怎うならうとも斷然此の縁談には從ふまいと決心しました。
けれども今は延引きならぬ場合、身も世もない忌はしさと、悲しさに惱んで居た私は、不圖幼い頃可愛がつて呉れた母の姉、私には唯一人の伯母が、名古屋に居ることを思ひ出しましたので、何は兎もあれ一度伯母に遭つて、積る悲しさを語らうと思ひました。其時の私は何よりも先づ誰れでもいゝ眞からの同情者が欲しかつたのです。

二

娘心の淺墓にも、私は家を出奔しました。而して僅許りの金子を懷に、追手の者を氣遣ひながら、近くの停車場へ駈附けて、折柄恰度發車する上りの列車に乘り込んで、思はずホッとしましたものゝ流石に生れて初めての獨り旅、その日は春も暮れ近い、烟のやうな雨の降る夕方で、首を廻らして生れた町の方を眺めますと、思はず涙が頰に傳はりました。
『さらば慕はしき母の墓よ、お雪は今伯母さんを便りに、生れた家を脱出しました。さようならお母様の墓よ！』
汽笛は鳴りました。汽車は發ました。あゝ此の旅の初めこそ、私の命の矢が闇黑の運命に放たれた抑々の原因となつたのでした。
十七歳のうら若い惱める少女を乘せた無心の汽車は、ひた走りに走りました。あゝ恁うした間にも、思はざる大事が直ぐ眼の前にあつたのです。

汽車の中には乘客が三人しか居りませんでした。二人は若い學生風、も一人は三十四五の遊び人とも職人ともつかぬ、人相の悪い男で、等しく私の態度を不思議さうに眺めますので、私は始めて出た人仲の、さすがに一人旅の寂しさが湧いて來ました。然しまた軈て伯母に遭はれることを思ふと心嬉しく、豫て用意した來た伯母の住所書を見やうとしましたけれども、急々して居たので、何處へ失つたか見附かりません、たゞ名古屋七軒町とばかり、ウロ覺えに記憶して居た私は全く途方に暮れて了ひました。
其中に學生風の若い男は降りて了ひ、殘つたのは私と、例の人相の悪い男と二人限りになりました、私は内心薄氣味悪く思つて居ますと、例の男は突然膝を進めて來て、
『姐さん、お見掛よりやア若い身空で一人旅のやうだが、何處まで行くんだね。』
と、變な目附で賤しい口の利きやうそ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

するのです。斯麽男に言葉を懸けられたことの無い私は、ドキマギしながらも、

『名古屋まで乗ります。』

と、漸く口の中で答へました。

『名古屋まで、そりやア不思議だ。私も名古屋まで行くのだが、姐さんは名古屋の何處までだネ？』

如何にも親切らしく云ふ調子に、物慣れない私はツヒ釣込まれて、薄氣味惡くは思ひながらも、もしや伯母の住所へ行く道順が早く分るかも知れないと思ひ、七軒町の伯母を訪ねるのだと云ひますと男は更らに驚いたやうな樣子をして、七軒町なら恰度私の近所だから、一所に尋ねてやらうと云ふ、世間知らずの私は、地獄で佛に會つたやうに喜びました。

名古屋へ降りたのは暮方でした。電氣の明るい大都の街の賑はじさは先づ田舍育ちの私の眼を驚かしました。男に導かるゝ儘に、私は默つて跟いて行きますといゝ加減歩いた時分、男は暗い横町の曲り角に來て、

『此の奧が私の家だから、一寸歸つたと云つて來るから、お前さんも一休みして疲れを休めて行きなさい。』

と云ふので、私は何となく恐怖付きましたものゝ、今更ら男の氣を計り兼ねて怖々ながら行つて見ました。細い露路の中の、薄い灯の洩れる汚い家がありました、煤けたランプの傍には今一人二十五六の色の淺黒い男が居りましたが、私の這入つたのを見ると、急いで戸外へ出て行きました。

物凄い此の荒家には、私と男と唯二人、小さくなつて隅に控へて居る私に、男は色々と優しい言葉をかけて、徐々素振りが怪しくなつて來たので、私は始めて欺かれた事が判りました。どんな事をしても伯母を訪ねやう、恁那氣味の惡い家に居られるものかと、禮を述べて出やうとしますと、男は今までと打つて變つた恐ろしい形相をして、

『チヨイとお待ちな、姐さん。』

と太い聲で呼ぶのです、私は蛇に見込まれたやうに慄然としました。すると男は矢庭に立上つて『待ちなと云つたら、待ちねえナ』と、云ふが早いか私の手を捕へて放さないのです。

『一體お前は蟲が好すぎる。赤の他人の俺に道案内して貰つて置ながら、唯有難うと口端の禮丈で濟されると思ふのか。』

と、愈々鋭い男の聲。之が話に聞く強請とか云ふものかと、私は思ひましたから若干の金を包んで、差出しながら改めて禮を云ひました。すると、

『戯談じやア無え、那麽物が欲しくて呼び止めたんぢやアねえんだ。伯母を訪ねるのは明日にして、今夜は酒の對手でもして此處へ泊れと云ふのだ。サア、大きな聲を出すと承知しないぞ。』

果ては手籠めにしやうとする、食に飢えた狼のやうな、惡性の男の爪牙に懸つては、私はもう絶對絶命、聲を絞つて助けを叫ぶより外はなかつたのです。

猛り狂つた男の手が、我を引捕へやうとしました時、突然雨戸を蹴破つて飛込んだ人がありました。而して對手の男を叩き伏せて、眞赤になつて怒つてるのを見向きもせず、『サア姐さん、此の間に早く逃げませう、私が案内して上げますから』と私を伴れてドン／＼逃げ出しました。（未完）

之は小説にして小説にあらす、此の主人公のモデルは、現に三重縣下の某遊廓に居る娼妓である。思ふに大方の遊女の身の上はその徑路に於て大凡似よつたものであらう。

臨時寄附芳名錄（第三回）

金七百四拾五圓七拾八錢也　英國廢娼同盟會殿
金五拾九圓也　在米國加州傳道團殿
金參拾參圓六拾錢也　力行會桑港支部殿
金四拾四圓五拾錢也　演藝會收入（矯風會扱）
金拾圓也　石神八重子殿
金拾圓也　久下豐忠殿
金八圓五厘也　有志（洲崎問題演說會 青年會館）
金六圓參拾錢也　グレゴリー殿
金五圓也　齋藤壽雄殿
金五圓也　福原允殿
金壹圓參錢也　有志（洲崎問題演說會 中央會堂）
金壹圓也　中里正次郎殿
金參拾錢也　鈴木ノブ子殿

賛助會費收納薄（二）

金百六拾圓也　大阪支部
金參拾圓也（自二月至四月）小林富次郎氏
金參拾圓也（自二月至四月）老人會
金貳拾四圓也（四十五六年分）福永文之助氏
金拾五圓也（自二月至四月）猪俣泰作氏
金拾貳圓也（自四月至翌三月）服部綾雄氏
金拾貳圓也（自十一月至十月）ミセスブリーデル氏
金六圓也（自十一月至翌十月）松崎政次郎氏
金五圓也（自十二月至九月）神戸婦風會
金四圓也（自一月至四月）救世軍本營
金參圓也（自二月至四月）島田三郎氏
金參圓也（自二月至四月）島田信子氏
金參圓也（自二月至四月）角倉賀道氏
金貳圓五十錢也（自三月至十二月）尾崎元次郎氏
金貳圓五十錢也（自三月至十二月）豐島英敏氏
金貳圓也（自一月至二月）大倉文二氏
金貳圓也（自二月至十一月）宮腰信次郎氏
金貳圓也（自一月至八月）津田・梅子氏
金貳圓也（自十一月至六月）大澤京之助氏
金貳圓也（自十一月至六月）矢沼伊三郎氏
金壹圓五十錢也（自一月至六月）城戸順子氏
金壹圓五十錢也（自二月至四月）渡邊鐐子氏
金壹圓五十錢也（自十一月至五月）矢島重虎氏
金壹圓五十錢也（自四月至九月）岩本麻次郎氏
金壹圓五十錢也（自四月至九月）伊藤俊助氏
金壹圓五十錢也（自四月至九月）林治定氏
金壹圓五十錢也（自四月至九月）渡邊常子氏
金壹圓也（二月分）本田貞子氏
金壹圓也（自三月至四月）戸川秀子氏
金壹圓也（自三月至四月）瀧本みつゑ氏
金壹圓也（自三月至四月）普賢寺轍吉氏
金壹圓也（自三月至四月）增田義一氏
金壹圓也（自三月至四月）龍居賴三氏
金壹圓也（自三月至四月）安井哲子氏
金壹圓也（自二月至三月）齋藤宇一郎氏
金壹圓也（自一月至二月）田中喜久三氏
金壹圓也（自三月至六月）十時菊子氏
金壹圓也（自三月至六月）高崎介藏氏
金壹圓也（自二月至五月）福島四郎氏
金壹圓也（自四月至七月）阿部つる子氏
金壹圓也（自三月至六月）小橋みよ子氏
金壹圓也（自三月至六月）石原謙氏
金壹圓也（自一月至四月）永島博子氏
金壹圓也（自三月至六月）野口島子氏
金壹圓也（自四月至七月）ウエイドナー氏
金壹圓也（自一月至四月）バンフアインド氏
金壹圓也（自三月至六月）柏井園氏
金壹圓也（自三月至六月）船尾榮太郎氏
金壹圓也（自三月至六月）今井壽道氏
金壹圓也（自三月至六月）安孫子貞次郎氏
金壹圓也（自三月至六月）荒木眞弓氏
金壹圓也（自三月至六月）和田てる子氏
金壹圓也（自一月至四月）チヤペル氏
金壹圓也（自一月至四月）マキム氏
金壹圓也（自一月至四月）グリーン氏
金壹圓也（自一月至四月）クレメント氏
金壹圓也（自一月至四月）高原こう氏
金壹圓也（自一月至四月）井上秀吉氏
金壹圓也（自一月至四月）松野菊太郎氏
金壹圓也（自一月至四月）ボールス氏
金壹圓也（自一月至四月）オルトマンス氏
金壹圓也（自一月至四月）ホフサンマー氏
金壹圓也（自一月至四月）ランチス氏
金壹圓也（自一月四月至）ライシヤワー氏
金壹圓也（自一月至四月）ライク氏
金壹圓也（自一月至五月）宮前右太郎氏
金壹圓也（自二月至五月）橋本貞藤氏
金壹圓也（自三月至六月）守瀨與之吉氏
金壹圓也（自四月至七月）大森兵藏氏
金壹圓也（自四月至七月）岡林稱子氏
金壹圓也（自四月至七月）西鎮氏
金壹圓也（自四月至七月）小林照雄氏
金壹圓也（自四月至七月）新海祐六氏
金七拾五錢也（自一月至三月）小田榮次郎氏
金七拾五錢也（自三月至五月）瀨川淺氏
金七拾五錢也（自二月至四月）今川倉吉氏
金五拾錢也（自三月至四月）内ヶ崎作三郎氏
金五拾錢也（自三月至四月）内ヶ崎清子氏
金五拾錢也（自一月至二月）栗屋榮子氏
金五拾錢也（自一月至二月）楠井善次郎氏
金五拾錢也（自三月至四月）長谷川文哉氏

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廓淸會々員名簿

▲正會員之部▼　第五回

三重縣四日市赤堀
千葉縣一ノ宮町
神田區美土代町三ノ四[illegible]北方
宇都宮市今泉町七六日宗少年團
山形縣飽海郡生石小學校
牛込區南榎町一八
吳市淸水通一七六軍人ホーム
神田區駿河臺高田病院
下谷區御徒町三ノ三二
東京府下內藤新宿一ノ六一
京都市東洞院五條下ル小林リノ方
京都府愛宕郡田中字野上五
靜岡縣靜岡市在安東村北安東
同市新[illegible]一丁目
同縣江尻町江尻
同縣庵原郡辻村
同縣江尻町新通
同町
同町新道
同縣安倍郡淸水町上一丁目
大阪、北、常安町大阪病院內
同
同河內町二ノ二一
同岩井町三ノ三二
同上福島北三ノ一〇八
同中四ノ二一五ノ一
同野崎町五四五
同中ノ島三、河原商店
同梅ケ枝町五九五
同宮島町大阪商船會社
同町五三
同四野田天川町二丁目
同天神橋筋三ノ一〇
同上福島三ノ三七一
同天滿筋六合同町秋ノ宅
同上福島二ノ七八五
同北三番外一二六
同北濱帝國新聞社通信部
同二ノ二九鐵道工務所
同中島玉江町一井川友七方

三重タイムス社
淺野はな子氏
三浦藤吉氏
松原天琴氏
石川寛太氏
中川右一郎氏
武井要三郎氏
神生まつ子氏
玉野しげ子氏
小林又吉氏
岩間義一氏
三谷寛三氏
和田榮橘氏
秋山泰次氏
竹內新一郎氏
鈴木いね子氏
鈴木眞治氏
稲井九平氏
八木敬平氏
遠藤ゑつ子氏
望月菊藏氏
柳谷カタノ氏
織田ひで氏
森田金之助氏
田中可長氏
谷田岩造氏
山中豐吉氏
大谷龍太郎氏
田代正次郎氏
尾名口孫三郎氏
岩神武夫氏
池田生松氏
金地嶌麿氏
田賀六次郎氏
土田弘織氏
福永護次氏
森口政大郎氏
瀧勇吉氏
深正雄氏
森友秀雄氏
神田幸市氏

同鶴屋町二〇
同天神橋筋五ノ一五七
同天滿壺屋町鳥居筋北へ入
同東野田三三七
同玉江町二中島製紙會社
同
同天滿瀧川町表門北へ入
同梅田町三五二
同曾根崎新地一
同今井町一ノ三
同伊勢町三六
同空心町二ノ三七八
同中ノ島二高田商會內
同木幡町
同空心町二三八
同南、天王寺眞法院町
同
同久寶寺町四ノ一三五
同難波新地六番町二二
同田島町七
同西淸水町二一二
同西新瓦屋町一ノ一二
同木津大國町三ノ一三五一
同瓦屋町五番丁一福音傳道館
同安堂寺町一今井ユウ方
同天王寺町大道一江上潮方
同細工谷町五〇一
同順慶町四ノ七七
同難波元町二ノ二七
同二ノ五二二
同難波芦原町日本電球會社
同
同
同
同
同
同
同難波反物町一二五三
同四、土佐堀五丁目中島屋
同三條通四公會四四號
同九條二番道路六ノ三〇八
同西長堀北通三ノ二ノ二七
同江戸堀南通二ノ一八
同東博労町二ノ八七小林安店
同北濱二ノ一一〇
同今橋三萬歳生命保險會社
同本町三中谷合名會社
同空堀町三自疆學院內

松野恒藏氏
森茂氏
西村榮次郎氏
石田成夫氏
阪口眞三氏
布施家三氏
秋田朝一氏
五代嘉夫氏
辻本謙二氏
四窪清三郎氏
細端澤一郎氏
芳本康次郎氏
伊東六郎氏
田中鐵三郎氏
芳木崖次郎氏
りり一氏
山中忠臣氏
三好一郎氏
嘉野山德三郎氏
谷久吉氏
長澤藤太郎氏
北川源作氏
中谷氏
佐藤寡之助氏
宮崎氏
豐川慶太郎氏
加納とし子氏
立花恒三郎氏
榛本寨雄氏
藤木廣吉氏
山下穂吉氏
萩野甚吉氏
得能金太郎氏
加國米吉氏
越田嘉市氏
鈴川末吉氏
片桐増次郎氏
大川政一氏
米谷宮平氏
菊山種男氏
菊原周藏氏
津久井新三郎氏
梁木種三郎氏
福田房之助氏
中村清一郎氏
日野德次氏
佐原一郎氏
服部房之助氏
西島賢弐氏

同
同高麗橋筋三井銀行支店
同釣鐘町二ノ一三
同道修町三松野恒藏出張店
同ウヰルミナ女學校
同西北堀江二番町
同江戸堀北通二細井政彦方
同九條町一〇六ノ一
同堀北通三丁目
同西九條上ノ町三二
同九條町七二ノ六救世軍
同
同
同立賣堀北通一ノ一六
同薩摩堀北ノ町二二
同二三
同花園橋西詰
同境川町一六七小川方
同四貫島町二五九横井方
同川口町一八三一神學校
同
同泉尾町一五九
同川口町一三
同江戸堀南通二ノ一二〇
同二條通四ノ三八
同京町堀上通一電車通西
同
福井縣若狹國遠敷郡遠敷村板橋方
大阪、西、三條通二ノ二五
同九條町五ノ四八二
同町中島三工所
同江戸堀北通三田中文二方
同北堀江百三十銀行支店
同川口町二二
同
同
同
同境川町三七、二宮平次郎方
同三軒家下ノ町五八
同江戸堀南通二ノ三竹內方
同三軒家下ノ町二四
同新町通リ二丁目
同東、ウヰルミナ女學校
同高麗橋三丁目鳳月堂
同平野町二ノ一一
同道修町四丁目
同釣鐘町二ノ五二堀方
同府下東成郡中本村中道三二九
同鳥取縣東伯郡下郷村大字三保

小財佐吉氏
豐崎秀松氏
山島金次郎氏
藤原大三郎氏
渡邊はな子氏
中川[illegible]右衞門氏
今井昭文氏
柄道平氏
田中富三郎氏
松原和夫氏
増田輝夫氏
圖田佐右衞門氏
横谷朝太郎氏
野村巻三郎氏
和氣中展氏
貴島宗助氏
河原玖三郎氏
村上寛氏
近藤稔氏
小村貞治氏
松本正雄氏
石關自助氏
ホーランド氏
福田房之助氏
松下文子氏
横山安平氏
種田常次郎氏
柴崎俊吉氏
大阪亀一氏
多賀秀數氏
寺井俵三郎氏
渡邊泰造氏
武藤純一氏
大藤英硯氏
道旗泰誠氏
小倉畝之助氏
堀內孝志氏
山本慶行氏
吉田忠二郎氏
山口傳次郎氏
筱原亥作氏
辻村榮治氏
阿竹美津氏
河合一夫氏
池邊彌一郎氏
奥城武氏
四宮孝一氏
藤田多賀市氏
田中正作氏

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

大阪、東、唐物町四丁目	竹中清次郎氏
同、東平野町一〇ノ四四	北國八矢雄氏
同　大阪高等工業學校電氣科	山本龍太郎氏
同　府下南河内郡勝山村大字池尻	田中俊逸氏
兵庫縣尼ヶ崎町屋敷中川方	榎並茂氏
奈良縣櫻井町	玉井袈裟夫氏
紀伊國粉河町	河里彥次郎氏
大阪府下天下茶屋	小野村正二郎氏
同　八二二皆川露方	三原秀二氏
同　長門町永田方	佐藤伊都子氏
同　南浦江妙壽寺方	杉崎壯太郎氏
同　西成郡勝間村二〇一	澤村東圓氏
同　鷺洲村南浦江原方	家島藤吉氏
同　血精藥院	北村忠夫氏
同　大仁山上方	首藤孝一郎氏
同　片山方	山本猷太郎氏
同　中津下一二南方	久次米常一氏
同　光立寺遠藤方	堀井喜三郎氏
同　濱寺公園劇	大塚惠氏
大阪遞信管理局	平尾遜三郎氏
同	中義三氏
同	岩井榮太郎氏
大阪、東、久寶寺町四ノ四	矢部永太郎氏
同　西立賣堀島町七九	小笠原高治氏
同　境川一八八	中村松三郎氏
同　三軒家尋常小學校	藤井志盛氏
同　江之子島東ノ町二六	生山爲篤氏
同　築港公舍	海老名元氏
同　築港二條通四ノ三四	勝部こま氏
同	勝部繁太郎氏
同　境川町一八八	成田一氏
同　二七二宮	仲小路末吉氏
同　京岡四六前島方	村上小六氏
同　古川町二三八	田頭操氏
同　新町南通五ノ二五	北村守光氏
同　泉尾町一五九	秋山乙吉氏
同　市岡町七三ノ六	宮本寛治氏
同、北、堂島小學校	西川　氏
同、西、野田吉野東ノ町三九四	下森藏三氏
同、南、惠美須町四ノ二二二	木庄ヨネ氏
同	中村勝三氏
同、天王寺茶臼山三六〇一	瀨成田靜子氏
同、西、九條町二六八	藤井辰子氏
同	土井小正氏
同　松島町二丁目	玉川リヨウ氏
同　東安堂寺町二丁目	藤井八重子氏
同　西境川町二七ノ二	二宮平二郎氏
同	二宮わさ子氏
同、北、中島七丁目北向路次	井上シゲ子氏

同、西、九條町四二〇	富田直平氏
同　新町六五	池內五郎氏
同、九條町四二〇	宮崎清市氏
同、東、道修町五丁目	濱田宗太郎氏
同　東阪町四六一	池上正二郎氏
同　谷町一丁目	松井誠一郎氏
同　豐後町六	安田定助氏
同　北常安町	岡本眞助氏
同　兎我野町	戸田兵衞門氏
同　菅原町二三五	衣川辰藏氏
同　新川崎町三八	伊庭菊次郎氏
同　天神橋筋二丁目	馬場勝太郎氏
同　木幡町電車通半丁東北側へ入	熱田松太郎氏
同　天滿橋筋四ノ四	清水兼松氏
同　安倍川通南一三〇九	山中作藏氏
同　綿屋町八二	角久次郎氏
同　綿屋町綿屋橋東詰角	長田久吉氏
同　府下豐崎村南長柄時計會社	中村市五郎氏
同　鷺洲町字海老江朝日牧場	內田卓雄氏
同、西、三軒家上ノ町六七ノ四九	星野兵太郎氏
同　一六三	保井彌七郎氏
同　一三五	宮本和吉氏
同　本田町通二ノ二	三宅トモ氏
同　本田三番町一七	坂本達吉氏
同　九條町五三二	足田ナナ氏
同、北、下福島三七〇、三樹方	赤堀幹一氏
同　三ノ一七五	伊藤ため氏
同　安治川通上一丁目	大和崎直七氏
同　四	藤澤マツ氏
同　西野田大野町一丁目	有田昌一氏
同　今井町八	星口幸三郎氏
同　南天王寺肥田院町三八五〇	日高直治氏
同	日高久子氏
同、西、北堀江二番丁二九三	西平三郎氏
同　境川町一三七	林喜代彥氏
同　府下池田元新町	瀧澤菊吉氏
神戸市奥平野町三三七ノ一七	三宅フクエ氏
同　中山手通六ノ三二	南岡七重氏
大阪、西、江戸堀北通二ノ二〇〇	多田トシ子氏
同、東、淡路町二ノ七	小泉貢津氏
同　槍屋町一丁目一七	松村モトイ氏
同　石町二丁目	江指タマ氏
同、北、西堀川町五五	二瓶トキ氏
同　木幡町五九	菊池傳三氏
同　源藏町七五	大谷幾三郎氏
同　旅籠町一一	小原是璧氏
同　空心町魚棚北西角	里口常松氏
同、南、末吉橋通二ノ一〇	櫻井俊夫氏
同	田中たれ子氏

兵庫縣武庫郡御影町郡家	山口千代氏
大阪、北、北濱三丁目	松岡すゞ子氏
同、西、新町土佐紙株式會社	中田一二三氏
同　長堀北通四丁目	岸本辰次郎氏
同　市岡町四二ノ五七日下方	砂場七五三氏
同　京町堀若林獨立軒	松田時雄氏
同　京町堀三ノ二〇三	若林耕氏
同　土佐堀堀田商會內	神保愛作氏
同　三條通三丁目二九	小林黍藏氏
同　江戸堀上通二ノ一一二	矢尾彌一郎氏
同、長堀北通四丁目	阪上楠之助氏
同、東、今橋四愛日小學校	高橋季三郎氏
同　豐後町二九坪井遠水方	林昌篤氏
北、上福島北三丁目平野方	繩井あい子氏
同　北三ノ二一〇	林節子氏
同	安場讀次郎氏
同	吉津度氏
同　二二六	遠藤いつの氏
同　愛隣夜學校	宮森作造氏
同　中ノ島六ノ六婦人ホーム	林依子氏
同	小山光子氏
同　七丁目福音畫報社	中島治三郎氏
同　西野田十六町七〇九	廣岡菊松氏
同　金蘭會高等女學校內	渡邊モト氏
同　芝田町一八八	根本福三郎氏
同　玉江町第二高等小學校	初井健太郎氏
同　市外北野梅花女學校內	西山庵氏
同　芝田町一八八	大宮春之助氏
同、大宮方	小針金三郎氏
同、南、天王寺眞法院町村島方	林常次郎氏
同　鹽町一ノ二	內田鎌一郎氏
同　空堀町二五	船井廣藏氏
同　市役所經理課	高久要氏
同　府下西成郡十三警察署官舍	星加彰氏
同　鷺洲町大仁一四一	山口德之助氏
同　神津村字三津屋	末廣三次郎氏
同	吉川しげよ氏
同	野村ミネ氏
同　村	水谷豐氏
同	橋本治氏
同　字今里	村山會藏氏
同　字木川四二	金光萬綠氏
同　博愛社內	野澤民子氏
同　字堀一二一	織間小一郎氏
同　尼ヶ崎宮町三五基督教會	海老澤亮氏
兵庫縣武庫郡御影町	小山幹也氏
和歌山縣伊都郡三好村教員寺	山本卯之助氏
名古屋市傳馬町小網名古屋販賣所	竹中作造氏
大阪、北、上福島北三博愛社事務所	久村總太郎氏

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

廓清會々員名簿

▲正會員之部▼　第五回

三重縣四日市赤堀　三重タイムス社
千葉縣一ノ宮町　淺野はな子氏
神田區美土代町三ノ四青北方　三浦藤吉氏
宇都宮市今泉町七六日宗少年團　松原天琴氏
山形縣飽海郡生石小學校　石川重太氏
牛込區南榎町一八　中川右一郎氏
吳市清水通一七六婦人ホーム　武井要三郎氏
神田區駿河臺高田病院　神生まつ子氏
下谷區御徒町三ノ三二　玉野しげ子氏
東京府下內藤新宿一ノ六一　小林又吉氏
京都市東洞院五條下ル小林リノ方　岩間茂一氏
京都府愛宕郡田中字野上五　三谷寛三氏
靜岡縣靜岡市在安東村北安東　和田榮橘氏
同市新通一丁目　秋山泰次氏
同縣江尻町江尻　竹內新一郎氏
同縣庵原郡辻村　鈴木いれ子氏
同　鈴木眞治氏
同縣江尻町新通　稲井九平氏
同町　八木敬平氏
同町新道　遠藤ゑつ子氏
同縣安倍郡清水町上一丁目　望月菊藏氏
大阪、北常安町大阪病院內　柳谷カタノ氏
同　織田ひで氏
同河內町二ノ二一　森田金之助氏
同岩井町三ノ三二　田中可長氏
同上福島北三ノ一〇八　谷田岩造氏
同中四ノ二一五ノ一　山中豊吉氏
同野崎町五四五　大谷雇太郎氏
同中ノ島三、河原商店　田代正次郎氏
同梅ヶ枝町五九五　尾名口孫三郎氏
同富島町大阪商船會社　岩神武夫氏
同町五三　池田生松氏
同四野田天川町二丁目　金地嘉麿氏
同天神橋筋三ノ一〇　田賀六次郎氏
同上福島三ノ三七一　土田弘徽氏
同天滿防六合同町秋ノ宅　福永護次氏
同上福島二ノ七八五　森政大郎氏
同北三番外一二六　瀨口勇吉氏
同北濱帝國新聞社通信部　深正雄氏
同二ノ二九織工務所　森友秀雄氏
同中島玉江町一井川友七方　神田幸市氏

同綿屋町二〇
同天神橋筋五ノ一五七
同天滿臺屋町島居筋北へ入
同東野田三三七
同玉江町二中島製紙會社
同
同天滿瀧川町表門北へ入
同梅田町三五二
同曾根崎新地一
同今井町一ノ三
同伊路町三六
同空心町二ノ三七八
同中ノ島二高田商會內
同木幡町
同空心町二三八
同南、天王寺眞法院町
同
同難波新地六番町二二
同久寶寺町四ノ一三五
同田島町七二
同西清水町二一二
同西新瓦屋町一ノ一二
同木津大國町三ノ一三五一
同瓦屋町五番丁一福音傳道館
同安堂寺町一今井ユウ方
同天王寺町大道一江上潮方
同細工谷五五〇一
同瀨登町四ノ七七
同難波元町二ノ二七
同二ノ五二二
同難波芦原町川本電球會社
同
同
同
同
同
同
同難波反物町一二五三
同四、土佐堀五丁目中島屋
同三條通四公倉四四號
同九條二番道路六ノ三〇八
同西長堀北通三ノ二ノ二七
同江戸堀南通二ノ一八
同東博勞町二ノ八七小林支店
同北濱二ノ一一〇
同今橋三萬歳生命保險會社
同本町三中谷合名會社
同空堀町三自疆學院內

松野恒藏氏
森茂氏
西村榮次郎氏
石田成夫氏
阪口眞三氏
布施寮三氏
秋田朝一氏
五代嘉夫氏
辻本謙二氏
四碇濟三郎氏
細端準一郎氏
芳本康次郎氏
伊東六郎氏
田中鐵三郎氏
芳木康次郎氏
〃〃〃氏
山中忠臣氏
三好一郎氏
喜野山德三郎氏
谷久吉氏
長澤藤太郎氏
北川源作氏
中谷氏
佐藤寮之助氏
宮崎氏
豐川淀太郎氏
加納とし子氏
立花恒三郎氏
梅本豪雄氏
藤本廣吉氏
山下種吉氏
荻野兵吉氏
得能金太郎氏
加國米吉氏
越田嘉市氏
鈴川末吉氏
片桐增次郎氏
大川政一氏
米谷宮平氏
菊山種男氏
菊原周藏氏
津久井新三郎氏
梁木種三郎氏
福田房之助氏
中村清一郎氏
日野德次氏
佐原一郎氏
服部房之助氏
西島賢式氏

同　小財佐吉氏
同高麗橋筋三井銀行支店　鹽崎秀松氏
同釣鐘町二ノ一三　山脇金次郎氏
同道修町三松野恒藏出張店　藤原大三郎氏
同ウキルミナ女學校　渡邊はな子氏
同西北堀江二番町　中川頊右衛門氏
同江戸堀北通二細井政彥方　今井昭文氏
同九條町一〇六ノ一　梢道平氏
同堺北通三丁目　田中富三郎氏
同西九條上ノ町三二　松原和夫氏
同九條町七二六救世軍　增田輝夫氏
同　園田佐右衛門氏
同　橫谷朝太郎氏
同立賣堀北通一ノ一六　野村岱三郎氏
同薩摩堀北ノ町二二　和氣中展氏
同二三　貫島宗助氏
同花園橋西詰　河原執三郎氏
同境川町一六七小川方　村上寬氏
同四貫島二五九橫井方　近藤稔氏
同川口町一八三一神學校　小村貞治氏
同　松本正雄氏
同泉尾町一五九　石關自助氏
同川口町一三　ホーランド氏
同江戸堀南通二ノ一二〇　福田房之助氏
同二條通四ノ三八　松下文子氏
同京町堀上通一電東通西　橫山安平氏
同　種田常次郎氏
福井縣若狹國遠敷郡遠敷村板橋方　柴崎俊吉氏
大阪、西、三條通二ノ二五　大阪龜一氏
同九條町五ノ四八二　多賀秀數氏
同町中島三工所　寺井儀三郎氏
同江戸堀北通三田中文二方　渡邊泰造氏
同北堀江百三十銀行支店　武藤純一氏
同川口町二二　大藤英硯氏
同　道旗泰誠氏
同　小倉啟之助氏
同　堀內孝志氏
同境川町二七、二宮平次郎方　山本慶行氏
同三軒家下ノ町五八　吉田忠二郎氏
同江戸堀南通二ノ三竹內方　山口傳次郎氏
同三軒家下ノ町二四　篠原亥作氏
同新町通リ二丁目　辻村榮治氏
同東、ツホルミナ女學校　阿竹美津氏
同高麗橋三丁目鳳月堂　河合一夫氏
同平野町二ノ一一　池邊彌一郎氏
同道修町四丁目　奥城武氏
同釣鐘町二ノ五二堀方　四宮孝一氏
同府下東成郡中本村中道三二九　藤田多賀市氏
同鳥取縣東伯郡下郷村大字三保　田中正作氏

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

大阪、東、唐物町四丁目
同、東平野町一〇ノ四四
同、大阪高等工業學校電氣科
同府下南河內郡勝山村大字池尻
兵庫縣尼ヶ崎町屋敷中川方
奈良縣櫻井町
紀伊國粉河町
大阪府下天下茶屋
同、八二三皆川方
同、長門町永田方
同、南濱江妙專寺方
同、西成郡勝間村二〇一
同、鷺洲村南浦江原方
同、血精靈院
同、大仁山上方
同、片山方
同、中津下一二南方
同、光立寺還緣方
同、濱寺公園前
大阪遞管理局
同
同
大阪、東、久寶寺四ノ四
同、西立賣堀裏町七九
同、境川一八八
同、三軒家尋常小學校
同、江之子島東ノ町二六
同、築港公舍
同、築港二條通四ノ三四
同、境川町一八六
同、二七二宮
同、京岡四六前島方
同、古川町二三八
同、新町南通五ノ二五
同、泉尾町一五九
同、市岡町七三ノ六
同、北、堂島小學校
同、西、野田吉野東ノ町三九四
同、南、惠美須町四ノ二二二
同、天王寺茶臼山三六〇一
同、西、九條町二六八
同
同、松島町二丁目
同、東安堂寺町二丁目
同、西境川町二七ノ二
同
同、北、中島七丁目北向路次

竹中清次郎氏
北國八矢雄氏
山本龍太郎氏
田中俊逸氏
榎並茂氏
玉井製裝夫氏
河里彥次郎氏
小野村正二郎氏
三原秀二氏
佐藤伊都子氏
杉崎壯太郎氏
澤村東閨氏
家島藤吉氏
北村忠夫氏
首藤孝一郎氏
山本獻太郎氏
久次米常一郎氏
堀井喜三郎氏
大塚惠氏
平尾繼三郎氏
中義三氏
岩井榮太郎氏
矢部永太郎氏
小笠原高治氏
中村松三郎氏
藤井志盛氏
生山萬策氏
海老名元氏
勝部こま氏
勝部繁太郎氏
成田一氏
仲小路末吉氏
村上小六氏
田頭操氏
北村守光氏
秋山乙吉氏
宮本寬治氏
西川氏
下森歲三氏
木庄ヨネ氏
中村勝三氏
瀨成田靜子氏
藤井辰子氏
土井小正氏
玉川りヨウ氏
藤井入重子氏
二宮平二郎氏
二宮わさ子氏
井上シゲ子氏

同、西、九條町四二〇
同、新町六五
同、九條町四二〇
同、東、道修町五丁目
同、東阪町四六一
同、谷町一丁目
同、豐後町六
同、北常安町
同、兎我野町
同、菅原町二三五
同、新川崎町三八
同、天神橋筋二丁目東側
同、木幡町電車通半丁北へ入
同、天滿橋筋四ノ四
同、安倍川通南一三〇九
同、綿屋町八二
同、綿屋町綿屋橋東詰角
同、府下[illegible]村南長柄時計會社
同、鷺洲町字海老江朝日牧場
同、西、三軒家上ノ町六七ノ四九
同、一六三
同、一三五
同、本田町通二ノ二
同、本田三番町一七
同、九條町五三二
同、北、下福島三七〇、三樹方
同、三ノ一七五
同、安治川通上一丁目
同、四
同、西野田大野町一丁目
同、今井町八
同、南天王寺肥田院町三八五〇
同、西、北堀江二番丁二九三
同、境川町一三七
同、府下池田元新町
神戶市奧平野町三三七ノ一七
同、中山手通六ノ三二
大阪、西、江戶堀北通二ノ二〇〇
同、東、淡路町二ノ七
同、槌屋町一丁目一ノ七
同、石町二丁目
同、北、西堀川町五五
同、木幡町五九
同、源藏町七五
同、旅籠町一一
同、空心町魚棚北西角
同、南、末吉橋通二ノ一〇

富田直平氏
池內五郎氏
宮崎清市氏
濱田宗太郎氏
池上正二郎氏
松井誠一郎氏
安田定助氏
岡本眞助氏
戶田兵衞門氏
衣川辰藏氏
伊庭菊次郎氏
馬場勝太郎氏
熱田松太郎氏
清水榮松氏
山中作藏氏
角久次郎氏
長田久吉氏
中村市五郎氏
內田卓雄氏
星野兵太郎氏
保井彌七郎氏
宮本和吉氏
三宅トモ氏
坂本彥吉氏
足田ナチ氏
赤堀幹一氏
伊藤ため氏
大和崎直七氏
藤澤マツ氏
有田昌一氏
星口幸三郎氏
日高直治氏
日高久子氏
西軍三郎氏
林喜代彥氏
瀧澤菊吉氏
三宅フクエ氏
南岡七重氏
多田トシ子氏
小泉貞津氏
松村モトイ氏
江指タマ氏
二瓶トキ氏
菊池傳三氏
大谷讓三郎氏
小原是聲氏
里口常松氏
櫻井俊夫氏
田中たれ子氏

兵庫縣武庫郡御影町郡家
大阪、北、濱北三丁目
同、西、新町北土佐紙株式會社
同、長堀北通四丁目
同、市岡町四二ノ五七日下方
同、京町堀若林獨立軒
同、京町堀三ノ二〇三
同、土佐堀堀田商會內
同、三條通三丁目二九
同、江戶堀上通二ノ一一二
同、長堀北通四丁目
同、東、今橋四愛日小學校
同、豐後町二九坪井遠水方
北、上福島北三丁目平野方
同、北三ノ二一〇
同
同
同、二二六
同、愛隣夜學校
同、中ノ島六ノ六婦人ホーム
同
同、七丁目稻音畜器社
同、西野田十六町七〇九
同、金蘭會高等女學校內
同、芝田町一八八
同、玉江町第二高等小學校
同、市外北野梅花女學校內
同、芝田町一八八
同、大宮方
同、南、天王寺眞法院町村島方
同、鹽町一ノ二
同、空堀町二五
同、市役所經理課
同、府下西成郡十三警察署官舍
同、鷺洲町大仁一四一
同、神津村字三津屋
同
同
同、村
同
同、字今里
同、字木川四二
同、博愛社內
同、字堀一二一
同、尼ヶ崎宮町三五基督教會
兵庫縣武庫郡御影町
和歌山縣伊都郡三好村教眞寺
名古屋市傳馬町小網名古屋販賣所
大阪、北、上福島北三博愛社事務所

山口千代氏
松岡すゞ子氏
中田一二三氏
岸本辰次郎氏
砂場七五三氏
松田時雄氏
若林耕氏
榊保愛作氏
小林秦藏氏
矢尾彌一郎氏
阪上楠之助氏
高橋季三郎氏
林昌策氏
細井あい子氏
林節子氏
安場讀次郎氏
吉津度氏
遠藤いつの氏
宮森作造氏
林依子氏
小山光子氏
中島治三郎氏
廣岡菊松氏
渡邊モト氏
根本福三郎氏
初井健太郎氏
西山庭氏
大宮春之助氏
小針金三郎氏
林常次郎氏
內田錄一郎氏
船井廣藏氏
高久要氏
星加彰氏
山口德之助氏
末廣三次郎氏
吉川しげよ氏
野村ミネ氏
水谷轉氏
橋本治氏
村山會藏氏
金光萬綠氏
野澤民子氏
織間小一郎氏
海老澤亮氏
小山幹也氏
山本卯之助氏
竹中作造氏
久村德太郎氏

大阪北、角田町三三入藤井利平方　神吉環氏
同、西、新町南通三ノ一九五　三木重太郎氏
同市外北野梅花女學校　牧田とよ子氏
同　細谷はつ子氏
同　寺田さい子氏
同西北堀江三番町一　阪井市松氏
同南堀江上通三ノ七　森田愛之助氏
同三ノ一　太田ツル氏
同竹屋町三三ノ一　岩崎春子氏
同京町堀通二ノ三二　杉原茂氏
同幸町一ノ一二　渡邊勇子氏
同、東、瓦町三丁目二八　北村新吾氏
同　北村花子氏
同　北村方　奥野康雄氏
同横堀五丁目三五　山田粘氏
同本町京都商工銀行支店　横井藏氏
同、北、東梅田町三一五　岡橋晴治氏
同中之町二一二　辰巳砂貞次郎氏
同　辰巳砂美須惠氏
同、南、木津勘助町一ノ二三四　堀口佳七氏
同谷町七丁目五　鮎川逸彦氏
同安堂寺町四丁目　又間クラ子氏
同、北、樋ノ宮上町三ノ一　高木重子氏
同中、江町二五九　村瀬倉吉氏
同、西、本田町三丁目二三一　森雨隆氏
同江戸堀上通一丁目一二三　山本勝治氏
同、東、高麗橋二丁目　宇賀素氏
同三井物産會社　阪田資德氏
同桃山小橋東町三六　中江百合氏
同南玉造三四ノ一十四號　今村[illegible]次郎氏
同北濱一三二　菅沼節[illegible]枝氏
同、南、天王寺北山町五六〇　江藤義資氏
同北上福島北三丁目一七六　伊藤陽三氏
同二〇九　津村ヤス氏
同北一丁目一五五　今井一雄氏
同一五三　近藤馬尾氏
同六二　高小すみ氏
同七二　坪川かよ氏
同西野田仲江町二七五　小西晋一氏
同大野町二番外九三　島田イヨ氏
同海老江町二九四　田中チトセ氏
同海老江北ノ町北請　湯川悠子氏
同南ノ町八六七　品川舜一氏
同府下西成郡鷺洲町海老江南町　小川道子氏
同、東、瓦町四丁目旭日屋方　飯田秀雄氏
同安堂寺町心齋橋北へ入　原田弥一氏
同上宮町上本町八停車場東　井上とよ氏
同、北、西野田今開町五八五　本田武藏氏
同中ノ島宗是町二八　澤井博三氏
同、南、東清水町中橋東へ入南側　木田篤三郎氏

同千年町長春病院內　吉川榮藏氏
同周防町玉屋町角　小幡くら子氏
同鍛屋町西へ入　平井きみ子氏
同安堂寺町四ノ二五　桃谷太三郎氏
同府下天下茶屋五二五　山口金作氏
同、西、南堀江上通四ノ八二　緒方初江氏
同新町緒方病院內　松村ハル氏
同　水谷源江氏
同　釘宮茂氏
京都市寺町荒神口上ル　古屋野宏平氏
大阪北新町一丁目三八　西山靜子氏
同緒方病院內　緒方千代子氏
同北濱三丁目　緒方玉江子氏
同上難波南ノ町二七　奥藤虎文氏
同淡路町四丁目一〇　濱田美政氏
同二丁目五二　福井繁氏
同今橋三丁目堀內病院　毛受小八郎氏
同大手通二丁目六四　宇野總子氏
同船越町二丁目五五　和達瑛子氏
同、南、天王寺眞法院町五三九七　田村辨氏
同伶人町二八四六　小川露子氏
同安堂寺町三ノ六〇　堀惠子氏
京都市寺町荒神口上ル　堀葛尾氏
東京赤坂青山南町一東京育成園　伊藤綱代氏
大阪、西、川口町一八、三二學校　福山泣三氏
同京町堀五丁目和倫館　粟飯原益一氏
同新田町南通三ノ三一　河合鶴三氏
同、北、上福島北二ノ一一三吹田方　宮永寶達氏
同北一ノ一六九　藤田兵太郎氏
同三ノ一一九〇　深田直太郎氏
同西野田玉川一ノ一五四三　田口守任氏
同二ノ三七三　木庭孫彦氏
同西ノ三六一　堤三男氏
同梅田町三〇一　龜田虎雄氏
同、東、味原町六一　松井米太郎氏
同、南、石ヶ辻町五三〇七　藤本壽作氏
同上本町二丁目八　森淑次郎氏
同、西、泉尾町一四　齋藤市次氏
同一五九　難波律氏
同二九　山本丑松氏
同三九一　清水欣氏
同三九三ノ四　寺門廣吉氏
同三軒家上ノ町二六　廣瀬久吉氏
同九條南通二ノ六一二　宮尾猛吉氏
同市岡中學校　石川龍三郎氏
同、南、堀江通四ノ二五　永井たか子氏
同、東、ウヰルミナ女學校前　増磯たま氏
同　谷ふさ氏
同府下南河內富田林　メリーランソン氏

同、北、西野田對込町　菱谷辰三氏
同、南、難波芦原町日本電球會社　三ッ谷巳三郎氏
同　板内友喜氏
同　中文雄氏
同　佐藤七佐氏
同　大飼寅二氏
同　鈴木長二郎氏
同難波芦原町　丸田由次郎氏
同　綠英吉氏
同河村春太郎方　龍渡覺藏氏
同一一九五　閑林治一郎氏
同　熊谷武五郎氏
同一二〇二　佐藤源治氏
同北、本庄横近町一一一八　和田一雄氏
同西、西長堀北通三ノ一一　村井儀三郎氏
同北、上福島北一丁目六二　高山良氏
同堂島船大工町五三　高山園生氏
同曾根崎上三丁目六　永井三順氏
同、南、天王寺石ヶ辻町五三一九　藤野節三氏
同府下西成郡鷺洲町浦江五七五　山本まり氏
同北、堂島中二丁目　室光子氏
同西、京町堀上通五丁目　菊池しな子氏
同立賣堀南通五一井上方　近藤孝氏
同新町通二丁目一三五　山中詮三氏
同靭北通四丁目　村上政太郎氏
同西常安以教會　川口祐雄氏
同南、[illegible]橋會堂內　末永常淨氏
同北、上福島三ノ三〇三　赤澤よし氏
同北三ノ一九〇　橋本定富氏
同西野田大野町一ノ一四六　三浦さき氏
同天王寺逢阪町上ノ町一　須鄕文八郎氏
同天王寺茶臼山七三六　石川久成氏
同市外鶴橋村東小橋三八　大西金次氏
同傳法町帝國製麻會社　吉田淸氏
同西、長堀四丁目　太田つれ氏
同府下泉北郡濱寺公園　桂安太郎氏
同七八號　油谷日シエ氏
同前　片岡盛衛氏
滋寺村今里　桂よれ子氏
同石津　村田新子氏
同諏訪ノ森三光橋　鹽澤花氏
兵庫縣武庫郡魚崎七二九　上田貞次郎氏
同　石田美喜藏氏
同住吉村友高村　石田鶴子氏
同　庄司八重子氏
同香櫨園停留場東南　淺井泰氏
同西ノ宮字西濱　淺井政榮氏
大阪、東、東高津北ノ町六八　山縣千代子氏
　内村よし子氏

大阪東、東高津北の町六八
同森ノ宮東ノ町五二二
同玉造半入町七五六
同谷町三丁目一
同粉川町慈悲病院
同、北、西野田今開町
同府下泉北郡濱寺公園
同東、備後町一二
同
同西、市岡町三五六
同江戸堀一丁目大阪教會
同
同東、廣小路森山寅之助方
同道修町二
同北上福島北一基督教世界社
同中ノ島二日本傳道會社
府下西成郡鷺洲町字大仁
兵庫縣武庫郡御影町師範學校前
同平野方
大阪府下尼ヶ崎別所
兵庫縣武庫郡鳴尾村新在家
神戸市高等商業學校青年會
横濱市西戸部町一六〇
東京小石川區指ヶ谷町八八
大阪、東、北濱四丁目
同
遞信管理局會計課
同西、九條町七二六
同北、下福島日本紡績會社
同
同
同
同府、下西成郡鷺洲町字大仁
同北、上福島北一ノ七二
同西野田玉川二ノ一三九八
同曾根崎新地三ノ二四八
同上福島北三ノ一九〇
同西野田玉川町二丁目
同
同野崎町九五六
同岩井町二ノ一七
同四
同上福島中二ノ三三一
同堂島濱通一ノ四四林大寛方
同堂島中二丁目三一ノ四
同紅梅町八五
同常安町一四一
同常安町一三四

千葉いよ子氏
木村常子氏
秦嘉子氏
伊藤きく氏
池永盛寛氏
辻よれ氏
金田みと氏
小林ユツ氏
小林クニ氏
谷音三郎氏
秋庭勇氏
刈米省三氏
堤とよ氏
高安季氏
岩井義男氏
岡林二三郎氏
野本稔尊氏
和田秀氏
進藤米子氏
龜山昇氏
木村禎橘氏
內藤隆行氏
行友安太郎氏
田代恒氏
石井貞次氏
福井ミカ氏
福井フク氏
田中達三氏
宮內嘉一郎氏
喜多村ツル氏
多賀厚氏
平川友三郎氏
內山憲政氏
野々村可人氏
山本德司氏
伊田力太郎氏
中川春雪氏
池田琴子氏
植田寅之助氏
山崎清八氏
前澤信治氏
田淵清次氏
西條藤七氏
伊達澤江氏
林きさ氏
清民一氏
八上伊三郎氏
桑田繁太郎氏
八十川マス氏

同中島六ノ六婦人ホーム
同六ノ六
同堂島濱通四丁目
同西、江戸堀北通町五ノ三七
同四貫島大阪紡績社宅用
同土佐堀通五ノ三
同江戸堀尋常小學校
同
同
同
同九條町一六七七
同江戸堀女學校內
同江戸堀南通五中浦方
同九條町六五八
同南、天王寺堂ヶ芝町
同上本町七ノ五二六四
同小宮町五三八二
同石ヶ辻町五三一五
同天王寺上ノ宮町五三三五
同石ヶ辻町五三〇七
同眞法院町五四一四
同筆ヶ崎町
同桃山中學校內
同
同
同
同東、京橋二丁目
同北濱三北濱銀行內
同南ノ町一ノ一三
同大川町大阪毎日新聞社
同府下東成郡東天下茶屋二〇八
香川縣高松市一番町二二
堺市市ノ町東一丁目一四
同車ノ町
同
同
同
同
同大町東一丁目二
同南旅籠町六九
同寺地町二二
同小林寺町
同車ノ町堺教會內
市ノ町東一丁目
同東六丁目
同大濱
同甲斐町東二丁目四
同
大町西二丁

山崎靜子氏
婦人ホーム氏
新海愛子氏
宮澤眞喜氏
森田セイ子氏
谷知一氏
吉村リヤウ氏
和田コイノ氏
中野セイ氏
鈴木キクコ氏
水田長藏氏
島田繁太郎氏
番野熊吉氏
森田殿丸氏
鈴木勝太郎氏
布施萬氏
德山安太郎氏
石村保三郎氏
岡村增太郎氏
田村慶助氏
工藤重五郎氏
田中橘吉氏
淺野勇氏
小澤廣氏
田和三郎氏
田中善十郎氏
牧野駒太郎氏
北村德太郎氏
淺野房次郎氏
堀ヒサノ氏
片倉藤次郎氏
山本眠虎氏
西田長三郎氏
小澤千代藏氏
岡村平兵衛氏
佐竹喜代藏氏
御座氏
吉浦久次郎氏
萬代幾太郎氏
村由松
ーキ氏
奈良忠氏
西林知雄氏
大枝庄三郎氏
永田トキ氏
太田春子氏
藤浦タケ氏
鈴木壽一氏
白石和三氏

堺市市ノ町東三丁
同甲斐町東二丁
同熊野町西二丁
同市ノ町東一丁
同榎木
同市ノ町山ノ口大枝方
同甲斐町西一丁目二三
同榮橋通二丁目四
同中ノ町東三丁目五
神戸市山本通四ノ一五六
兵庫縣須磨一ノ谷バンダボット方
同
大阪府下泉北郡艸部九四
同濱寺公園
同
同石神病院
同
同
同泉北郡濱寺村下石津
同伯太村黑鳥九〇四
同國府村小田三二
同天王寺石神病院內
同
同
同
同
同
同
同
高知縣高岡郡須崎新町
大阪、東、高麗橋三丁目二九
同南、天王寺六萬體町六四四
同西、南堀江通四丁目
同九條町四
同南堀江上通五ノ九
同北堀江下通四ノ五〇
同一六
同南日本橋筋東一ノ四六七一
同
同立賣堀北通一ノ一二
同南、玉屋町二〇一
同西、江戸堀南通二丁目
同幸町一丁目八
同北、西堀川町二八
同西、靱上の町五

大野ヌイ氏
黑田リヨ氏
田邊三喜藏氏
宮庄二賢氏
小松原孝氏
原あい氏
川西タツ氏
梶田八重氏
西尾榮子氏
中村友子氏
鷲見ハナ氏
バンダボット氏
川俣保氏
荒木富氏
中村たま氏
阪口しづ氏
高木善三氏
今井富治氏
和田龍氏
山本ミキエ氏
露口原太郎氏
安藤仙之助氏
田鍋武臣氏
清田績氏
靑木誠之氏
鈴木芳夫氏
高橋信氏
北原了氏
金澤豐江氏
上島益三郎氏
高橋清省氏
大池大阪支氏
中村芳子氏
井上直治氏
中尾玉之助氏
村上うの氏
荒木竹次郎氏
西川正太郎氏
和田完氏
今西稲太郎氏
松本俊吉氏
高橋さく氏
中村美登志氏
延藤人士氏

正誤

前號賛助員名簿中、藤野露子(二口)とあるは(四口)の誤に付正誤す

大擴張紙面倍加

婦人讀物中の米の飯

◎創刊十二年を機とし四月五日發行の第六百廿號より一大發展を遂ぐ

週刊 婦女新聞

毎週金曜發行

毎號十六頁

十二年間一週も怠らず同一の態度を以て婦人界女子教育界の爲めに貢獻し來りたる本紙は今回一大飛躍を遂げ四月第一金曜より從來の八頁の紙面を倍加して十六頁とし「婦人讀物中の米の飯なり」との評を一層事實に現はし來れり試に内容の一端を說明せんか、先づ二面**社說**は十二年間一貫せる穩健着實の主義を以てあらゆる婦人界女子教育界の問題を評論し**雜報**は婦人界女學界の出來事の外宮廷政治經濟外交軍事等に關する事も國民として心得ざるべからざる重大事項は總て網羅し**名家訪問**の欄には常に各博士大家の意見を掲げ**特別寄書**には社友諸氏の精神修養若しくは實驗談あり**子供欄**には毎號無邪氣なる小兒の言行を集め**婦人の告白**には悲觀樂觀懺悔談等各種階級の讀者が自白を紹介し**趣味口演**には貞女烈婦等の事跡を新講談風に面白く綴り**家庭と實益**には家庭に關する有形無形の實際的記事を載せ**書報及寫眞**は記事と相俟つて實益と趣味を助け今後の紙面に大なる光彩を添ふべく**健康顧問**の復活は讀者の衞生上の質問に答へ**文藝**、**通俗科學**、**其他の**各欄も面目を**一新**すべし

△**定價改正**

一部金六錢（郵送料共）

三ヶ月（十三部）前金七拾貳錢

半ヶ年分壹圓參拾五錢

一ヶ年貳圓六拾錢（郵送料共）

英語普及會編

ナシヨナル

ナシヨナルリーダーを袖珍形に縮刷せしもの

卷一、二、合本定價二十五錢（送料四錢）

卷三 定價三十錢（送料二錢）卷四近刊

東京小石川區大和町九番地 **婦女新聞社** 電話番町一三〇六 振替東京二八〇七

取次 東京堂東海堂北隆館 良明堂其他全國書店

開拓者

五月號要目（一部十二錢 一ヶ年一圓廿錢）

▲平信徒論……小松文學士
▲ブラウニングの思想……齋藤文學士
▲宗教家の一大奮發を要す……向軍治
▲忘るべからざる事件……綱島佳吉
▲つみくさ一束……今井壽道
▲わが本多先生の記念……岡田哲藏
▲故ノックス教授につきて……柏井園
▲血染の信號……栗原文學士
▲我國文學の現狀……上田文學博士
▲國交と宗教……元田博士
▲日本文壇の一現象……近藤眞畫
▲劇としての法華經と約翰傳……安部淸藏
◉綱澤先生と新島先生（大探索）◉獨乙土產（村上幸多）
◉浮田博士訪問記◉本多先生の追懐（平澤、中田兩氏）

東京神田美土代町三丁目

日本基督教青年會同盟發行

◉鐵道界最大多數の讀者を有する本誌を見よ

益富政助主幹

鐵道青年

毎月一回一日發行 四六二倍版六四頁

定價僅か五錢 郵稅金壹錢

◉原內務大臣曰く『鐵道青年會は布教を以て直接の目的とは爲さゞるも、然も其宗教的信念に重きをおき、以て精神の修養に努め、身心の慰安を講じ、且つ知識の研磨、家庭の和樂等を奬勵しつゝあるは是れ實に**時代の要求に適應**せるものにして其日々に隆盛に赴きつゝあるは、余の最も喜ぶ所なり』云々

◉前鐵道院總裁後藤男は曰く『抑も鐵道青年會に對しては余は設立の當初より大に此擧を賛し、親しく之が發會式に臨みたる事もありて、本會の進步發達は余の欣喜に堪へざる所なり。會員の多きこと優に**日本第一の青年會**なりと稱せらる』云々

基督教信徒たる鐵道員鐵道傳道に志ある基督教牧師宣教師、並に苟しくも社會政策社會事業に注目するものは必ずや本誌を一讀せざるべからず。

東京市神田區美土代町三の三青年會館內 **鐵道青年會本部** 振替貯金口座東京一九五三三番

THE NANKOIN HOSPITAL

CHIGASAKI, SAGAMI, (Near Ōiso)

Under the Management of

Dr. K. TAKATA

Within a few minutes from the Chigasaki R. W. Station.

HEALTHIEST SITUATION FACING THE
SAGAMI BAY FINE SCENERY

Telephone: CHIGASAKI No. 2.

▲入院は診斷後隨時需に應ず

松田、林、峰間三副長は目下當院に在勤、

東洋內科醫院

電本 八八八番（病院用）
八九八番（自宅用）

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 **高田畊安**

南湖院

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町柏海濱、停車場より半里

電 チガサキ 二番

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤、

▲但し院長渡歐中副長代理す

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）
（明治四十五年五月十五日納本）（毎月一回十五日發行）

